

コスト構造の実態調査

MAFF

Ministry of Agriculture,
Forestry and Fisheries

農林水産省

令和7年6月

新事業・食品産業部

<目次1>

- (1) コスト調査の概要
- (2) 米
 - ✓ 北海道・東北産その1
 - ✓ 北海道・東北産その2
 - ✓ 北海道・東北産その3
 - ✓ 北海道・東北産その4
 - ✓ 北海道・東北産その5
 - ✓ 関東産
 - ✓ 北陸産
 - ✓ 全国平均
- (3) キャベツ
 - ✓ 春作・関東産
 - ✓ 夏秋作・関東産その1
 - ✓ 夏秋作・関東産その2
 - ✓ 関東産・加工用
 - ✓ 九州産・加工用
- (4) たまねぎ
 - ✓ 九州産
- (5) 大玉トマト
 - ✓ 夏秋・施設作：北海道・東北産 その1
 - ✓ 夏秋・施設作：北海道・東北産 その2
 - ✓ 冬春・施設作：関東産
 - ✓ 冬春・施設作：九州産
- (6) ピーマン
 - ✓ 冬春・施設作：関東産
 - ✓ 冬春・施設作：九州産
 - ✓ 夏秋・露地作：北海道・東北産
- (7) ばれいしょ
 - ✓ 中晩生・九州産
- (8) しょうが
 - ✓ 中国・四国産
- (9) にんじん
 - ✓ 秋作：北海道・東北産その1
 - ✓ 秋作：北海道・東北産その2
 - ✓ 春夏作：関東産
 - ✓ 春夏作：中国・四国産
- (10) ぶどう
 - ✓ 関東産
- (11) みかん
 - ✓ 露地作：中国・四国産
 - ✓ 露地作：九州産
- (12) りんご
 - ✓ 露地作：北海道・東北産その1
 - ✓ 露地作：北海道・東北産その2
 - ✓ 露地作：関東産その1
 - ✓ 露地作：関東産その2

<目次 2>

- (13) すだち
 - ✓ 露地作：中国・四国産
 - ✓ 施設作：中国・四国産
- (14) 茶
 - ✓ 関東産
- (15) こんにゃく
- (16) 飲用牛乳
 - ✓ 低価格帯
 - ✓ 高価格帯
- (17) 鶏卵
- (18) 食肉
 - ✓ 牛肉
 - ✓ 豚肉
 - ✓ 鶏肉
- (19) 豆腐・納豆
 - ✓ 豆腐
 - ✓ 納豆

コスト調査の概要



【目的】 主な農産物・食品について、生産から消費に至る**食料システムの各段階**における、生産・製造・流通等に要する**費用や取引価格**を調査し、食料システム全体での**コスト構造を明確化**する。

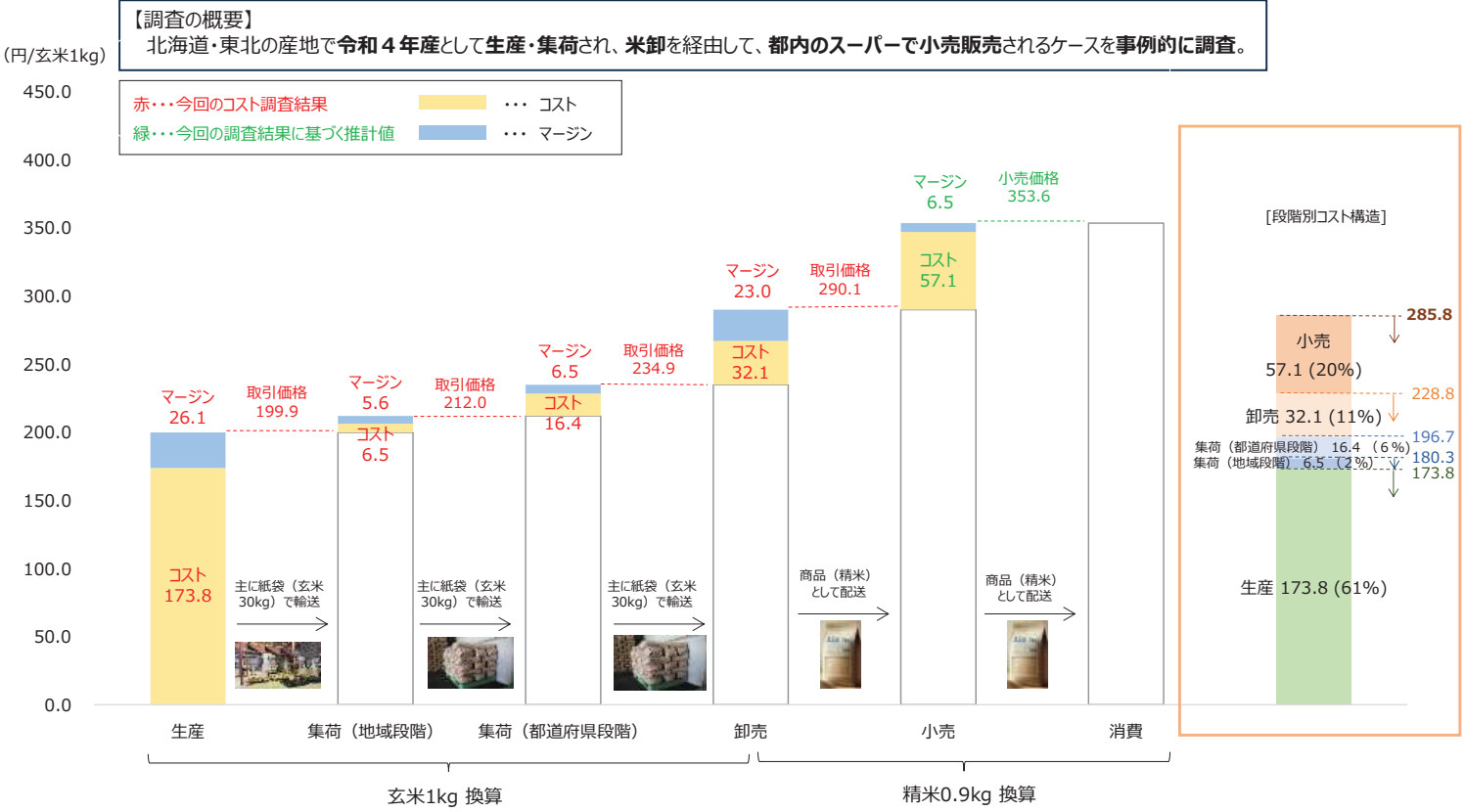
【調査方法】 食料システムの各段階の事業者に対して、アンケート調査や聞き取り調査等を実施。特定の流通ルートを対象とする**「モデルケース」の調査**。（統計調査ではない。）

生産：農業者、農協など
集出荷：農協など
製造：メーカー
卸売：東京近郊の卸売事業者
仲卸：東京近郊の仲卸事業者
小売：首都圏の食品スーパー

※データの精査等により、数値が修正される場合があります。

米

米（北海道・東北産その１）のコスト調査結果



注１：各段階のコストの数値は、「令和５年度適正取引推進に向けた調査（コスト等に関する調査）」（農林水産省委託事業）を基に作成。当該調査では、首都圏向けに流通するもののコスト構造を事例的に調査。
注２：生産段階は令和４年産米の生産費統計の北海道・東北管内の生産費のうち費用合計、支払利子、支払地代から算出。集荷（地域段階）は北海道・東北管内のJA、集荷（都道府県段階）は系統都道府県組織を対象としたアンケート調査、卸売段階は首都圏を商圏とする複数の米卸を対象としたアンケート調査、小売のコストとマージンは都内を商圏とする小売事業者を対象としたアンケート調査結果を基にした。
注３：四捨五入の関係で、合計しても合わないことがある。

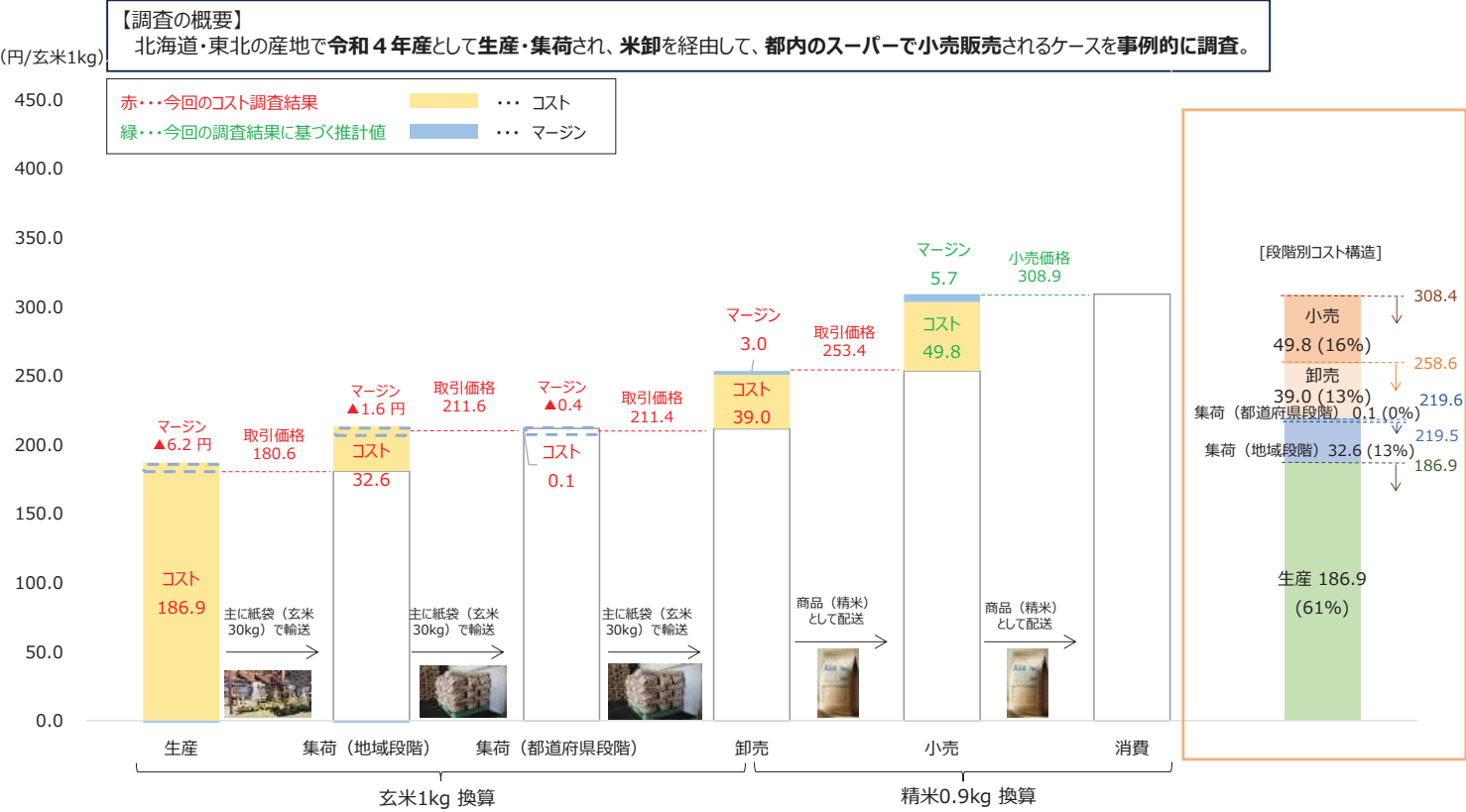
米のコスト構造の各段階内訳（北海道・東北産その１）

- 【調査の概要】
北海道・東北の産地で令和４年産として生産・集荷され、米卸を経由して、都内のスーパーで小売販売されるケースを事例的に調査。
- 【留意事項】
- 売り手（販売価格）と買い手（仕入価格）で当該産地・銘柄の回答結果（取引価格）が異なる場合、両者の平均値を取引価格とする等の補正を行っている。
 - コスト・マージン、取引価格については、基本的には令和４年産米の仕入・販売価格及び当該取扱に伴い生じるコストを調査・集計しているが、卸売段階と小売段階のコスト・マージンについては令和５年度を対象に調査した結果である。また、米卸は同一年度に複数産地・複数年産の米を取り扱う（当該卸が取り扱う米（全年産・産地・銘柄）のコストは一律に同値と仮定している）等の仮定を置いて算出しており、コスト・マージンを各年産・産地・銘柄・用途毎に正確に割り当てているものではない。
 - そのため、用途や性質等による価格戦略の違い（小売用NB、小売用PB、業務用等）を考慮せず、一律に販売価格、コストを算出していることや、実際の取引においては、売り手から買い手に対して、販売促進費や各種協賛金等を別途支払っている場合もあるが、今回の調査ではそれらを把握できていない等に留意が必要。

(単位) 円/玄米 1 kg

生産段階		集荷（地域段階）		集荷（都道府県段階）		卸売		小売	
物財費	125.7	保管料・入出庫料	1.9	保管料・入出庫料	0.0	製造原価	12.4	輸送費	6.1
うち種苗費	2.9	運賃	0.0	運賃	11.1	うち横持運賃	0.5	人件費	27.4
肥料費	16.0	集約保管等経費	0.2	集約保管等経費	1.5	原料保管料	0.4	水道光熱費	2.8
農業薬剤費（購入）	12.6	安心安全等検査費用	0.1	安心安全等検査費用	0.0	包装容器代	3.1	その他経費	20.8
光熱動力費	9.8	その他、流通保管に係る経費	0.2	その他、流通保管に係る経費	1.0	地代家賃・賃借料	0.5		
その他の諸材料費	7.0	集荷・販売等に係る経費	0.8	集荷・販売等に係る経費	0.0	水道光熱費	1.6		
土地改良及び水利費	9.3	農産物検査手数料	1.0	農産物検査手数料	0.0	その他、製造原価	6.3		
賃借料及び料金	18.5	集荷・販売にかかるその他経費	0.0	集荷・販売にかかるその他経費	-0.5	販売費および一般管理費	19.7		
物件税及び公課諸負担	3.6	米穀事業に関する部署・施設におけるコスト	2.4	米穀事業に関する部署・施設における事務費	3.3	うち輸送費	9.6		
建物費	4.8	うち水道光熱費	0.5			商品保管料	0.5		
自動車費	3.6	減価償却費	0.1			人件費	5.8		
農機具費	36.7	修繕費	0.1			減価償却費	1.0		
生産管理費	0.9	人件費	1.7			その他、販売管理費	2.9		
労働費	43.3								
支払利子	0.7								
支払地代	4.1								
合計	173.8	合計	6.5	合計	16.4	合計	32.1	合計	57.1

米（北海道・東北産その２）のコスト調査結果



注１：各段階のコストの数値は、「令和５年度適正取引推進に向けた調査（コスト等に関する調査）」（農林水産省委託事業）を基に作成。当該調査では、首都圏向けに流通するものコスト構造を事例的に調査。
注２：生産段階は令和４年産米の生産費統計の北海道・東北管内の生産費のうち費用合計、支払利子、支払地代から算出。集荷（地域段階）は北海道・東北管内のJA、集荷（都道府県段階）は系統都道府県組織を対象としたアンケート調査、卸売段階は首都圏を商圏とする複数の米卸を対象としたアンケート調査、小売のコストとマージンは都内を商圏とする小売事業者を対象としたアンケート調査結果を基にした。
注３：四捨五入の関係で、合計しても合わないことがある。

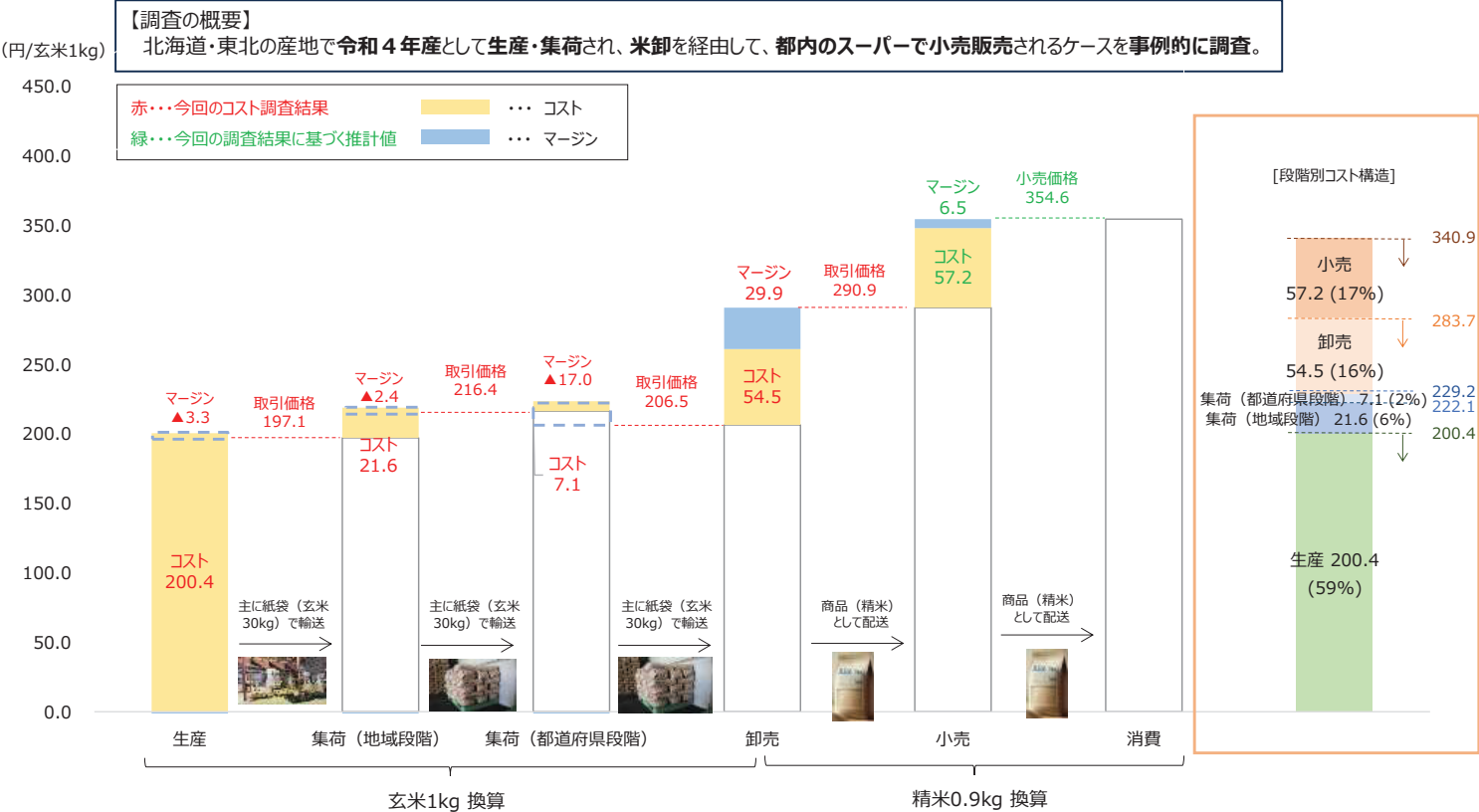
米のコスト構造の各段階内訳（北海道・東北産その２）

- 【調査の概要】
北海道・東北の産地で令和４年産として生産・集荷され、米卸を経由して、都内のスーパーで小売販売されるケースを事例的に調査。
- 【留意事項】
- 売り手（販売価格）と買い手（仕入価格）で当該産地・銘柄の回答結果（取引価格）が異なる場合、両者の平均値を取引価格とする等の補正を行っている。
 - コスト・マージン、取引価格については、基本的には令和４年産米の仕入・販売価格及び当該取扱に伴い生じるコストを調査・集計しているが、卸売段階と小売段階のコスト・マージンについては令和５年度を対象に調査した結果である。また、米卸は同一年度に複数産地・複数年産の米を取り扱う（当該卸が取り扱う米（全年産・産地・銘柄）のコストは一律に同値と仮定している）等の仮定を置いて算出しており、コスト・マージンを各年産・産地・銘柄・用途毎に正確に割り当てているものではない。
 - そのため、用途や性質等による価格戦略の違い（小売用NB、小売用PB、業務用等）を考慮せず、一律に販売価格、コストを算出していることや、実際の取引においては、売り手から買い手に対して、販売促進費や各種協賛金等を別途支払っている場合もあるが、今回の調査ではそれらを把握できていない等に留意が必要。

(単位) 円/玄米 1 kg

生産段階		集荷（地域段階）		集荷（都道府県段階）		卸売		小売	
物財費	133.7	保管料・入出庫料	8.3	保管料・入出庫料	0.0	製造原価	15.1	輸送費	5.3
うち種苗費	4.7	運賃	4.1	運賃	0.0	うち機持運賃	0.6	人件費	23.9
肥料費	21.1	集約保管等経費	3.5	集約保管等経費	0.0	原料保管料	0.5	水道光熱費	2.5
農業薬剤費	9.6	安心安全等検査費用	0.0	安心安全等検査費用	0.0	包装容器代	3.8	その他経費	18.2
光熱動力費	8.8	その他、流通保管に係る経費	-0.4	その他、流通保管に係る経費	0.0	地代家賃・賃借料	0.6		
その他の諸材料費	2.8	集荷・販売等に係る経費	3.4	集荷・販売等に係る経費	0.0	水道光熱費	1.9		
土地改良及び水利費	6.6	農産物検査手数料	1.3	農産物検査手数料	0.0	その他、製造原価	7.7		
賃借料及び料金	27.3	集荷・販売にかかるその他経費	0.5	集荷・販売にかかるその他経費	0.0	販売費および一般管理費	23.9		
物件税及び公課諸負担	3.8	部署・施設おける全体のコスト	11.9	米穀事業に関する部署・施設おける事務費	0.0	うち輸送費	11.6		
建物費	8.1	うち水道光熱費	4.7			商品保管料	0.6		
自動車費	6.0	減価償却費	3.9			人件費	7.1		
農機具費	34.1	修繕費	1.2			減価償却費	1.2		
生産管理費	0.7	人件費	2.0			その他、販売管理費	3.5		
労働費	41.8								
支払利子	0.4								
支払地代	11.0								
合計	186.9	合計	32.6	合計	0.1	合計	39.0	合計	49.8

米（北海道・東北産その３）のコスト調査結果



注１：各段階のコストの数値は、「令和５年度適正取引推進に向けた調査（コスト等に関する調査）」（農林水産省委託事業）を基に作成。当該調査では、首都圏向けに流通するもののコスト構造を事例的に調査。
注２：生産段階は令和４年産米の生産費統計の北海道・東北管内の生産費のうち費用合計、支払利子、支払地代から算出。集荷（地域段階）は北海道・東北管内のJA、集荷（都道府県段階）は系統都道府県組織を対象としたアンケート調査、卸売段階は首都圏を商圏とする複数の米卸を対象としたアンケート調査、小売のコストとマージンは都内を商圏とする小売事業者を対象としたアンケート調査結果を基にした。
注３：四捨五入の関係で、合計しても合わないことがある。
注４：取引価格、マージンの集計に一部誤りがあったため修正（令和７年12月）

米のコスト構造の各段階内訳（北海道・東北産その３）

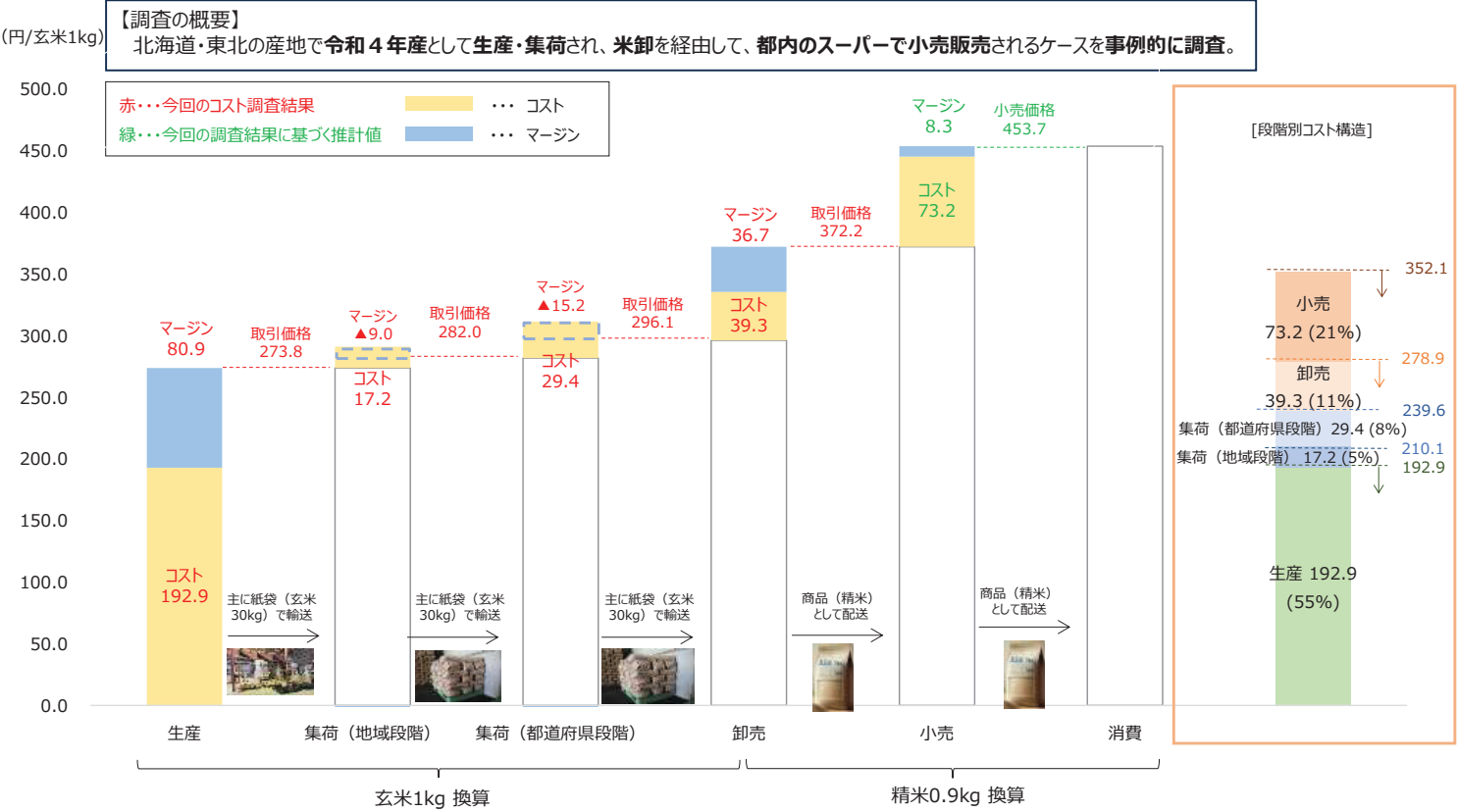
- 【調査の概要】
北海道・東北の産地で令和４年産として生産・集荷され、米卸を経由して、都内のスーパーで小売販売されるケースを事例的に調査。
- 【留意事項】
- 売り手（販売価格）と買い手（仕入価格）で当該産地・銘柄の回答結果（取引価格）が異なる場合、両者の平均値を取引価格とする等の補正を行っている。
 - コスト・マージン、取引価格については、基本的には令和４年産米の仕入・販売価格及び当該取扱に伴い生じるコストを調査・集計しているが、卸売段階と小売段階のコスト・マージンについては令和５年度を対象に調査した結果である。また、米卸は同一年度に複数産地・複数年産の米を取り扱う（当該卸が取り扱う米（全年産・産地・銘柄）のコストは一律に同値と仮定している）等の仮定を置いて算出しており、コスト・マージンを各年産・産地・銘柄・用途毎に正確に割り当てているものではない。
 - そのため、用途や性質等による価格戦略の違い（小売用NB、小売用PB、業務用等）を考慮せず、一律に販売価格、コストを算出していることや、実際の取引においては、売り手から買い手に対して、販売促進費や各種協賛金等を別途支払っている場合もあるが、今回の調査ではそれらを把握できていない等に留意が必要。

(単位) 円/玄米 1 kg

生産段階		集荷（地域段階）		集荷（都道府県段階）		卸売	小売
物財費	133.9	保管料・入出庫料	0.5	保管料・入出庫料	2.3	製造原価	21.1
うち種苗費	4.1	運賃	0.2	運賃	1.2	うち横持運賃	0.9
肥料費	15.1	集約保管等経費	0.0	集約保管等経費	0.4	原料保管料	0.7
農業薬剤費	16.6	安心安全等検査費用	0.7	安心安全等検査費用	0.1	包装容器代	5.2
光熱動力費	9.9	その他、流通保管に係る経費	0.2	その他、流通保管に係る経費	0.3	地代家賃・賃借料	0.8
その他の諸材料費	3.7	集荷・販売等に係る経費	0.1	集荷・販売等に係る経費	1.1	水道光熱費	2.7
土地改良及び水利費	9.8	農産物検査手数料	4.3	農産物検査手数料	0.0	その他、製造原価	10.8
賃借料及び料金	26.6	集荷・販売にかかるその他経費	0.8	集荷・販売にかかるその他経費	1.1	販売費および一般管理費	33.3
物件税及び公課諸負担	2.8	部署・施設おける全体のコスト	15.0	米穀事業に関する部署・施設おける事務費	0.8	うち輸送費	16.2
建物費	7.1	うち水道光熱費	3.1			商品保管料	0.8
自動車費	2.9	減価償却費	4.1			人件費	9.9
農機具費	34.4	修繕費	1.1			減価償却費	1.6
生産管理費	0.9	人件費	6.7			その他、販売管理費	4.8
労働費	56.5						
支払利子	0.1						
支払地代	9.9						
合計	200.4	合計	21.6	合計	7.1	合計	54.5
						合計	57.2

※ コストの集計に一部誤りがあったため修正（令和７年12月）

米（北海道・東北産その４）のコスト調査結果



注１：各段階のコストの数値は、「令和５年度適正取引推進に向けた調査（コスト等に関する調査）」（農林水産省委託事業）を基に作成。当該調査では、首都圏向けに流通するもののコスト構造を事例的に調査。
注２：生産段階は令和４年産米の生産費統計の北海道・東北管内の生産費のうち費用合計、支払利子、支払地代から算出。集荷（地域段階）は北海道・東北管内のJA、集荷（都道府県段階）は系統都道府県組織を対象としたアンケート調査、卸売段階は首都圏を商圏とする複数の米卸を対象としたアンケート調査、小売のコストとマージンは都内を商圏とする小売事業者を対象としたアンケート調査結果を基にした。
注３：四捨五入の関係で、合計しても合わないことがある。

米のコスト構造の各段階内訳（北海道・東北産その４）

【調査の概要】
北海道・東北の産地で令和４年産として生産・集荷され、米卸を経由して、都内のスーパーで小売販売されるケースを事例的に調査。

【留意事項】

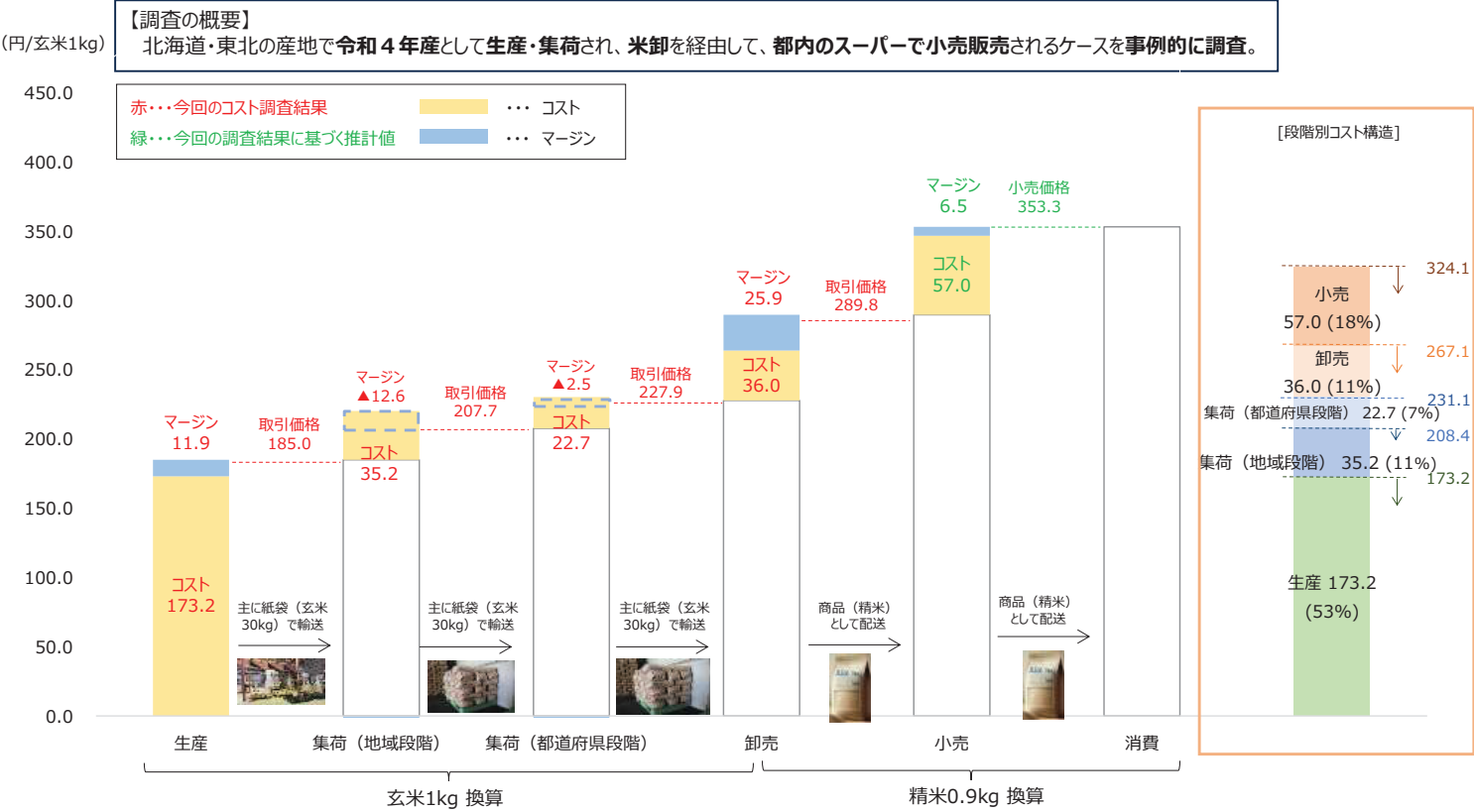
- 売り手（販売価格）と買い手（仕入価格）で当該産地・銘柄の回答結果（取引価格）が異なる場合、両者の平均値を取引価格とする等の補正を行っている。
- コスト・マージン、取引価格については、基本的には令和４年産米の仕入・販売価格及び当該取扱に伴い生じるコストを調査・集計しているが、卸売段階と小売段階のコスト・マージンについては令和５年度を対象に調査した結果である。また、米卸は同一年度に複数産地・複数年産の米を取り扱う（当該卸が取り扱う米（全年産・産地・銘柄）のコストは一律に同値と仮定している）等の仮定を置いて算出しており、コスト・マージンを各年産・産地・銘柄・用途毎に正確に割り当てているものではない。
- そのため、用途や性質等による価格戦略の違い（小売用NB、小売用PB、業務用等）を考慮せず、一律に販売価格、コストを算出していることや、実際の取引においては、売り手から買い手に対して、販売促進費や各種協賛金等を別途支払っている場合もあるが、今回の調査ではそれらを把握できていない等に留意が必要。

（単位） 円/玄米 1 kg

生産段階	集荷（地域段階）	集荷（都道府県段階）	卸売	小売
物財費	136.4	保管料・入出庫料 4.9	保管料・入出庫料 8.8	製造原価 15.2
うち種苗費	4.5	運賃 2.6	運賃 6.3	うち横持運賃 0.6
肥料費	21.4	集約保管等経費 0.0	集約保管等経費 2.6	人件費 35.1
農業薬剤費	14.7	安心安全等検査費用 0.1	安心安全等検査費用 0.1	水道光熱費 3.6
光熱動力費	10.4	その他、流通保管に係る経費 0.4	その他、流通保管に係る経費 2.2	その他 26.7
その他の諸材料費	4.3	集荷・販売等に係る経費 0.1	集荷・販売等に係る経費 2.3	地代家賃・賃借料 0.6
土地改良及び水利費	9.1	農産物検査手数料 0.9	農産物検査手数料 0.0	水道光熱費 1.9
賃借料及び料金	18.8	集荷・販売にかかるその他経費 3.3	集荷・販売にかかるその他経費 5.2	その他、製造原価 7.8
物件税及び公課諸負担	3.5	部署・施設おける全体のコスト 5.0	米穀事業に関する部署・施設おける事務費 1.9	販売費および一般管理費 24.1
建物費	5.6	うち水道光熱費 1.5		うち輸送費 11.7
自動車費	4.4	減価償却費 2.3		商品保管料 0.6
農機具費	39.1	修繕費 0.7		人件費 7.1
生産管理費	0.9	人件費 0.4		減価償却費 1.2
労働費	47.1			その他、販売管理費 3.5
支払利子	0.6			
支払地代	8.8			
合計	192.9	合計 17.2	合計 29.4	合計 39.3
				合計 73.2

※ コストの集計に一部誤りがあったため修正（令和７年12月）

米（北海道・東北産その５）のコスト調査結果



注１：各段階のコストの数値は、「令和５年度適正取引推進に向けた調査（コスト等に関する調査）」（農林水産省委託事業）を基に作成。当該調査では、首都圏向けに流通するもののコスト構造を事例的に調査。
注２：生産段階は令和４年産米の生産費統計の北海道・東北管内の生産費のうち費用合計、支払利子、支払地代から算出。集荷（地域段階）は北海道・東北管内のJA、集荷（都道府県段階）は系統都道府県組織を対象としたアンケート調査、卸売段階は首都圏を商圏とする複数の米卸を対象としたアンケート調査、小売のコストとマージンは都内を商圏とする小売事業者を対象としたアンケート調査結果を基にした。
注３：四捨五入の関係で、合計しても合わないことがある。

米のコスト構造の各段階内訳（北海道・東北産その５）

【調査の概要】
北海道・東北の産地で令和４年産として生産・集荷され、米卸を経由して、都内のスーパーで小売販売されるケースを事例的に調査。

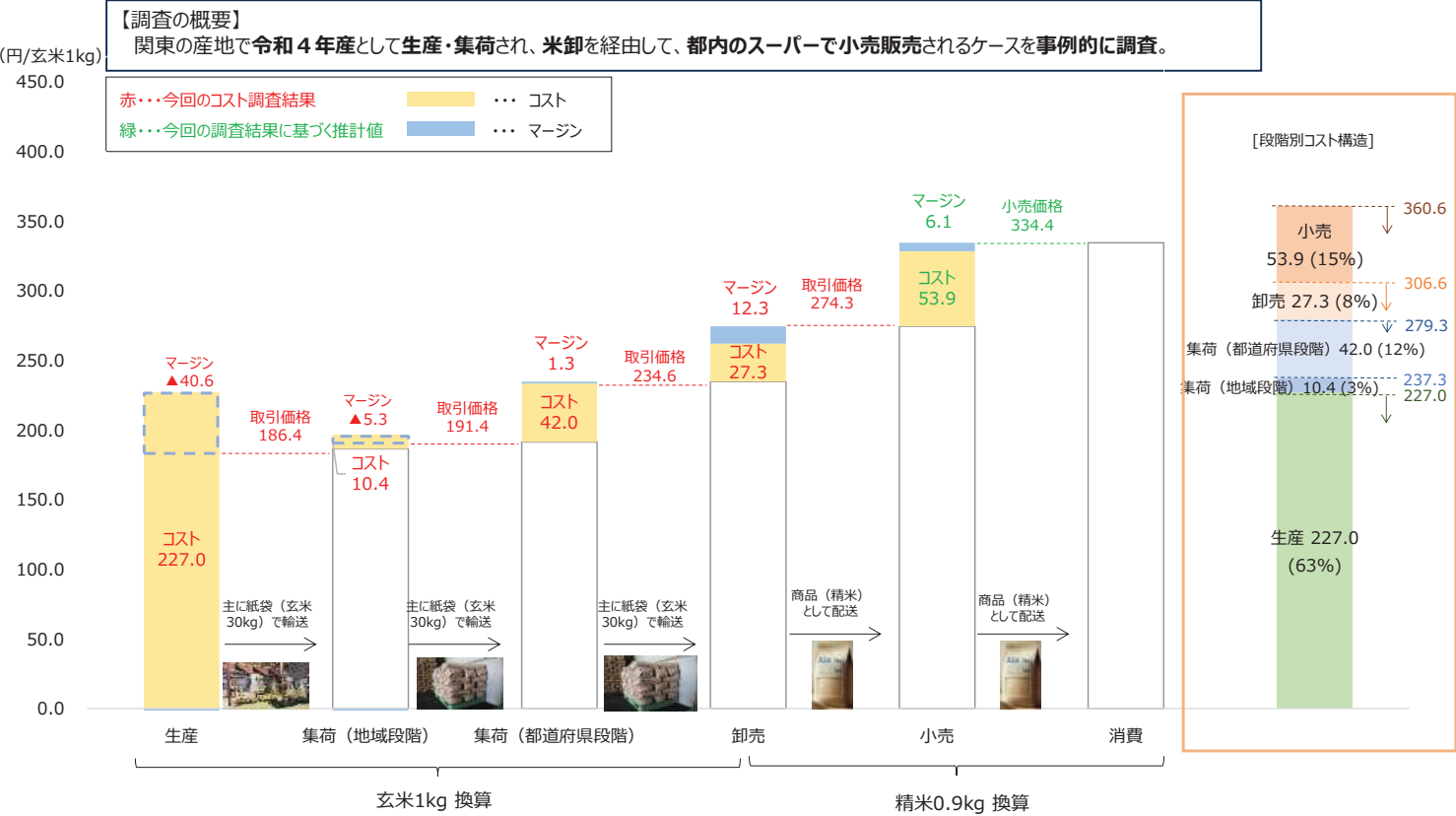
【留意事項】

- 売り手（販売価格）と買い手（仕入価格）で当該産地・銘柄の回答結果（取引価格）が異なる場合、両者の平均値を取引価格とする等の補正を行っている。
- コスト・マージン、取引価格については、基本的には令和４年産米の仕入・販売価格及び当該取扱に伴い生じるコストを調査・集計しているが、卸売段階と小売段階のコスト・マージンについては令和５年度を対象に調査した結果である。また、米卸は同一年度に複数産地・複数年産の米を取り扱う（当該卸が取り扱う米（全年産・産地・銘柄）のコストは一律に同値と仮定している）等の仮定を置いて算出しており、コスト・マージンを各年産・産地・銘柄・用途毎に正確に割り当てているものではない。
- そのため、用途や性質等による価格戦略の違い（小売用NB、小売用PB、業務用等）を考慮せず、一律に販売価格、コストを算出していることや、実際の取引においては、売り手から買い手に対して、販売促進費や各種協賛金等を別途支払っている場合もあるが、今回の調査ではそれらを把握できていない等に留意が必要。

(単位) 円/玄米 1 kg

生産段階		集荷（地域段階）		集荷（都道府県段階）		卸売		小売	
物財費	120.8	保管料・入出庫料	5.6	保管料・入出庫料	7.3	製造原価	14.0	輸送費	6.1
うち種苗費	5.1	運賃	3.5	運賃	7.3	うち横持運賃	0.6	人件費	27.3
肥料費	15.2	集約保管等経費	0.8	集約保管等経費	1.1	原料保管料	0.5	水道光熱費	2.8
農業薬剤費	15.9	安心安全等検査費用	0.2	安心安全等検査費用	0.2	包装容器代	3.5	その他経費	20.8
光熱動力費	10.3	その他、流通保管に係る経費	0.8	その他、流通保管に係る経費	1.7	地代家賃・賃借料	0.6		
その他の諸材料費	2.4	集荷・販売等に係る経費	4.9	集荷・販売等に係る経費	3.3	水道光熱費	1.8		
土地改良及び水利費	7.5	農産物検査手数料	0.7	農産物検査手数料	0.0	その他、製造原価	7.1		
賃借料及び料金	15.5	集荷・販売にかかるその他経費	7.2	集荷・販売にかかるその他経費	1.8	販売費および一般管理費	22.1		
物件税及び公課諸負担	2.5	部署・施設おける全体のコスト	11.4	米穀事業に関する部署・施設おける事務費	0.0	うち輸送費	10.7		
建物費	4.5	うち水道光熱費	1.2			商品保管料	0.5		
自動車費	5.3	減価償却費	4.4			人件費	6.5		
農機具費	35.7	修繕費	0.5			減価償却費	1.1		
生産管理費	0.8	人件費	5.3			その他、販売管理費	3.2		
労働費	45.3								
支払利子	0.3								
支払地代	6.8								
合計	173.2	合計	35.2	合計	22.7	合計	36.0	合計	57.0

米（関東産）のコスト調査結果



注1：各段階のコストの数値は、「令和5年度適正取引推進に向けた調査（コスト等に関する調査）」（農林水産省委託事業）を基に作成。当該調査では、首都圏向けに流通するもののコスト構造を事例的に調査。
注2：生産段階は令和4年産米の生産費統計の関東管内の60kg当たり生産費のうち費用合計、支払利子、支払地代から算出。集荷（地域段階）は関東管内のJA、集荷（都道府県段階）は系統都道府県組織を対象としたアンケート調査、卸売段階は首都圏を商圏とする複数の米卸を対象としたアンケート調査、小売のコストとマージンは都内を商圏とする小売事業者を対象としたアンケート調査結果を基にした。
注3：四捨五入の関係で、合計しても合わないことがある。

米のコスト構造の各段階内訳（関東産）

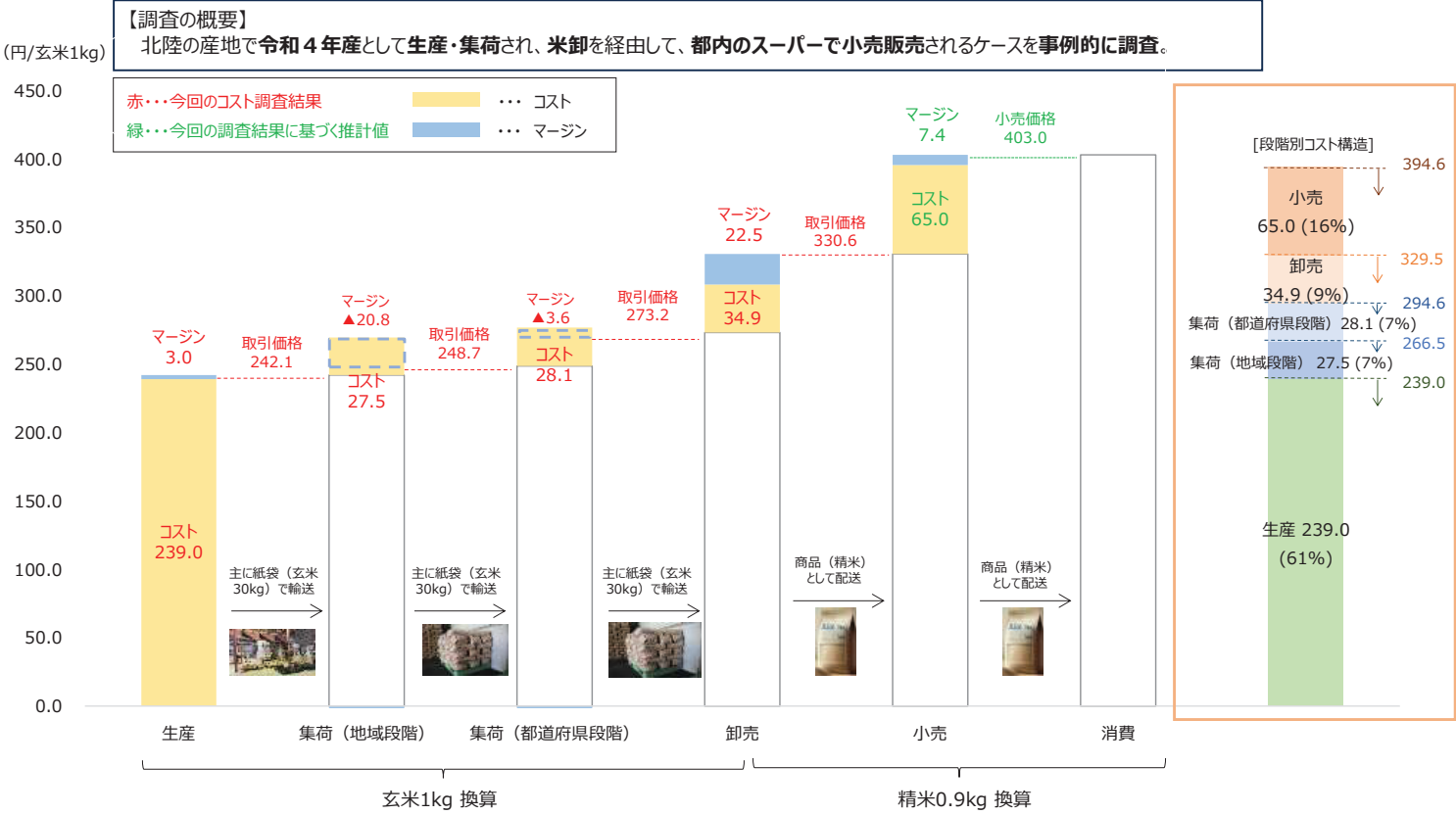
【調査の概要】
関東の産地で令和4年産として生産・集荷され、米卸を経由して、都内のスーパーで小売販売されるケースを事例的に調査。

【留意事項】

- 売り手（販売価格）と買い手（仕入価格）で当該産地・銘柄の回答結果（取引価格）が異なる場合、両者の平均値を取引価格とする等の補正を行っている。
- コスト・マージン、取引価格については、基本的には令和4年産米の仕入・販売価格及び当該取扱に伴い生じるコストを調査・集計しているが、卸売段階と小売段階のコスト・マージンについては令和5年度を対象に調査した結果である。また、米卸は同一年度に複数産地・複数年産の米を取り扱う（当該卸が取り扱う米（全年産・産地・銘柄）のコストは一律に同値と仮定している）等の仮定を置いて算出しており、コスト・マージンを各年産・産地・銘柄・用途毎に正確に割り当てているものではない。
- そのため、用途や性質等による価格戦略の違い（小売用NB、小売用PB、業務用等）を考慮せず、一律に販売価格、コストを算出していることや、実際の取引においては、売り手から買い手に対して、販売促進費や各種協賛金等を別途支払っている場合もあるが、今回の調査ではそれらを把握できていない等に留意が必要。

(単位) 円/玄米1kg									
生産段階		集荷（地域段階）		集荷（都道府県段階）		卸売		小売	
物財費	144.5	保管料・入出庫料	1.1	保管料・入出庫料	12.6	製造原価	10.6	輸送費	5.7
うち種苗費	7.5	運賃	0.0	運賃	3.9	うち横持運賃	0.4	人件費	25.9
肥料費	20.7	集約保管等経費	0.0	集約保管等経費	2.3	原料保管料	0.4	水道光熱費	2.7
農業薬剤費	14.2	安心安全等検査費用	0.0	安心安全等検査費用	0.1	包装容器代	2.6	その他経費	19.7
光熱動力費	13.2	その他、流通保管に係る経費	0.3	その他、流通保管に係る経費	2.8	地代家賃・賃借料	0.4		
その他の諸材料費	3.2	集荷・販売等に係る経費	2.0	集荷・販売等に係る経費	1.4	水道光熱費	1.3		
土地改良及び水利費	4.9	農産物検査手数料	0.4	農産物検査手数料	0.0	その他、製造原価	5.4		
貸借料及び料金	15.5	集荷・販売にかかるその他経費	0.0	集荷・販売にかかるその他経費	17.7	販売費および一般管理費	16.7		
物件税及び公課諸負担	3.3	部署・施設おける全体のコスト	6.6	米穀事業に関する部署・施設おける事務費	1.2	うち輸送費	8.1		
建物費	8.3	うち水道光熱費	2.3			商品保管料	0.4		
自動車費	4.4	減価償却費	1.8			人件費	5.0		
農機具費	48.7	修繕費	0.7			減価償却費	0.8		
生産管理費	0.8	人件費	1.7			その他、販売管理費	2.4		
労働費	74.5								
支払利子	0.0								
支払地代	8.0								
合計	227.0	合計	10.4	合計	42.0	合計	27.3	合計	53.9

米（北陸産）のコスト調査結果



注1：各段階のコストの数値は、「令和5年度適正取引推進に向けた調査（コスト等に関する調査）」（農林水産省委託事業）を基に作成。当該調査では、首都圏向けに流通するもののコスト構造を事例的に調査。
注2：生産段階は令和4年産米の生産費統計の北陸管内の60kg当たり生産費のうち費用合計、支払利子、支払地代から算出。集荷（地域段階）は北陸管内のJA、集荷（都道府県段階）は系統都道府県組織を対象としたアンケート調査、卸売段階は首都圏を商圏とする複数の米卸を対象としたアンケート調査、小売のコストとマージンは都内を商圏とする小売事業者を対象としたアンケート調査結果を基にした。
注3：四捨五入の関係で、合計しても合わないことがある。

米のコスト構造の各段階内訳（北陸産）

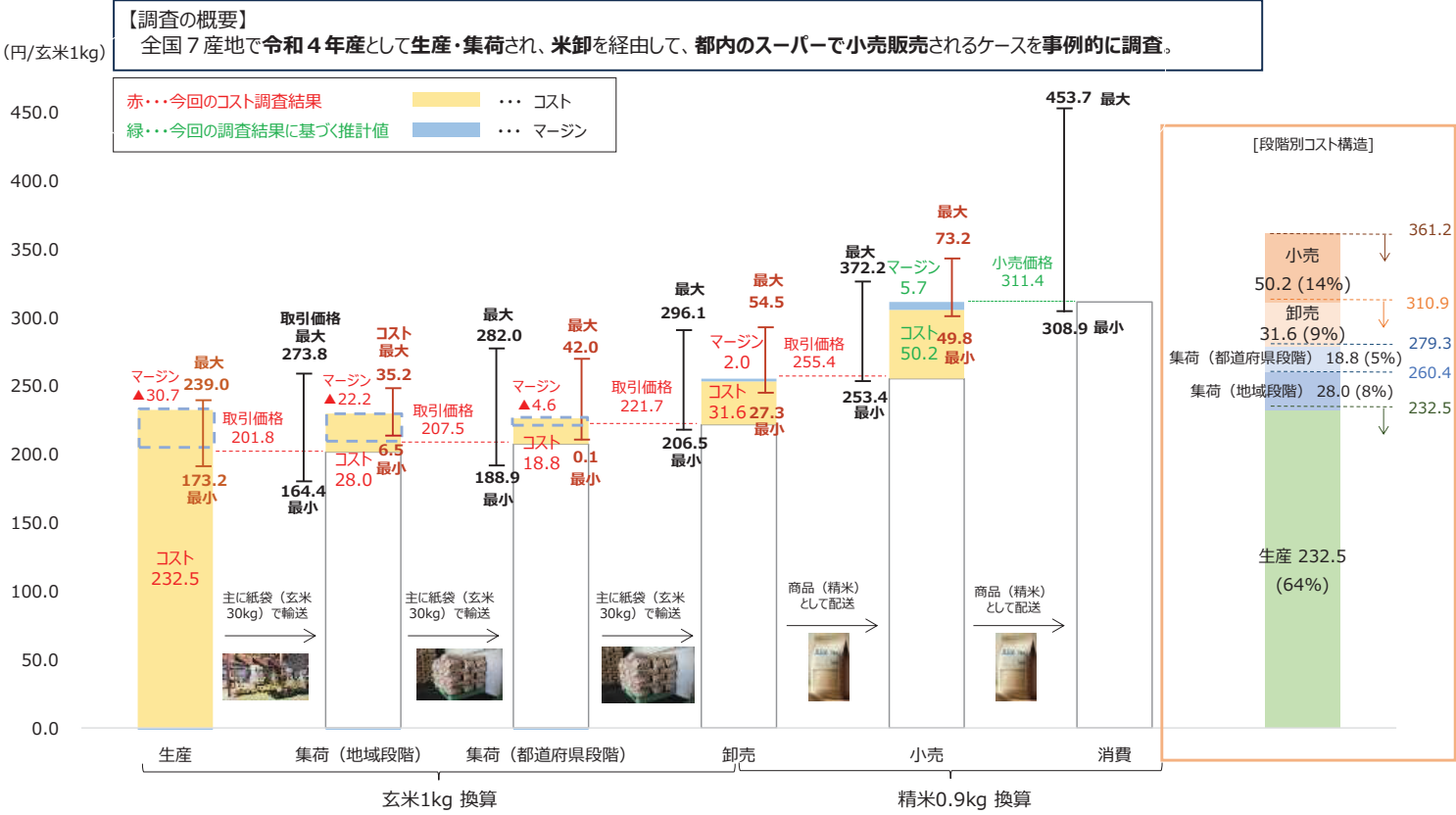
【調査の概要】
北陸の産地で令和4年産として生産・集荷され、米卸を経由して、都内のスーパーで小売販売されるケースを事例的に調査。

【留意事項】

- 売り手（販売価格）と買い手（仕入価格）で当該産地・銘柄の回答結果（取引価格）が異なる場合、両者の平均値を取引価格とする等の補正を行っている。
- コスト・マージン、取引価格については、基本的には令和4年産米の仕入・販売価格及び当該取扱に伴い生じるコストを調査・集計しているが、卸売段階と小売段階のコスト・マージンについては令和5年度を対象に調査した結果である。また、米卸は同一年度に複数産地・複数年産の米を取り扱う（当該卸が取り扱う米（全年産・産地・銘柄）のコストは一律に同値と仮定している）等の仮定を置いて算出しており、コスト・マージンを各年産・産地・銘柄・用途毎に正確に割り当てているものではない。
- そのため、用途や性質等による価格戦略の違い（小売用NB、小売用PB、業務用等）を考慮せず、一律に販売価格、コストを算出していることや、実際の取引においては、売り手から買い手に対して、販売促進費や各種協賛金等を別途支払っている場合もあるが、今回の調査ではそれらを把握できていない等に留意が必要。

(単位) 円/玄米1kg									
生産段階		集荷（地域段階）		集荷（都道府県段階）		卸売		小売	
物財費	171.9	保管料・入出庫料	5.8	保管料・入出庫料	11.0	製造原価	13.5	輸送費	6.9
うち種苗費	12.9	運賃	1.2	運賃	8.9	うち横持運賃	0.6	人件費	31.2
肥料費	19.4	集約保管等経費	0.0	集約保管等経費	2.4	原料保管料	0.5	水道光熱費	3.2
農業薬剤費	13.2	安心安全等検査費用	0.0	安心安全等検査費用	0.0	包装容器代	3.4	その他経費	23.7
光熱動力費	10.2	その他、流通保管に係る経費	1.3	その他、流通保管に係る経費	1.2	地代家賃・賃借料	0.5		
その他の諸材料費	2.6	集荷・販売等に係る経費	1.7	集荷・販売等に係る経費	2.9	水道光熱費	1.7		
土地改良及び水利費	14.1	農産物検査手数料	0.9	農産物検査手数料	0.0	その他、製造原価	6.9		
賃借料及び料金	37.4	集荷・販売にかかるその他経費	0.0	集荷・販売にかかるその他経費	0.1	販売費および一般管理費	21.4		
物件税及び公課諸負担	3.9	部署・施設における全体のコスト	16.6	米穀事業に関する部署・施設における事務費	1.6	うち輸送費	10.4		
建物費	9.6	うち水道光熱費	3.4			商品保管料	0.5		
自動車費	5.9	減価償却費	7.5			人件費	6.3		
農機具費	41.8	修繕費	1.6			減価償却費	1.0		
生産管理費	1.0	人件費	4.2			その他、販売管理費	3.1		
労働費	50.7								
支払利子	0.4								
支払地代	16.2								
合計	239.0	合計	27.5	合計	28.1	合計	34.9	合計	65.0

米（全国平均）のコスト調査結果



注 1：各段階のコストの数値は、「令和 5 年度適正取引推進に向けた調査（コスト等に関する調査）」（農林水産省委託事業）を基に作成。当該調査では、首都圏向けに流通するもののコスト構造を事例的に調査。
注 2：生産段階は令和 4 年産米の生産費統計の全国の60kg当たり生産費のうち費用合計、支払利子、支払地代から算出。集荷（地域段階）は全国 7 産地のJA、集荷（都道府県段階）は系統都道府県組織を対象としたアンケート調査、卸売段階は首都圏を商圏とする複数の米卸を対象としたアンケート調査、小売のコストとマージンは都内を商圏とする小売事業者を対象としたアンケート調査結果を基にした。
注 3：四捨五入の関係で、合計しても合わないことがある。

米のコスト構造の各段階内訳（全国平均）

【調査の概要】
全国 7 産地で令和 4 年産として生産・集荷され、米卸を経由して、都内のスーパーで小売販売されるケースを事例的に調査。

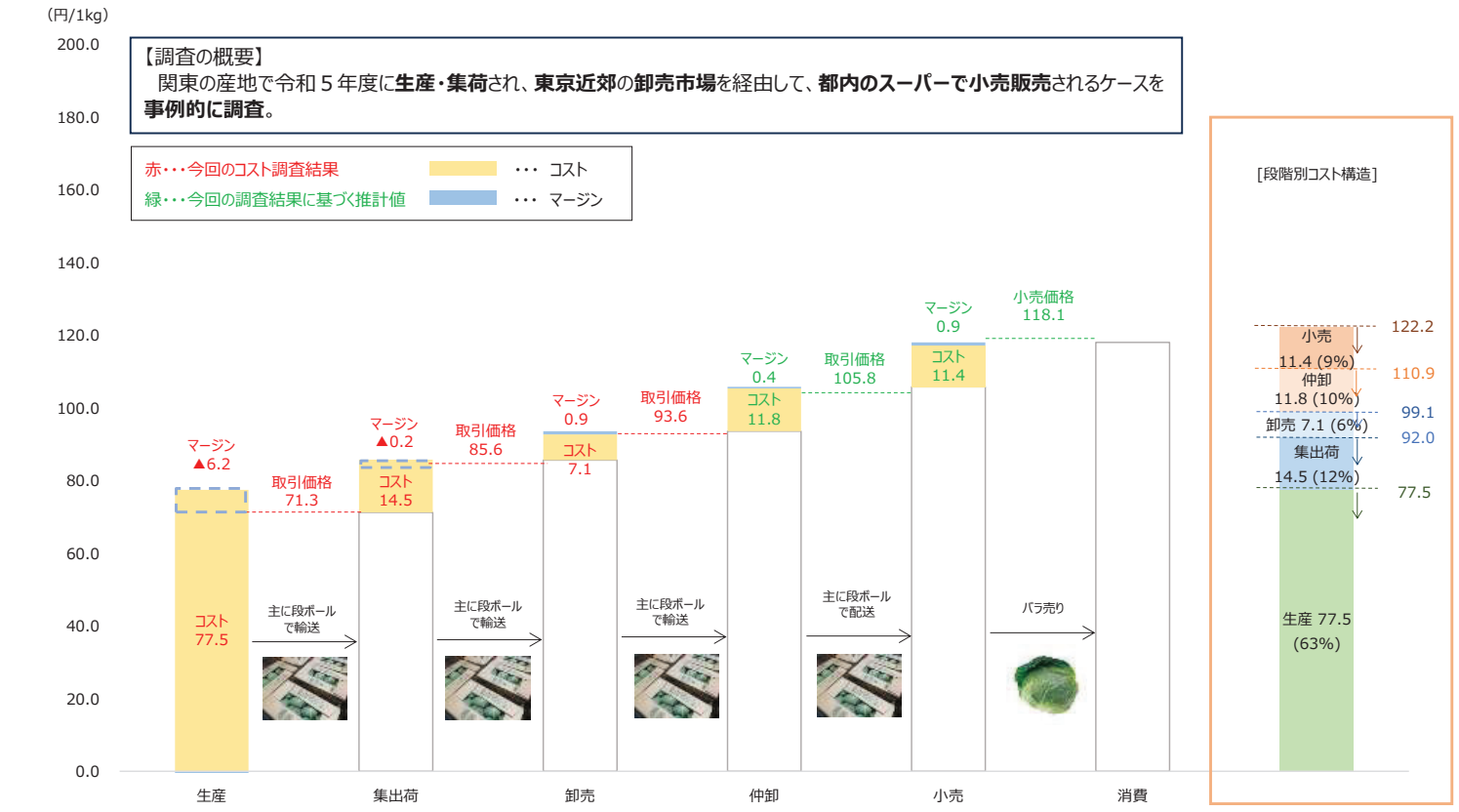
【留意事項】

- 売り手（販売価格）と買い手（仕入価格）で当該産地・銘柄の回答結果（取引価格）が異なる場合、両者の平均値を取引価格とする等の補正を行っている。
- コスト・マージン、取引価格については、基本的には令和 4 年産米の仕入・販売価格及び当該取扱に伴い生じるコストを調査・集計しているが、卸売段階と小売段階のコスト・マージンについては令和 5 年度を対象に調査した結果である。また、米卸は同一年度に複数産地・複数年産の米を取り扱う（当該卸が取り扱う米（全年産・産地・銘柄）のコストは一律に同値と仮定している）等の仮定を置いて算出しており、コスト・マージンを各年産・産地・銘柄・用途毎に正確に割り当てているものではない。
- そのため、用途や性質等による価格戦略の違い（小売用NB、小売用PB、業務用等）を考慮せず、一律に販売価格、コストを算出していることや、実際の取引においては、売り手から買い手に対して、販売促進費や各種協賛金等を別途支払っている場合もあるが、今回の調査ではそれらを把握できていない等に留意が必要。

(単位) 円/玄米 1 kg									
生産段階		集荷（地域段階）		集荷（都道府県段階）		卸売		小売	
物財費	156.6	保管料・入出庫料	4.6	保管料・入出庫料	5.5	製造原価	12.3	輸送費	5.3
うち種苗費	7.9	運賃	2.2	運賃	6.0	うち横持運賃	0.5	人件費	24.1
肥料費	19.3	集約保管等経費	0.7	集約保管等経費	1.3	原料保管料	0.4	水道光熱費	2.5
農業薬剤費	15.1	安心安全等検査費用	0.1	安心安全等検査費用	0.1	包装容器代	3.0	その他経費	18.3
光熱動力費	11.0	その他、流通保管に係る経費	0.6	その他、流通保管に係る経費	1.1	地代家賃・賃借料	0.5		
その他の諸材料費	3.8	集荷・販売等に係る経費	3.5	集荷・販売等に係る経費	1.8	水道光熱費	1.5		
土地改良及び水利費	7.8	農産物検査手数料	0.9	農産物検査手数料	0.0	その他、製造原価	6.3		
賃借料及び料金	24.4	集荷・販売にかかるその他経費	3.7	集荷・販売にかかるその他経費	3.0	販売費および一般管理費	19.4		
物件税及び公課諸負担	3.9	部署・施設おける全体のコスト	11.6	米穀事業に関する部署・施設おける事務費	0.0	うち輸送費	9.4		
建物費	8.0	うち水道光熱費	2.6			商品保管料	0.5		
自動車費	6.7	減価償却費	4.0			人件費	5.7		
農機具費	47.9	修繕費	0.9			減価償却費	0.9		
生産管理費	0.9	人件費	4.1			その他、販売管理費	2.8		
労働費	66.1								
支払利子	0.4								
支払地代	9.3								
合計	232.5	合計	28.0	合計	18.8	合計	31.6	合計	50.2

キャベツ

キャベツ（春作・関東産）のコスト調査結果



注1：各段階のコストの数値は、「令和5年度適正取引推進に向けた調査（コスト等に関する調査）」（農林水産省委託事業）を基に作成。当該調査では、首都圏向けに流通するもののコスト構造を事例的に調査。
注2：生産段階・集出荷段階は関東管内のJAを対象としたアンケート調査。卸売段階は開設者（東京都及び横浜市）HPの市場統計情報を活用するとともに、首都圏の卸売市場を対象にアンケート調査。仲卸段階及び小売段階は、取引価格に仲卸及び小売の粗利額・コストの内訳から推計。仲卸のコストとマージンは「仲卸業者の経営状況2022」を基に、小売のコストとマージンは都内を商圏とする小売事業者を対象としたアンケート調査結果を基にした。
注3：四捨五入の関係で、合計しても合わないことがある。

キャベツ（春作・関東産）のコスト構造の各段階内訳

【調査の概要】
関東の産地で令和5年度に生産・集荷され、東京近郊の卸売市場を経由して、都内のスーパーで小売販売されるケースを事例的に調査。

【留意事項】

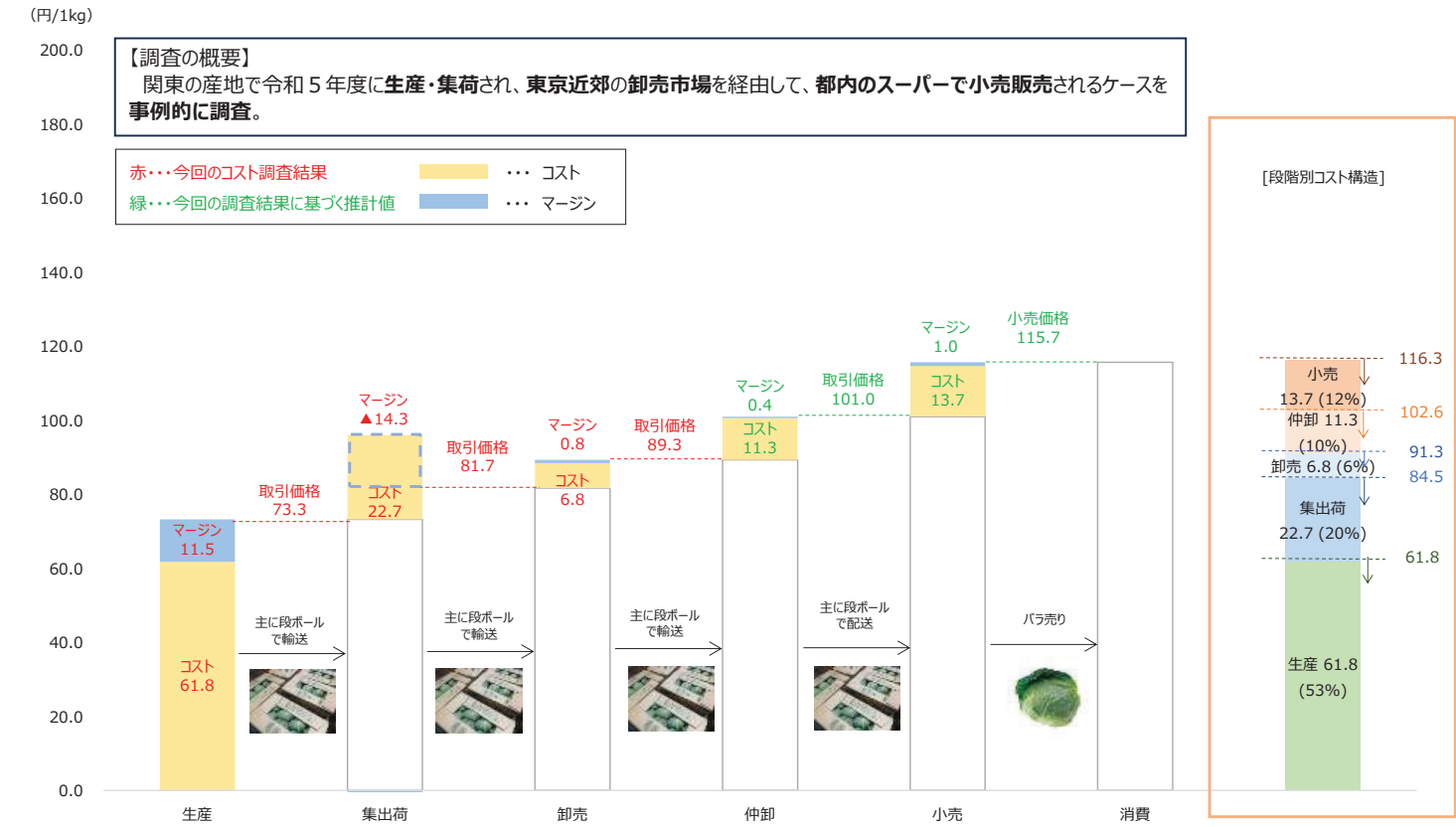
- 野菜は地域の気象条件を活かした産地リレーより周年供給されており、同一品目でも栽培条件、栽培方法等が異なり、生産コストは様々。このような野菜の特性を踏まえると一律に示すことは難しいため、特定の地域や企業アンケートをもとに作成したもの。
- 具体的には、生産・集出荷段階は、特定のJAを対象にアンケート調査（地域の栽培暦や行政の経営指標等も参照）。卸売・仲卸段階は、開設者（東京都及び横浜市）公表の市場統計情報を活用。小売段階は、複数の小売事業者から聴取した粗利率等に取り引価格を乗じて販売価格を推計。このため、仲卸価格や小売価格は直接的に実額で把握できた訳ではなく、統計調査の小売価格とは大きく乖離。

（単位）円/kg

生産段階		集出荷		卸売		仲卸		小売	
物財費	31.4	選別、包装及び荷造労働費	0.0	完納奨励金	1.0	人件費	5.6	輸送費	1.1
うち種苗費	2.6	包装・荷造材料費	0.0	人件費総額	3.1	その他	6.3	人件費	5.1
肥料費	4.8	出荷運送料・積込料	9.0	水道光熱費	0.1			水道光熱費	0.6
農業費	5.4	上部団体手数料	1.0	賃借料・市場使用料	0.6			その他の経費	4.6
諸材料費	0.7	卸売市場出荷に係る負担金(うち、卸売市場出荷分)	0.0	物流関係費	0.8				
減価償却費	12.0	集荷費	0.0	その他費用	1.5				
小農具費	0.6	予冷費	3.8						
動力光熱費	0.7	保管料	0.0						
修繕費	1.2	処分費	0.0						
共済掛金 等	2.9	販売促進費	0.0						
租税公課	0.5	減価償却費	0.1						
賃料料金	0.0	保守修繕費	0.1						
支払地代	3.1	水道光熱費	0.4						
土地改良費	1.5	人件費	0.1						
労務費	20.7								
生産者負担の包装費	12.7								
生産者負担の荷造経費	7.8								
生産者負担の輸送費	0.3								
合計	77.5	合計	14.5	合計	7.1	合計	11.8	合計	11.4

※ 四捨五入の関係で小計と内訳は必ずしも一致しない。

キャベツ（夏秋作・関東産その１）のコスト調査結果



注 1：各段階のコストの数値は、「令和５年度適正取引推進に向けた調査（コスト等に関する調査）」（農林水産省委託事業）を基に作成。当該調査では、首都圏向けに流通するもののコスト構造を事例的に調査。
注 2：生産段階・集出荷段階は関東管内のJAを対象としたアンケート調査。卸売段階は開設者（東京都及び横浜市）HPの市場統計情報を活用するとともに、首都圏の卸売市場を対象にアンケート調査。仲卸段階及び小売段階は、取引価格に仲卸及び小売の粗利額・コストの内訳から推計。仲卸のコストとマージンは「仲卸業者の経営状況2022」を基に、小売のコストとマージンは都内を商圏とする小売事業者を対象としたアンケート調査結果を基にした。
注 3：四捨五入の関係で、合計しても合わないことがある。

キャベツ（夏秋作・関東産その１）のコスト構造の各段階内訳

【調査の概要】
関東の産地で令和５年度に生産・集荷され、東京近郊の卸売市場を経由して、都内のスーパーで小売販売されるケースを事例的に調査。

【留意事項】

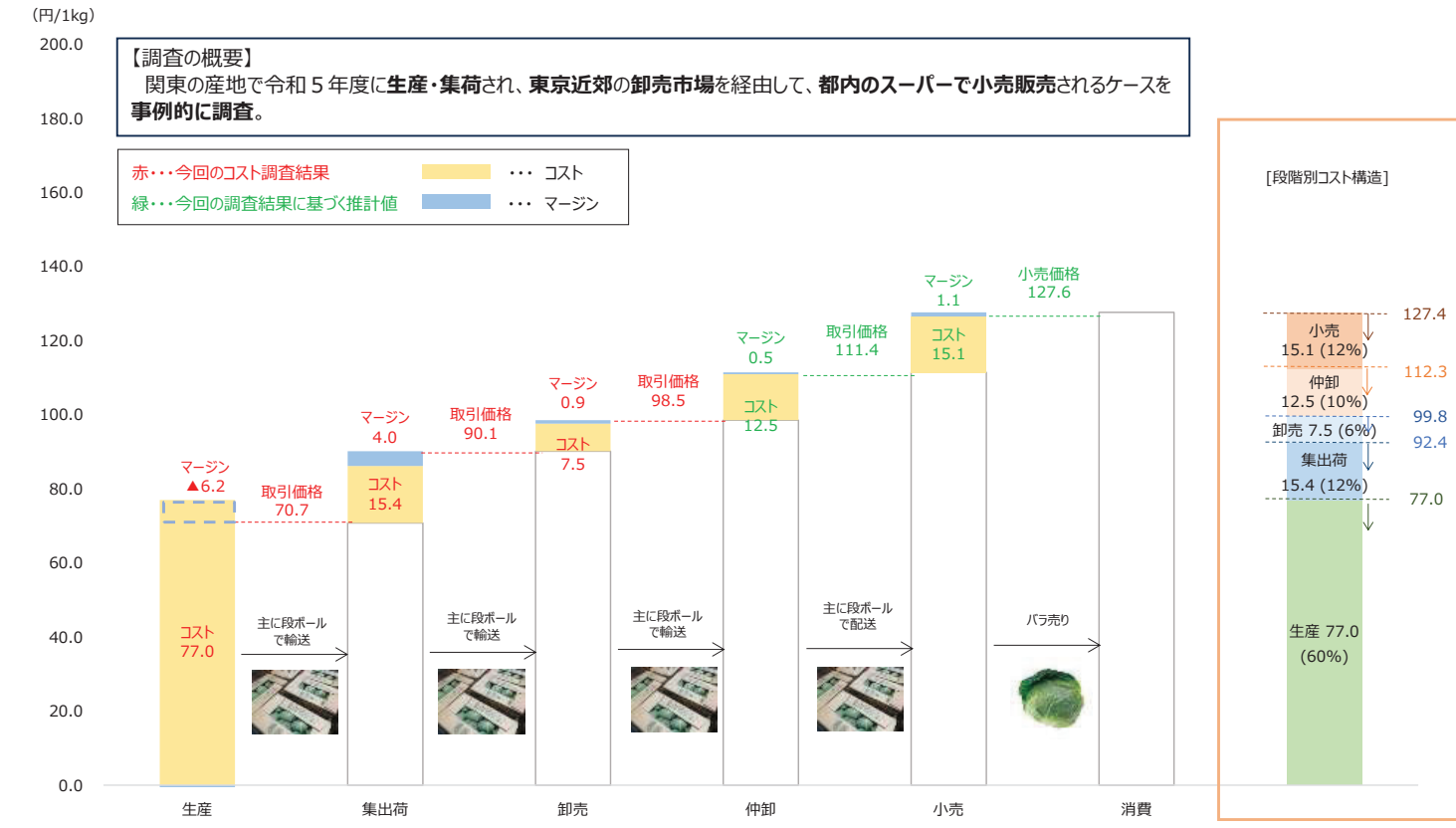
- 野菜は地域の気象条件を活かした産地リレーより周年供給されており、同一品目でも栽培条件、栽培方法等が異なり、生産コストは様々。このような野菜の特性を踏まえると一律に示すことは難しいため、特定の地域や企業アンケートをもとに作成したもの。
- 具体的には、生産・集出荷段階は、特定のJAを対象にアンケート調査（地域の栽培暦や行政の経営指標等も参照）。卸売・仲卸段階は、開設者（東京都及び横浜市）公表の市場統計情報を活用。小売段階は、複数の小売事業者から聴取した粗利率等に取り引価格を乗じて販売価格を推計。このため、仲卸価格や小売価格は直接的に実額で把握できた訳ではなく、統計調査の小売価格とは大きく乖離。

(単位) 円/kg

生産段階		集出荷		卸売		仲卸		小売	
物財費	31.2	選別、包装及び荷造労働費	0.0	完納奨励金	0.9	人件費	5.3	輸送費	1.3
うち種苗費	2.1	包装・荷造材料費	0.0	人件費総額	3.0	その他	6.0	人件費	6.1
肥料費	6.4	出荷運送料・積込料	15.1	水道光熱費	0.1			水道光熱費	0.8
農業費	7.8	上部団体手数料	0.9	賃借料・市場使用料	0.6			その他の経費	5.5
諸材料費	0.9	卸売市場出荷に係る負担金(うち、卸売市場出荷分)	0.8	物流関係費	0.8				
減価償却費	6.6	集荷費	1.7	その他費用	1.5				
小農具費	0.3	予冷費	2.5						
動力光熱費	2.4	保管料	0.0						
修繕費	2.1	処分費	0.0						
共済掛金 等	0.6	販売促進費	0.1						
租税公課	1.5	減価償却費	0.2						
賃料料金	0.5	保守修繕費	0.3						
支払地代	1.6	水道光熱費	0.3						
土地改良費	0.1	人件費	0.9						
労務費	11.1								
生産者負担の包装費	13.0								
生産者負担の荷造経費	4.3								
生産者負担の輸送費	0.5								
合計	61.8	合計	22.7	合計	6.8	合計	11.3	合計	13.7

※ 四捨五入の関係で小計と内訳は必ずしも一致しない。

キャベツ（夏秋作・関東産その２）のコスト調査結果



注１：各段階のコストの数値は、「令和５年度適正取引推進に向けた調査（コスト等に関する調査）」（農林水産省委託事業）を基に作成。当該調査では、首都圏向けに流通するもののコスト構造を事例的に調査。
注２：生産段階・集出荷段階は関東管内JAを対象としたアンケート調査。卸売段階は開設者（東京都及び横浜市）HPの市場統計情報を活用するとともに、首都圏の卸売市場を対象にアンケート調査。仲卸段階及び小売段階は、取引価格に仲卸及び小売の粗利額・コストの内訳から推計。仲卸のコストとマージンは「仲卸業者の経営状況2022」を基に、小売のコストとマージンは都内を商圏とする小売事業者を対象としたアンケート調査結果を基にした。
注３：四捨五入の関係で、合計しても合わないことがある。

キャベツ（夏秋作・関東産その２）のコスト構造の各段階内訳

【調査の概要】
関東の産地で令和５年度に生産・集荷され、東京近郊の卸売市場を経由して、都内のスーパーで小売販売されるケースを事例的に調査。

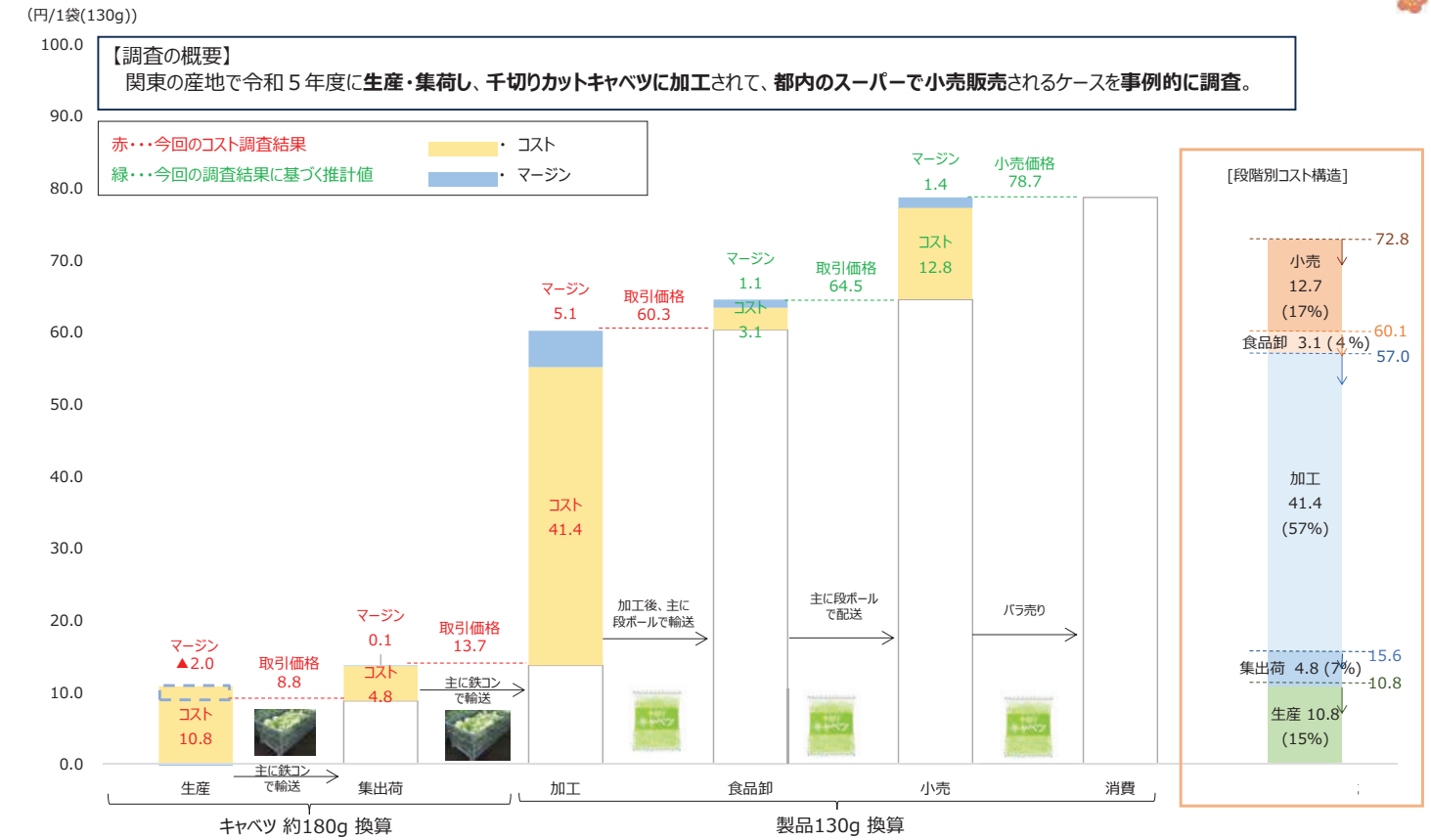
【留意事項】

- 野菜は地域の気象条件を活かした産地リレーより周年供給されており、同一品目でも栽培条件、栽培方法等が異なり、生産コストは様々。このような野菜の特性を踏まえると一律に示すことは難しいため、特定の地域や企業アンケートをもとに作成したもの。
- 具体的には、生産・集出荷段階は、特定のJAを対象にアンケート調査（地域の栽培暦や行政の経営指標等も参照）。卸売・仲卸段階は、開設者（東京都及び横浜市）公表の市場統計情報を活用。小売段階は、複数の小売事業者から聴取した粗利率等に取り引価格を乗じて販売価格を推計。このため、仲卸価格や小売価格は直接的に実額で把握できた訳ではなく、統計調査の小売価格とは大きく乖離。

生産段階		集出荷		卸売		仲卸		小売	
物財費	49.2	選別、包装及び荷造労働費	0.0	完納奨励金	1.0	人件費	5.9	輸送費	1.4
うち種苗費	5.2	包装・荷造材料費	0.0	人件費総額	3.3	その他	6.6	人件費	6.7
肥料費	5.2	出荷運送料・積込料	12.8	水道光熱費	0.1			水道光熱費	0.9
農業費	7.2	上部団体手数料	1.0	賃借料・市場使用料	0.6			その他の経費	6.1
諸材料費	3.4	卸売市場出荷に係る負担金(うち、卸売市場出荷分)	0.0	物流関係費	0.8				
減価償却費	20.7	集荷費	0.0	その他費用	1.6				
小農具費	1.2	予冷費	0.0						
動力光熱費	1.3	保管料	0.0						
修繕費	1.0	処分費	0.0						
共済掛金 等	1.5	販売促進費	0.0						
租税公課	2.4	減価償却費	0.5						
賃料料金	0.0	保守修繕費	0.1						
支払地代	1.1	水道光熱費	0.4						
土地改良費	0.0	人件費	0.5						
労務費	13.0								
生産者負担の包装費	8.7								
生産者負担の荷造経費	5.0								
生産者負担の輸送費	0.0								
合計	77.0	合計	15.4	合計	7.5	合計	12.5	合計	15.1

※ 四捨五入の関係で小計と内訳は必ずしも一致しない。

キャベツ（関東産・加工用）のコスト調査結果



注1：各段階のコストの数値は、「令和5年度適正取引推進に向けた調査（コスト等に関する調査）」（農林水産省委託事業）を基に作成。当該調査では、首都圏向けに流通するもののコスト構造を事例的に調査。
注2：生産段階・集出荷段階は関東管内のJAを対象としたアンケート調査。加工段階は特定のメーカーを対象にしたアンケート調査。食品卸段階は、首都圏を商圏とする食品卸事業者のIR情報から低温食品のコスト・マージンを推計、小売段階は、小売段階は都内を商圏とする小売事業者を対象としたアンケート調査結果を基にコスト・マージンを推計。
注3：四捨五入の関係で、合計しても合わないことがある。
注4：コストの集計に一部誤りがあったため修正（令和7年12月）

キャベツ（関東産・加工用）のコスト構造の各段階内訳

【調査の概要】
関東の産地で令和5年度に生産・集荷し、千切りカットキャベツに加工されて、都内のスーパーで小売販売されるケースを事例的に調査。

【留意事項】

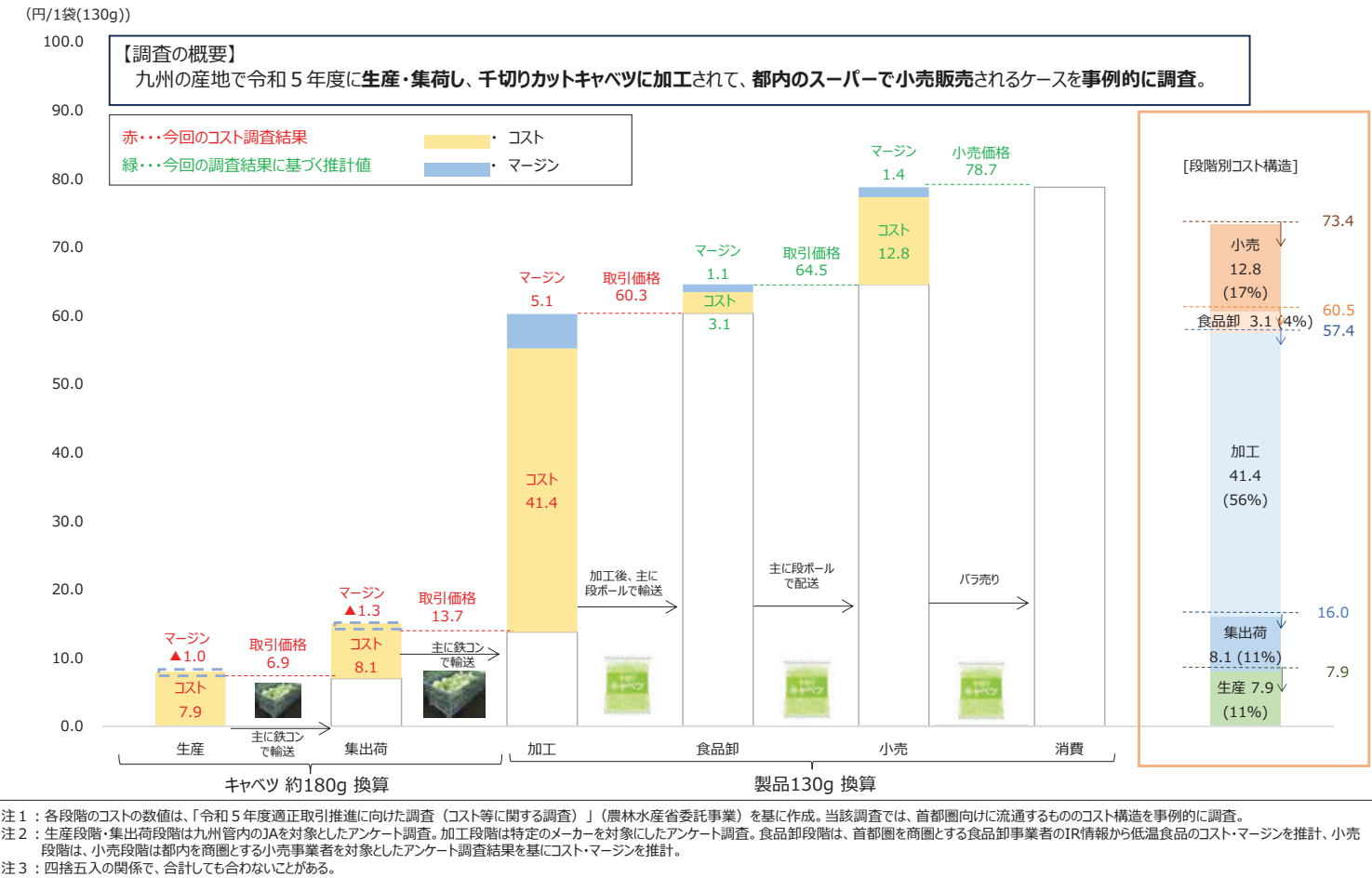
- 野菜は地域の気象条件を活かした産地リレーより周年供給されており、同一品目でも栽培条件、栽培方法等が異なり、生産コストは様々。このような野菜の特性を踏まえると一律に示すことは難しいため、特定の地域や企業アンケートをもとに作成したもの。
- 具体的には、生産・集出荷段階は、特定のJAを対象にアンケート調査（地域の栽培暦や行政の経営指標等も参照）。加工段階は特定のメーカーを対象にしたアンケート調査。食品卸段階は、首都圏を商圏とする食品卸事業者のIR情報から低温食品のコスト・マージンを推計、小売段階は、小売段階は都内を商圏とする小売事業者を対象としたアンケート調査結果を基にコスト・マージンを推計した。このため、卸売価格や小売価格は直接的に実額で把握できた訳ではなく、統計調査の小売価格とは大きく乖離。

(単位) 円/1袋(130g)

生産段階		集出荷		加工		食品卸		小売	
物財費	7.2	輸送費	3.9	包装材料費	4.6	物流費	1.6	輸送費	1.4
うち種苗費	0.5	包材費	0.5	水道光熱費	1.8	人件費	0.9	人件費	6.1
肥料費	1.1	人件費	0.2	物流費	9.6	その他の経費	0.6	水道光熱費	0.6
農業費	1.9	光熱動力費	0.0	広告宣伝費・販売促進費等	1.7			その他の経費	4.6
諸材料費	1.5	その他	0.2	その他の変動費	1.2				
減価償却費	0.6			人件費	13.8				
小農具費	0.1			修繕費	0.3				
動力光熱費	0.2			減価償却費	2.2				
修繕費	0.1			一般経費	2.9				
共済掛金 等	1.0			その他の固定費	3.4				
租税公課	0.1								
賃料料金	0.0								
支払地代	0.3								
土地改良費	0.0								
労務費	3.3								
合計	10.8	合計	4.8	合計	41.4	合計	3.1	合計	12.8

※ 四捨五入の関係で小計と内訳は必ずしも一致しない。

キャベツ（九州産・加工用）のコスト調査結果



キャベツ（九州産・加工用）のコスト構造の各段階内訳

【調査の概要】
九州の産地で令和5年度に生産・集荷し、千切りカットキャベツに加工されて、都内のスーパーで小売販売されるケースを事例的に調査。

【留意事項】

- 野菜は地域の気象条件を活かした産地リレーより周年供給されており、同一品目でも栽培条件、栽培方法等が異なり、生産コストは様々。このような野菜の特性を踏まえると一律に示すことは難しいため、特定の地域や企業アンケートをもとに作成したもの。
- 具体的には、生産・集出荷段階は、特定のJAを対象にアンケート調査（地域の栽培暦や行政の経営指標等も参照）。加工段階は特定のメーカーを対象にしたアンケート調査。食品卸段階は、首都圏を商圏とする食品卸事業者のIR情報から低温食品のコスト・マージンを推計、小売段階は、小売段階は都内を商圏とする小売事業者を対象としたアンケート調査結果を基にコスト・マージンを推計した。このため、卸売価格や小売価格は直接的に実額で把握できた訳ではなく、統計調査の小売価格とは大きく乖離。

(単位) 円/1袋(130g)

生産段階		集出荷		加工		食品卸		小売	
物材費	5.6	輸送費	7.1	包装材料費	4.6	物流費	1.6	輸送費	1.4
うち種苗費	1.4	包材費	0.5	水道光熱費	1.8	人件費	0.9	人件費	6.1
肥料費	1.1	人件費	0.1	物流費	9.6	その他の経費	0.6	水道光熱費	0.6
農薬費	0.8	光熱動力費	0.2	広告宣伝費・販売促進費等	1.7			その他の経費	4.6
諸材料費	0.0	その他	0.1	その他の変動費	1.2				
減価償却費	1.3			人件費	13.8				
小農具費	0.0			修繕費	0.3				
動力光熱費	0.3			減価償却費	2.2				
修繕費	0.2			一般経費	2.9				
共済掛金 等	0.2			その他の固定費	3.4				
租税公課	0.0								
賃料料金	0.3								
支払地代	0.0								
土地改良費	0.0								
労務費	2.3								
合計	7.9	合計	8.1	合計	41.4	合計	3.1	合計	12.8

※ 四捨五入の関係で小計と内訳は必ずしも一致しない。

たまねぎ

たまねぎ（九州産）のコスト調査結果



注1：各段階のコストの数値は、「令和5年度適正取引推進に向けた調査（コスト等に関する調査）」（農林水産省委託事業）を基に作成。当該調査では、首都圏向けに流通するもののコスト構造を事例的に調査。
注2：生産段階・集出荷段階は九州管内のJAを対象としたアンケート調査。卸売段階は開設者（東京都及び横浜市）HPの市場統計情報を活用するとともに、首都圏の卸売市場を対象にアンケート調査。仲卸段階及び小売段階は、取引価格に仲卸及び小売の粗利額・コストの内訳から推計。仲卸のコストとマージンは「仲卸業者の経営状況2022」を基に、小売のコストとマージンは都内を商圏とする小売事業者を対象としたアンケート調査結果を基にした。
注3：四捨五入の関係で、合計しても合わないことがある。

たまねぎ（九州産）のコスト構造の各段階内訳

- 【調査の概要】
九州の産地で令和5年度に生産・集荷され、東京近郊の卸売市場を経由して、都内のスーパーで小売販売されるケースを事例的に調査。
- 【留意事項】
- 野菜は地域の気象条件を活かした産地リレーより周年供給されており、同一品目でも栽培条件、栽培方法等が異なり、生産コストは様々。このような野菜の特性を踏まえると一律に示すことは難しいため、特定の地域や企業アンケートをもとに作成したもの。
 - 具体的には、生産・集出荷段階は、特定のJAを対象にアンケート調査（地域の栽培暦や行政の経営指標等も参照）。卸売・仲卸段階は、開設者（東京都及び横浜市）公表の市場統計情報を活用。小売段階は、複数の小売事業者から聴取した粗利率等に取引価格を乗じて販売価格を推計。このため、仲卸価格や小売価格は直接的に実額で把握できた訳ではなく、統計調査の小売価格とは大きく乖離。

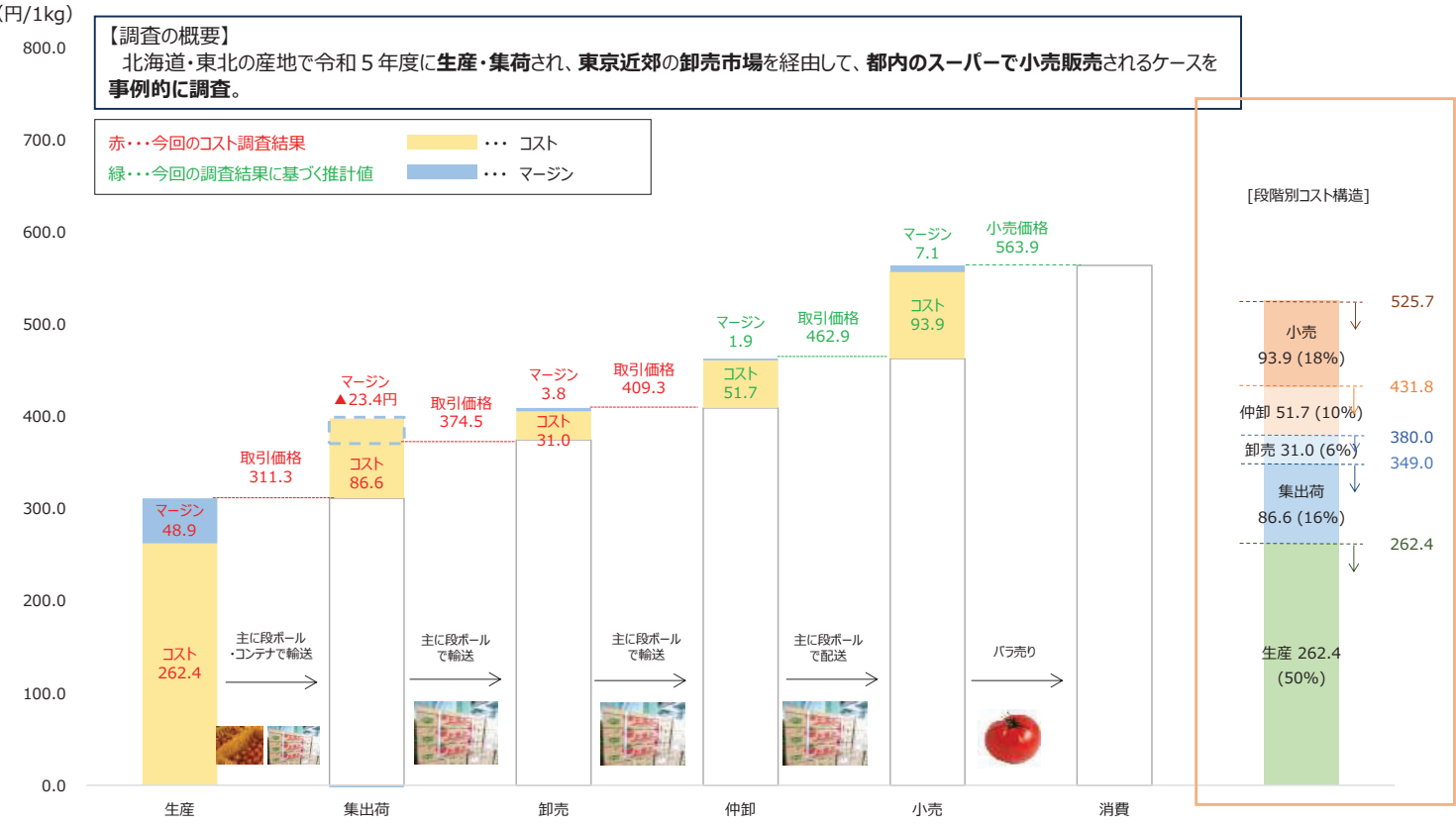
(単位) 円/kg

生産段階		集出荷		卸売		仲卸		小売	
物財費	53.2	選別、包装及び荷造労働費	2.5	完納奨励金	1.0	人件費	6.0	輸送費	2.4
うち種苗費	5.0	包装・荷造材料費	6.0	人件費総額	3.4	その他	6.8	人件費	11.2
肥料費	8.2	出荷運送料・積込料	15.4	水道光熱費	0.1			水道光熱費	1.4
農業費	7.7	上部団体手数料	0.0	賃借料・市場使用料	0.6			その他の経費	10.2
諸材料費	2.3	卸売市場出荷に係る負担金(うち、卸売市場出荷分)	0.2	物流関係費	0.9				
減価償却費	14.7	集荷費	0.8	その他費用	1.7				
小農具費	0.3	予冷費	0.0						
動力光熱費	2.8	保管料	0.3						
修繕費	4.1	処分費	0.3						
共済掛金 等	5.0	販売促進費	0.0						
租税公課	3.3	減価償却費	1.4						
賃料料金	0.0	保守修繕費	0.6						
支払地代	0.5	水道光熱費	1.2						
土地改良費	0.0	人件費	1.2						
労務費	14.1								
生産者負担の包装費	1.0								
生産者負担の荷造経費	0.7								
生産者負担の輸送費	0.4								
合計	69.9	合計	29.9	合計	7.7	合計	12.9	合計	25.1

※ 四捨五入の関係で小計と内訳は必ずしも一致しない。

大玉トマト

大玉トマト（夏秋・施設作：北海道・東北産 その１）のコスト調査結果



注１：各段階のコストの数値は、「令和５年度適正取引推進に向けた調査（コスト等に関する調査）」（農林水産省委託事業）を基に作成。当該調査では、首都圏向けに流通するもののコスト構造を事例的に調査。
注２：生産段階・集出荷段階は北海道・東北管内のJAを対象としたアンケート調査。卸売段階は開設者（東京都及び横浜市）HPの市場統計情報を活用するとともに、首都圏の卸売市場を対象にアンケート調査。仲卸段階及び小売段階は、取引価格に仲卸及び小売の粗利額・コストの内訳から推計。仲卸のコストとマージンは「仲卸業者の経営状況2022」を基に、小売のコストとマージンは都内を商圏とする小売事業者を対象としたアンケート調査結果を基にした。
注３：四捨五入の関係で、合計しても合わないことがある。

大玉トマト（夏秋・施設作：北海道・東北産 その１）のコスト構造の各段階内訳

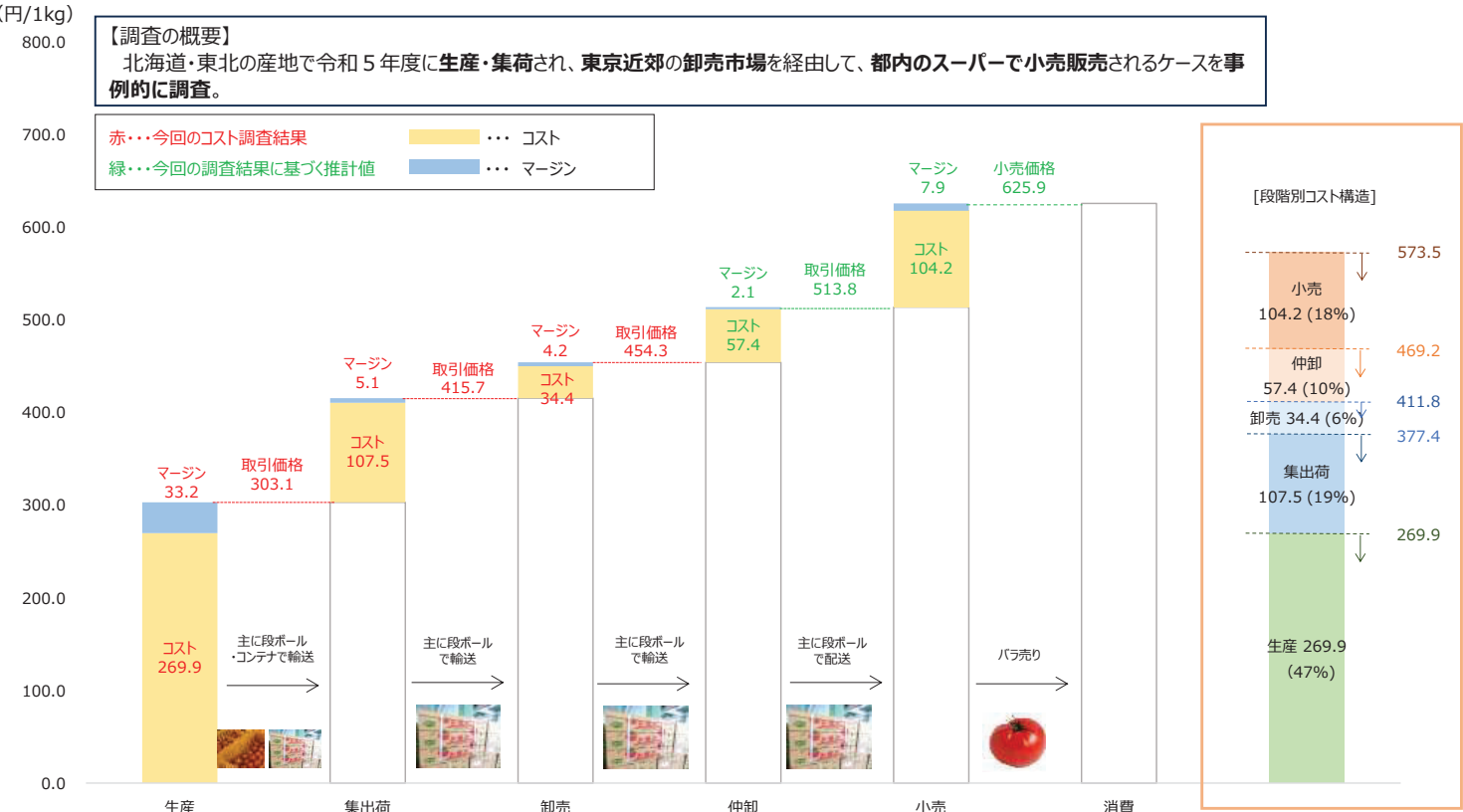
- 【調査の概要】
北海道・東北の産地で令和５年度に生産・集荷され、東京近郊の卸売市場を経由して、都内のスーパーで小売販売されるケースを事例的に調査。
- 【留意事項】
- 野菜は地域の気象条件を活かした産地リレーより周年供給されており、同一品目でも栽培条件、栽培方法等が異なり、生産コストは様々。このような野菜の特性を踏まえると一律に示すことは難しいため、特定の地域や企業アンケートをもとに作成したもの。
 - 具体的には、生産・集出荷段階は、特定のJAを対象にアンケート調査（地域の栽培暦や行政の経営指標等も参照）。卸売・仲卸段階は、開設者（東京都及び横浜市）公表の市場統計情報を活用。小売段階は、複数の小売事業者から聴取した粗利率等に取引価格を乗じて販売価格を推計。このため、仲卸価格や小売価格は直接的に実額で把握できた訳ではなく、統計調査の小売価格とは大きく乖離。

（単位）円/kg

生産段階		集出荷		卸売		仲卸		小売	
物財費	155.7	選別、包装及び荷造労働費	16.4	完納奨励金	4.2	人件費	24.3	輸送費	8.8
うち種苗費	20.8	包装・荷造材料費	14.7	人件費総額	13.6	その他	27.4	人件費	41.8
肥料費	12.2	出荷運送料・積込料	31.9	水道光熱費	0.5			水道光熱費	5.4
農業費	2.7	上部団体手数料	0.3	賃借料・市場使用料	2.5			その他の経費	37.9
諸材料費	12.0	卸売市場出荷に係る負担金(うち、卸売市場出荷分)	0.3	物流関係費	3.4				
減価償却費	51.7	集荷費	0.0	その他費用	6.7				
小農具費	0.7	予冷費	2.3						
動力光熱費	19.7	保管料	0.2						
修繕費	3.4	処分費	0.4						
共済掛金 等	8.6	販売促進費	0.1						
租税公課	23.8	減価償却費	1.0						
賃料料金	0.1	保守修繕費	2.8						
支払地代	0.3	水道光熱費	0.9						
土地改良費	0.3	人件費	15.3						
労務費	99.7								
生産者負担の包装費	4.4								
生産者負担の荷造経費	1.3								
生産者負担の輸送費	0.8								
合計	262.4	合計	86.6	合計	31.0	合計	51.7	合計	93.9

※ 四捨五入の関係で小計と内訳は必ずしも一致しない。

大玉トマト（夏秋・施設作：北海道・東北産 その２）のコスト調査結果



注１：各段階のコストの数値は、「令和５年度適正取引推進に向けた調査（コスト等に関する調査）」（農林水産省委託事業）を基に作成。当該調査では、首都圏向けに流通するもののコスト構造を事例的に調査。
注２：生産段階・集出荷段階は北海道・東北管内のJAを対象としたアンケート調査。卸売段階は開設者（東京都及び横浜市）HPの市場統計情報を活用するとともに、首都圏の卸売市場を対象にアンケート調査。仲卸段階及び小売段階は、取引価格に仲卸及び小売の粗利額・コストの内訳から推計。仲卸のコストとマージンは「仲卸業者の経営状況2022」を基に、小売のコストとマージンは都内を商圏とする小売事業者を対象としたアンケート調査結果を基にした。
注３：四捨五入の関係で、合計しても合わないことがある。

大玉トマト（夏秋・施設作：北海道・東北産 その２）のコスト構造の各段階内訳

- 【調査の概要】
北海道・東北の産地で令和５年度に生産・集荷され、東京近郊の卸売市場を経由して、都内のスーパーで小売販売されるケースを事例的に調査。
- 【留意事項】
- 野菜は地域の気象条件を活かした産地リレーより周年供給されており、同一品目でも栽培条件、栽培方法等が異なり、生産コストは様々。このような野菜の特性を踏まえると一律に示すことは難しいため、特定の地域や企業アンケートをもとに作成したもの。
 - 具体的には、生産・集出荷段階は、特定のJAを対象にアンケート調査（地域の栽培暦や行政の経営指標等も参照）。卸売・仲卸段階は、開設者（東京都及び横浜市）公表の市場統計情報を活用。小売段階は、複数の小売事業者から聴取した粗利率等に取引価格を乗じて販売価格を推計。このため、仲卸価格や小売価格は直接的に実額で把握できた訳ではなく、統計調査の小売価格とは大きく乖離。

(単位) 円/kg

生産段階		集出荷		卸売		仲卸		小売	
物財費	136.5	選別、包装及び荷造労働費	30.3	完納奨励金	4.6	人件費	27.0	輸送費	9.8
うち種苗費	17.0	包装・荷造材料費	28.3	人件費総額	15.1	その他	30.4	人件費	46.4
肥料費	11.2	出荷運送料・積込料	16.1	水道光熱費	0.6			水道光熱費	5.9
農業費	5.4	上部団体手数料	6.4	賃借料・市場使用料	2.8			その他の経費	42.1
諸材料費	35.2	卸売市場出荷に係る負担金(うち、卸売市場出荷分)	0.2	物流関係費	3.8				
減価償却費	58.3	集荷費	0.8	その他費用	7.4				
小農具費	1.8	予冷費	0.6						
動力光熱費	2.0	保管料	0.0						
修繕費	1.9	処分費	0.1						
共済掛金 等	3.4	販売促進費	0.0						
租税公課	0.5	減価償却費	5.6						
賃料料金	0.0	保守修繕費	1.9						
支払地代	0.0	水道光熱費	2.9						
土地改良費	0.0	人件費	14.2						
労務費	126.9								
生産者負担の包装費	2.9								
生産者負担の荷造経費	0.9								
生産者負担の輸送費	2.5								
合計	269.9	合計	107.5	合計	34.4	合計	57.4	合計	104.2

※ 四捨五入の関係で小計と内訳は必ずしも一致しない。

大玉トマト（冬春・施設作：関東産）のコスト調査結果



注1：各段階のコストの数値は、「令和5年度適正取引推進に向けた調査（コスト等に関する調査）」（農林水産省委託事業）を基に作成。当該調査では、首都圏向けに流通するもののコスト構造を事例的に調査。
注2：生産段階・集出荷段階は関東管内のJAを対象としたアンケート調査。卸売段階は開設者（東京都及び横浜市）HPの市場統計情報を活用するとともに、首都圏の卸売市場を対象にアンケート調査。仲卸段階及び小売段階は、取引価格に仲卸及び小売の粗利額・コストの内訳から推計。仲卸のコストとマージンは「仲卸業者の経営状況2022」を基に、小売のコストとマージンは都内を商圏とする小売事業者を対象としたアンケート調査結果を基にした。
注3：四捨五入の関係で、合計しても合わないことがある。

大玉トマト（冬春・施設作：関東産）のコスト構造の各段階内訳

【調査の概要】
関東の産地で令和5年度に生産・集荷され、東京近郊の卸売市場を経由して、都内のスーパーで小売販売されるケースを事例的に調査。

【留意事項】

- 野菜は地域の気象条件を活かした産地リレーより周年供給されており、同一品目でも栽培条件、栽培方法等が異なり、生産コストは様々。このような野菜の特性を踏まえると一律に示すことは難しいため、特定の地域や企業アンケートをもとに作成したもの。
- 具体的には、生産・集出荷段階は、特定のJAを対象にアンケート調査（地域の栽培暦や行政の経営指標等も参照）。卸売・仲卸段階は、開設者（東京都及び横浜市）公表の市場統計情報を活用。小売段階は、複数の小売事業者から聴取した粗利率等に取引価格を乗じて販売価格を推計。このため、仲卸価格や小売価格は直接的に実額で把握できた訳ではなく、統計調査の小売価格とは大きく乖離。

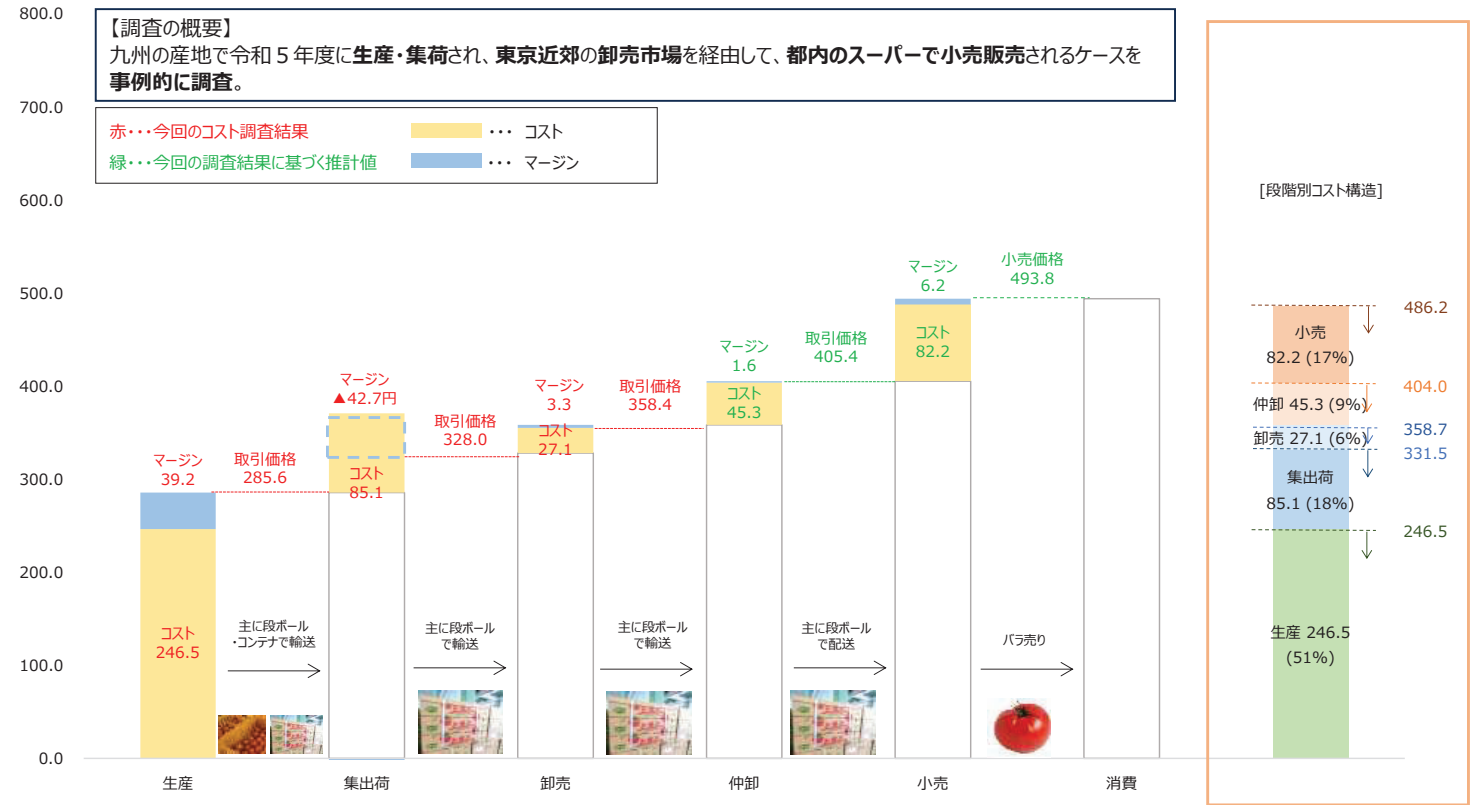
(単位) 円/kg

生産段階		集出荷		卸売		仲卸		小売	
物財費	178.7	選別、包装及び荷造労働費	21.9	完納奨励金	3.5	人件費	20.2	輸送費	7.3
うち種苗費	13.0	包装・荷造材料費	8.8	人件費総額	11.3	その他	22.8	人件費	34.8
肥料費	5.7	出荷運送料・積込料	8.8	水道光熱費	0.5			水道光熱費	4.5
農業費	9.1	上部団体手数料	3.2	賃借料・市場使用料	2.1			その他の経費	31.5
諸材料費	9.3	卸売市場出荷に係る負担金(うち、卸売市場出荷分)	0.9	物流関係費	2.9				
減価償却費	72.0	集荷費	0.0	その他費用	5.6				
小農具費	0.2	予冷費	0.0						
動力光熱費	47.7	保管料	0.0						
修繕費	2.7	処分費	0.0						
共済掛金 等	1.6	販売促進費	1.3						
租税公課	5.0	減価償却費	5.2						
賃料料金	12.3	保守修繕費	0.9						
支払地代	0.0	水道光熱費	0.9						
土地改良費	0.2	人件費	12.1						
労務費	69.9								
生産者負担の包装費	13.5								
生産者負担の荷造経費	0.2								
生産者負担の輸送費	0.7								
合計	263.2	合計	63.9	合計	25.8	合計	43.0	合計	78.1

※ 四捨五入の関係で小計と内訳は必ずしも一致しない。

大玉トマト（冬春・施設作：九州産）のコスト調査結果

(円/kg)



大玉トマト（冬春・施設作：九州産）のコスト構造の各段階内訳

【調査の概要】
九州の産地で令和5年度に生産・集荷され、東京近郊の卸売市場を経由して、都内のスーパーで小売販売されるケースを事例的に調査。

【留意事項】

- 野菜は地域の気象条件を活かした産地リレーより周年供給されており、同一品目でも栽培条件、栽培方法等が異なり、生産コストは様々。このような野菜の特性を踏まえると一律に示すことは難しいため、特定の地域や企業アンケートをもとに作成したもの。
- 具体的には、生産・集出荷段階は、特定のJAを対象にアンケート調査（地域の栽培暦や行政の経営指標等も参照）。卸売・仲卸段階は、開設者（東京都及び横浜市）公表の市場統計情報を活用。小売段階は、複数の小売事業者から聴取した粗利率等に取引価格を乗じて販売価格を推計。このため、仲卸価格や小売価格は直接的に実額で把握できた訳ではなく、統計調査の小売価格とは大きく乖離。

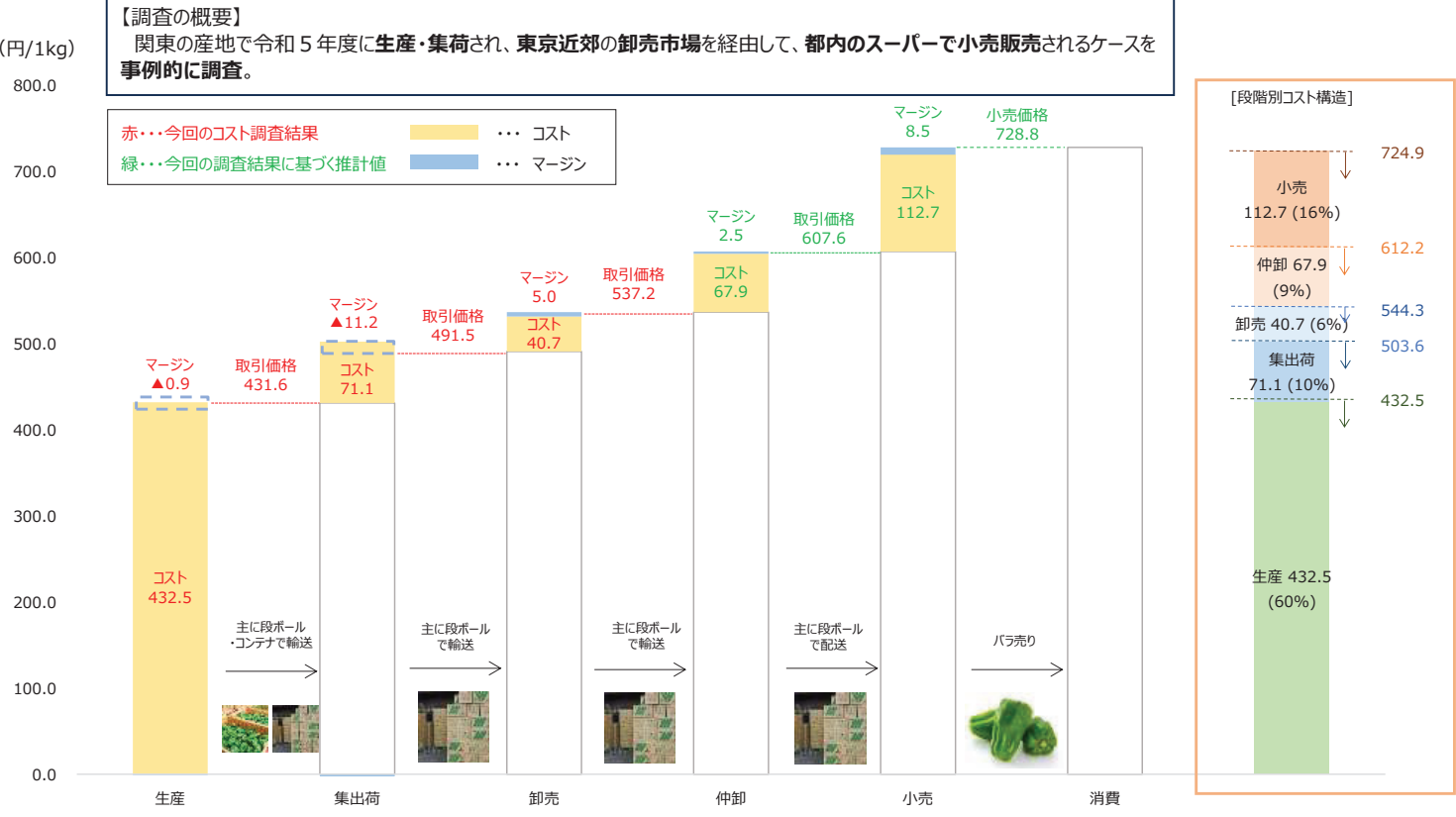
(単位) 円/kg

生産段階		集出荷		卸売		仲卸		小売	
物財費	155.4	選別、包装及び荷造労働費	12.8	完納奨励金	3.7	人件費	21.3	輸送費	7.7
うち種苗費	18.9	包装・荷造材料費	27.6	人件費総額	11.9	その他	24.0	人件費	36.6
肥料費	14.1	出荷運送料・積込料	27.6	水道光熱費	0.5			水道光熱費	4.7
農業費	6.8	上部団体手数料	4.9	賃借料・市場使用料	2.2			その他の経費	33.2
諸材料費	23.5	卸売市場出荷に係る負担金(うち、卸売市場出荷分)	3.5	物流関係費	3.0				
減価償却費	38.7	集荷費	0.0	その他費用	5.8				
小農具費	2.3	予冷費	0.0						
動力光熱費	40.0	保管料	0.0						
修繕費	5.3	処分費	0.0						
共済掛金 等	2.7	販売促進費	0.7						
租税公課	3.1	減価償却費	4.4						
賃料料金	0.0	保守修繕費	1.0						
支払地代	3.1	水道光熱費	0.6						
土地改良費	0.3	人件費	1.7						
労務費	86.9								
生産者負担の包装費	0.0								
生産者負担の荷造経費	0.0								
生産者負担の輸送費	0.6								
合計	246.5	合計	85.1	合計	27.1	合計	45.3	合計	82.2

※ 四捨五入の関係で小計と内訳は必ずしも一致しない。

ピーマン

ピーマン（冬春・施設作：関東産）のコスト調査結果



注1：各段階のコストの数値は、「令和5年度適正取引推進に向けた調査（コスト等に関する調査）」（農林水産省委託事業）を基に作成。当該調査では、首都圏向けに流通するもののコスト構造を事例的に調査。
注2：生産段階・集出荷段階は関東管内のJAを対象としたアンケート調査。卸売段階は開設者（東京都及び横浜市）HPの市場統計情報を活用するとともに、首都圏の卸売市場を対象にアンケート調査。仲卸段階及び小売段階は、取引価格に仲卸及び小売の粗利額・コストの内訳から推計。仲卸のコストとマージンは「仲卸業者の経営状況2022」を基に、小売のコストとマージンは都内を商圏とする小売事業者を対象としたアンケート調査結果を基にした。
注3：四捨五入の関係で、合計しても合わないことがある。

ピーマン（冬春・施設作：関東産）のコスト構造の各段階内訳

【調査の概要】
関東の産地で令和5年度に生産・集荷され、東京近郊の卸売市場を経由して、都内のスーパーで小売販売されるケースを事例的に調査。

【留意事項】

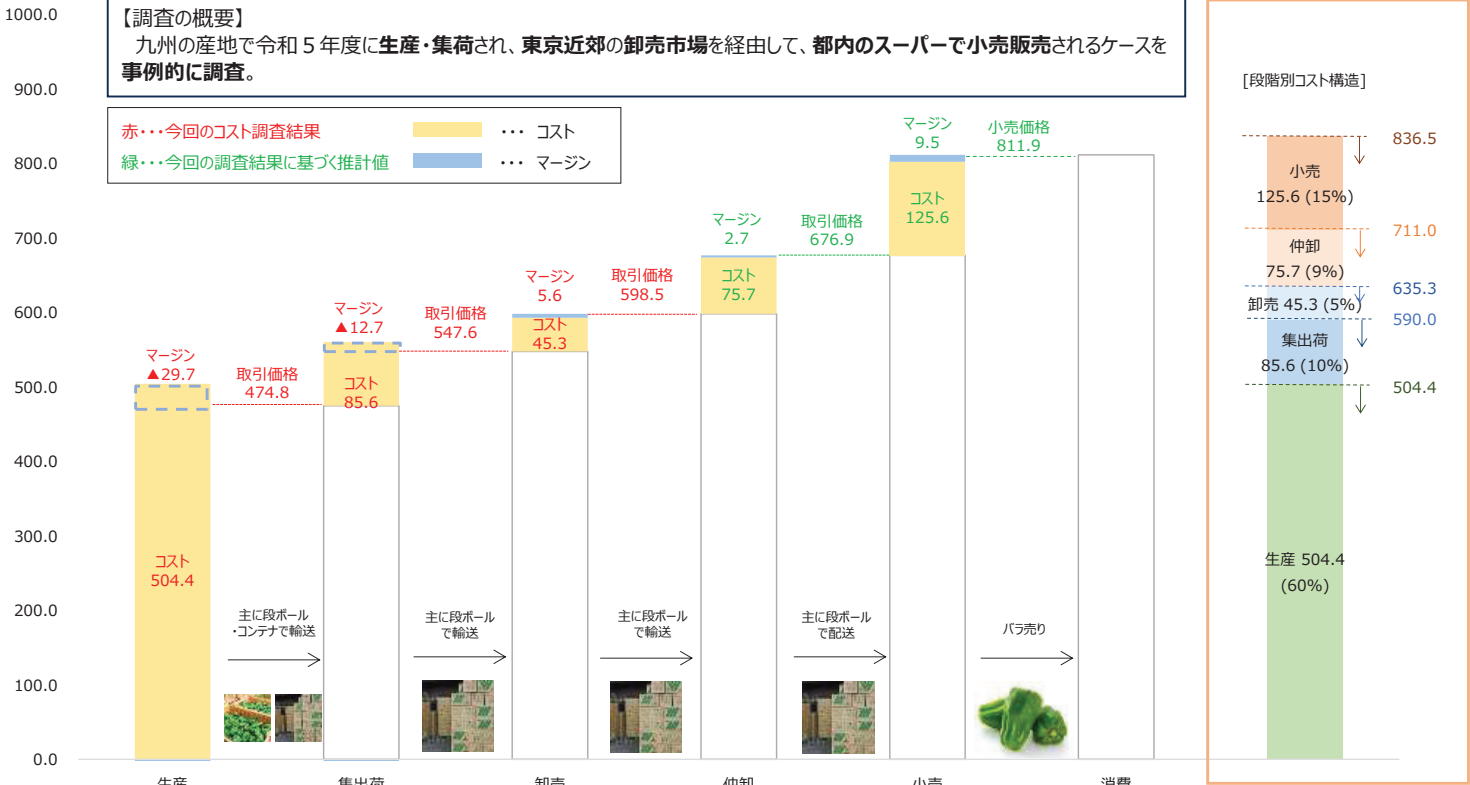
- 野菜は地域の気象条件を活かした産地リレーより周年供給されており、同一品目でも栽培条件、栽培方法等が異なり、生産コストは様々。このような野菜の特性を踏まえると一律に示すことは難しいため、特定の地域や企業アンケートをもとに作成したもの。
- 具体的には、生産・集出荷段階は、特定のJAを対象にアンケート調査（地域の栽培暦や行政の経営指標等も参照）。卸売・仲卸段階は、開設者（東京都及び横浜市）公表の市場統計情報を活用。小売段階は、複数の小売事業者から聴取した粗利率等に取引価格を乗じて販売価格を推計。このため、仲卸価格や小売価格は直接的に実額で把握できた訳ではなく、統計調査の小売価格とは大きく乖離。

生産段階		集出荷		卸売		仲卸		小売	
物財費	281.1	選別、包装及び荷造労働費	11.4	完納奨励金	5.5	人件費	31.9	輸送費	10.6
うち種苗費	9.9	包装・荷造材料費	22.7	人件費総額	17.8	その他	36.0	人件費	50.2
肥料費	17.6	出荷運送料・積込料	11.5	水道光熱費	0.7			水道光熱費	6.4
農業費	9.4	上部団体手数料	3.5	賃借料・市場使用料	3.3			その他の経費	45.5
諸材料費	17.7	卸売市場出荷に係る負担金(うち、卸売市場出荷分)	0.0	物流関係費	4.5				
減価償却費	55.3	集荷費	0.0	その他費用	8.8				
小農具費	0.0	予冷費	0.0						
動力光熱費	154.4	保管料	0.0						
修繕費	15.0	処分費	0.0						
共済掛金 等	0.0	販売促進費	0.1						
租税公課	1.8	減価償却費	5.6						
賃料料金	0.0	保守修繕費	2.1						
支払地代	0.0	水道光熱費	1.3						
土地改良費	0.0	人件費	13.0						
労務費	148.9								
生産者負担の包装費	0.0								
生産者負担の荷造経費	0.0								
生産者負担の輸送費	2.4								
合計	432.5	合計	71.1	合計	40.7	合計	67.9	合計	112.7

※ 四捨五入の関係で小計と内訳は必ずしも一致しない。

ピーマン（冬春・施設作：九州産）のコスト調査結果

(円/1kg)



注1：各段階のコストの数値は、「令和5年度適正取引推進に向けた調査（コスト等に関する調査）」（農林水産省委託事業）を基に作成。当該調査では、首都圏向けに流通するもののコスト構造を事例的に調査。
注2：生産段階・集出荷段階は九州管内のJAを対象としたアンケート調査。卸売段階は開設者（東京都及び横浜市）HPの市場統計情報を活用するとともに、首都圏の卸売市場を対象にアンケート調査。仲卸段階及び小売段階は、取引価格に仲卸及び小売の粗利額・コストの内訳から推計。仲卸のコストとマージンは「仲卸業者の経営状況2022」を基に、小売のコストとマージンは都内を商圏とする小売事業者を対象としたアンケート調査結果を基にした。
注3：四捨五入の関係で、合計しても合わないことがある。

ピーマン（冬春・施設作：九州産）のコスト構造の各段階内訳

【調査の概要】

九州の産地で令和5年度に生産・集荷され、東京近郊の卸売市場を経由して、都内のスーパーで小売販売されるケースを事例的に調査。

【留意事項】

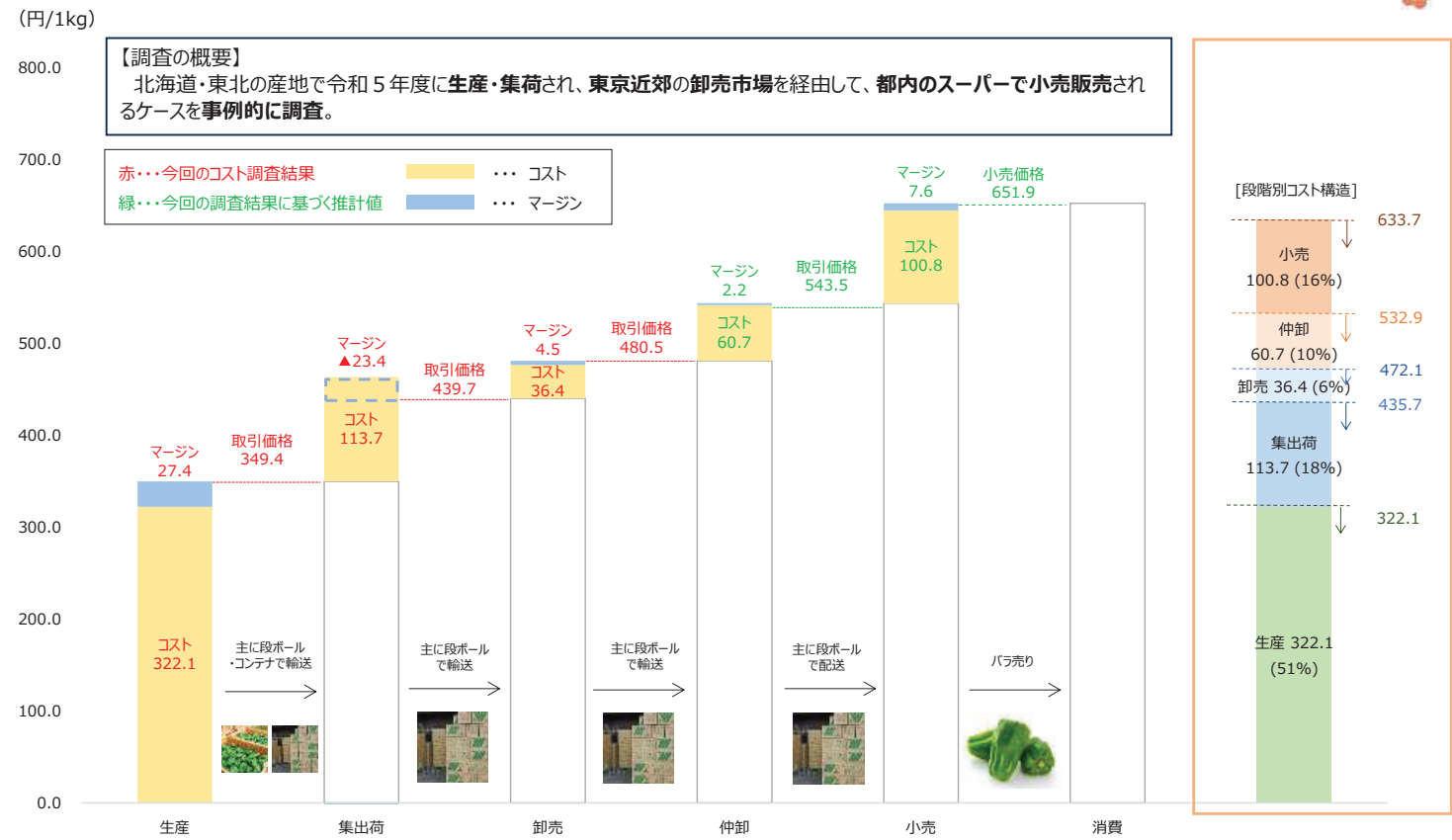
- 野菜は地域の気象条件を活かした産地リレーより周年供給されており、同一品目でも栽培条件、栽培方法等が異なり、生産コストは様々。このような野菜の特性を踏まえると一律に示すことは難しいため、特定の地域や企業アンケートをもとに作成したもの。
- 具体的には、生産・集出荷段階は、特定のJAを対象にアンケート調査（地域の栽培暦や行政の経営指標等も参照）。卸売・仲卸段階は、開設者（東京都及び横浜市）公表の市場統計情報を活用。小売段階は、複数の小売事業者から聴取した粗利率等に取引価格を乗じて販売価格を推計。このため、仲卸価格や小売価格は直接的に実額で把握できた訳ではなく、統計調査の小売価格とは大きく乖離。

(単位) 円/kg

生産段階		集出荷		卸売		仲卸		小売	
物財費	315.6	選別、包装及び荷造労働費	13.7	完納奨励金	6.1	人件費	35.6	輸送費	11.8
うち種苗費	10.9	包装・荷造材料費	23.5	人件費総額	19.9	その他	40.1	人件費	55.9
肥料費	17.3	出荷運送料・積込料	32.2	水道光熱費	0.8			水道光熱費	7.2
農業費	18.3	上部団体手数料	2.6	賃借料・市場使用料	3.7			その他の経費	50.7
諸材料費	18.3	卸売市場出荷に係る負担金(うち、卸売市場出荷分)	0.3	物流関係費	5.0				
減価償却費	111.2	集荷費	0.7	その他費用	9.8				
小農具費	2.2	予冷費	1.3						
動力光熱費	125.2	保管料	0.9						
修繕費	4.1	処分費	0.0						
共済掛金 等	2.7	販売促進費	0.1						
租税公課	5.5	減価償却費	1.6						
賃料料金	0.0	保守修繕費	0.5						
支払地代	0.0	水道光熱費	1.4						
土地改良費	0.4	人件費	6.6						
労務費	160.8								
生産者負担の包装費	25.1								
生産者負担の荷造経費	1.4								
生産者負担の輸送費	1.1								
合計	504.4	合計	85.6	合計	45.3	合計	75.7	合計	125.6

※ 四捨五入の関係で小計と内訳は必ずしも一致しない。

ピーマン（夏秋・露地作：北海道・東北産）のコスト調査結果



注1：各段階のコストの数値は、「令和5年度適正取引推進に向けた調査（コスト等に関する調査）」（農林水産省委託事業）を基に作成。当該調査では、首都圏向けに流通するもののコスト構造を事例的に調査。
注2：生産段階・集出荷段階は北海道・東北管内のJAを対象としたアンケート調査。卸売段階は開設者（東京都及び横浜市）HPの市場統計情報を活用するとともに、首都圏の卸売市場を対象にアンケート調査。仲卸段階及び小売段階は、取引価格に仲卸及び小売の粗利額・コストの内訳から推計。仲卸のコストとマージンは「仲卸業者の経営状況2022」を基に、小売のコストとマージンは都内を商圏とする小売事業者を対象としたアンケート調査結果を基にした。
注3：四捨五入の関係で、合計しても合わないことがある。

ピーマン（夏秋・露地作：北海道・東北産）のコスト構造の各段階内訳

【調査の概要】
北海道・東北の産地で令和5年度に生産・集荷され、東京近郊の卸売市場を経由して、都内のスーパーで小売販売されるケースを事例的に調査。

【留意事項】

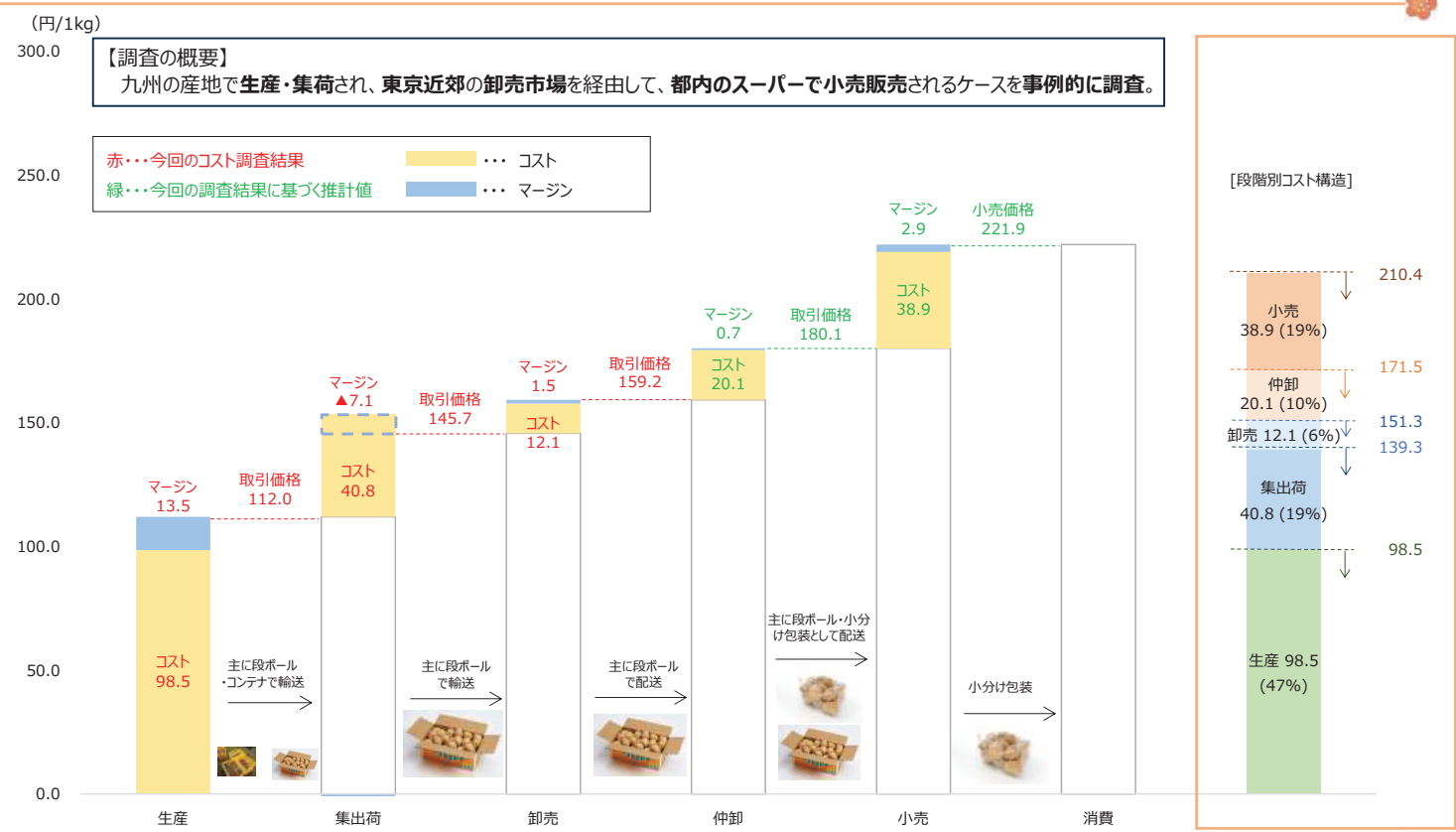
- 野菜は地域の気象条件を活かした産地リレーより周年供給されており、同一品目でも栽培条件、栽培方法等が異なり、生産コストは様々。このような野菜の特性を踏まえると一律に示すことは難しいため、特定の地域や企業アンケートをもとに作成したもの。
- 具体的には、生産・集出荷段階は、特定のJAを対象にアンケート調査（地域の栽培暦や行政の経営指標等も参照）。卸売・仲卸段階は、開設者（東京都及び横浜市）公表の市場統計情報を活用。小売段階は、複数の小売事業者から聴取した粗利率等に取引価格を乗じて販売価格を推計。このため、仲卸価格や小売価格は直接的に実額で把握できた訳ではなく、統計調査の小売価格とは大きく乖離。

生産段階		集出荷		卸売		仲卸		小売	
物財費	158.9	選別、包装及び荷造労働費	28.8	完納奨励金	4.9	人件費	28.6	輸送費	9.5
うち種苗費	24.6	包装・造材料費	34.3	人件費総額	16.0	その他	32.2	人件費	44.9
肥料費	16.1	出荷運送料・積込料	19.1	水道光熱費	0.6			水道光熱費	5.8
農業費	12.3	上部団体手数料	8.4	賃借料・市場使用料	3.0			その他の経費	40.7
諸材料費	19.0	卸売市場出荷に係る負担金(うち、卸売市場出荷分)	0.4	物流関係費	4.0				
減価償却費	63.8	集荷費	1.8	その他費用	7.8				
小農具費	0.5	予冷費	1.8						
動力光熱費	0.9	保管料	0.0						
修繕費	18.1	処分費	0.1						
共済掛金 等	1.4	販売促進費	0.0						
租税公課	2.2	減価償却費	8.9						
賃料料金	0.0	保守修繕費	1.1						
支払地代	0.0	水道光熱費	3.4						
土地改良費	0.0	人件費	5.6						
労務費	126.0								
生産者負担の包装費	0.0								
生産者負担の荷造経費	26.6								
生産者負担の輸送費	10.6								
合計	322.1	合計	113.7	合計	36.4	合計	60.7	合計	100.8

※ 四捨五入の関係で小計と内訳は必ずしも一致しない。

ばれいしょ

ばれいしょ（中晩生・九州産）のコスト調査結果



ばれいしょ（中晩生・九州産）のコスト構造の各段階内訳

【調査の概要】
九州の産地で令和 5 年度に生産・集荷され、東京近郊の卸売市場を経由して、都内のスーパーで小売販売されるケースを事例的に調査。

【留意事項】

- 野菜は地域の気象条件を活かした産地リレーより周年供給されており、同一品目でも栽培条件、栽培方法等が異なり、生産コストは様々。このような野菜の特性を踏まえる
と一律に示すことは難しいため、特定の地域や企業アンケートをもとに作成したもの。
- 具体的には、生産・集出荷段階は、特定のJAを対象にアンケート調査（地域の栽培暦や行政の経営指標等も参照）。卸売・仲卸段階は、開設者（東京都及び横浜
市）公表の市場統計情報を活用。小売段階は、複数の小売事業者から聴取した粗利率等取引価格を乗じて販売価格を推計。このため、仲卸価格や小売価格は直接
的に実額で把握できた訳ではなく、統計調査の小売価格とは大きく乖離。

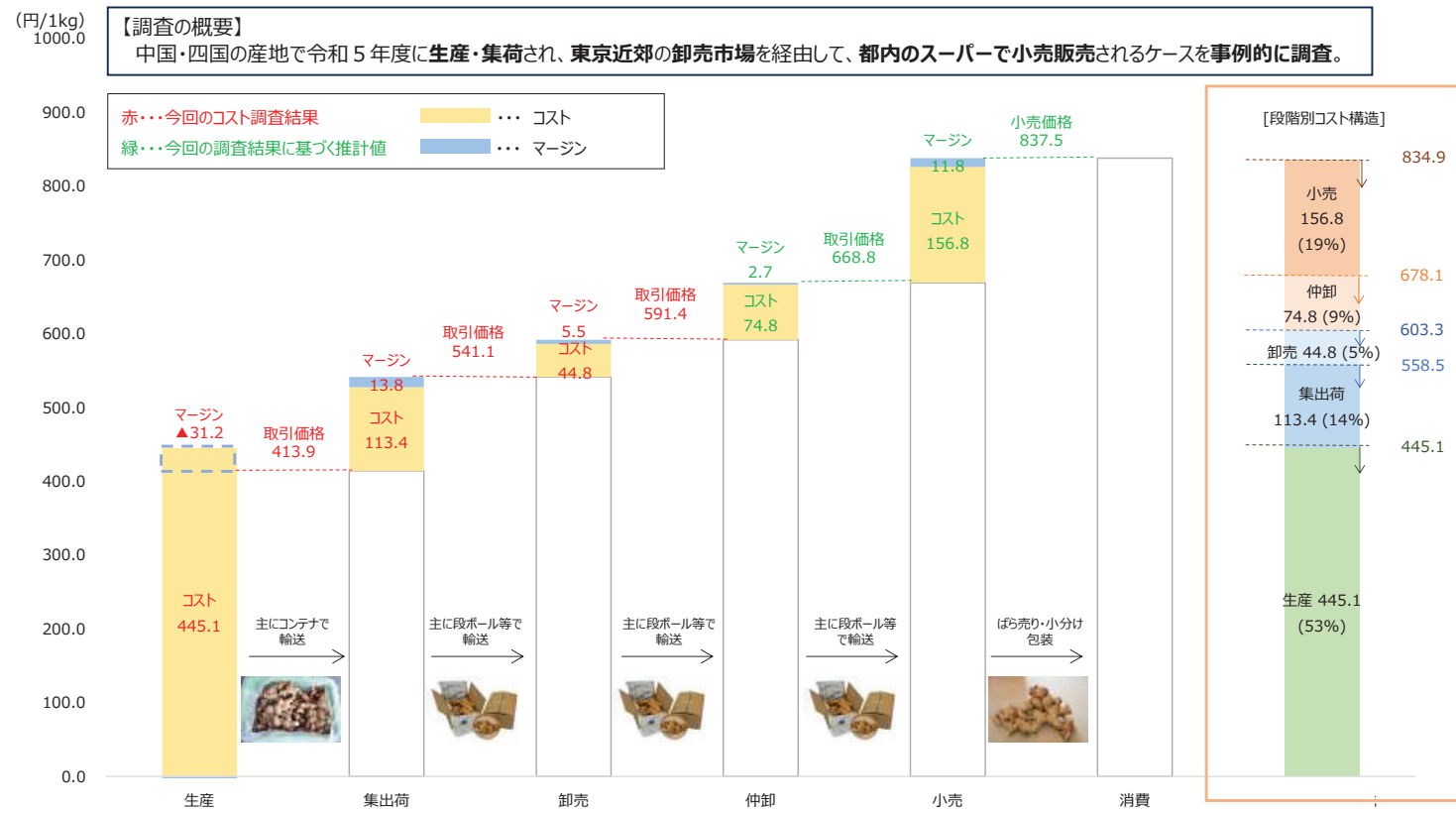
(単位) 円/kg

生産段階	集出荷	卸売	仲卸	小売
物財費	69.5	12.2	1.6	3.7
うち種苗費	15.4	9.4	5.3	17.3
肥料費	8.5	14.8	0.2	2.2
農業費	22.5	1.1	1.0	15.7
諸材料費	4.6	0.0	1.3	
減価償却費	7.6	0.0	2.6	
小農具費	0.2	0.0		
動力光熱費	2.3	0.0		
修繕費	2.6	0.0		
共済掛金 等	0.0	0.1		
租税公課	2.8	2.2		
賃料料金	3.1	0.1		
支払地代	0.7	0.0		
土地改良費	2.7	0.8		
労務費	23.9			
生産者負担の包装費	0.0			
生産者負担の荷造経費	1.4			
生産者負担の輸送費	0.2			
合計	98.5	40.8	12.1	38.9

※ 四捨五入の関係で小計と内訳は必ずしも一致しない。

しょうが

しょうが（中国・四国産）のコスト調査結果



注1：各段階のコストの数値は、「令和5年度適正取引推進に向けた調査（コスト等に関する調査）」（農林水産省）を基に作成。当該調査では、首都圏向けに流通するもののコスト構造を事例的に調査。
注2：生産段階・集出荷段階は中国・四国管内のJAを対象としたアンケート調査。卸売段階は開設者（東京都及び横浜市）HPの市場統計情報を活用するとともに、首都圏の卸売市場を対象にアンケート調査。仲卸段階及び小売段階は、取引価格に仲卸及び小売の粗利額・コストの内訳から推計。仲卸のコストとマージンは「仲卸業者の経営状況2022」を基に、小売のコストとマージンは都内を商圏とする小売事業者を対象としたアンケート調査結果を基にした。
注3：表中のマージンは、調査結果として明らかになったコストと取引価格との差を指すものであり、必ずしも各段階における利益を表すものではない。
注4：四捨五入の関係で、合計しても合わないことがある。
注5：集出荷段階は、主に産地のJAにおける出荷販売に係るコスト等を集計したものであり、集出荷場の運営に係るコスト等に限るものではない。

しょうがのコスト構造の各段階内訳（中国・四国産）

【調査の概要】
中国・四国の産地で令和5年度に生産・集荷され、東京近郊の卸売市場を経由して、都内のスーパーで小売販売されるケースを事例的に調査。

【留意事項】

- 同一品目でも栽培条件、栽培方法等が異なり、生産コストは様々。このような特性を踏まえると一律に示すことは難しいため、特定の地域や企業アンケートをもとに作成したもの。
- 具体的には、生産・集出荷段階は、特定のJAを対象にアンケート調査（地域の栽培暦や行政の経営指標等も参照）。卸売・仲卸段階は、開設者（東京都及び横浜市）公表の市場統計情報を活用。小売段階は、複数の小売事業者から聴取した粗利率等取引価格を乗じて販売価格を推計。このため、仲卸価格や小売価格は直接的に実額で把握できた訳ではなく、統計調査の小売価格とは大きく乖離。
- しょうがは1年かけて加工・販売する品目となっているが、集出荷場の運営コストについては集積場利用者で精算しており、この段階では収支のプラスマイナスは生じていない。

生産段階		集出荷		卸売		仲卸		小売	
物財費	332.2	選別、包装及び荷造労働費	66.2	完納奨励金	6.0	人件費	35.2	輸送費	14.7
うち種苗費	48.1	包装・荷造材料費	24.7	人件費総額	19.6	その他	39.6	人件費	69.9
肥料費	47.7	出荷運送料・積込料	12.7	水道光熱費	0.8			水道光熱費	8.9
農業費	110.3	上部団体手数料	0.0	賃借料・市場使用料	3.7			その他の経費	63.3
諸材料費	10.9	卸売市場出荷に係る負担金(うち、卸売市場出荷分)	0.0	物流関係費	5.0				
減価償却費	43.4	集荷費	0.0	その他費用	9.6				
小農具費	5.6	予冷費	1.0						
動力光熱費	20.0	保管料	0.0						
修繕費	15.9	処分費	2.4						
共済掛金 等	11.3	販売促進費	0.0						
租税公課	19.0	減価償却費	4.9						
賃料料金	0.0	保守修繕費	1.5						
支払地代	16.9	水道光熱費	0.0						
土地改良費	0.4	人件費	0.0						
労務費	95.3								
生産者負担の包装費	0.0								
生産者負担の荷造経費	0.0								
生産者負担の輸送費	0.3								
合計	445.1	合計	113.4	合計	44.8	合計	74.8	合計	156.8

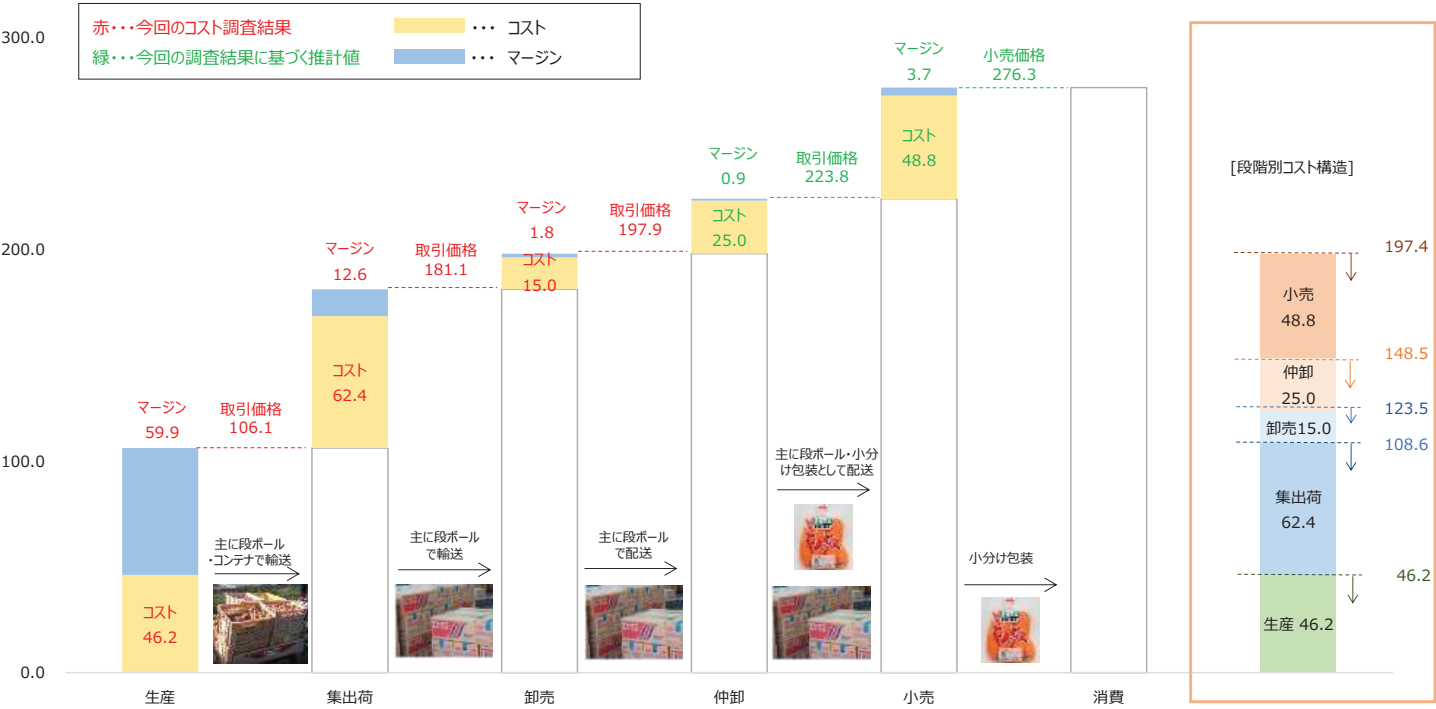
※ 四捨五入の関係で小計と内訳は必ずしも一致しない。

にんじん

秋にんじん（秋作：北海道・東北産その１）のコスト調査結果

(円/kg)

【調査の概要】
北海道・東北の産地で生産・集荷され、東京近郊の卸売市場を経由して、都内のスーパーで小売販売されるケースを事例的に調査。



秋にんじんのコスト構造の各段階内訳（秋作：北海道・東北産その１）

【調査の概要】
北海道・東北の産地で令和5年度に生産・集荷され、東京近郊の卸売市場を経由して、都内のスーパーで小売販売されるケースを事例的に調査。

【留意事項】

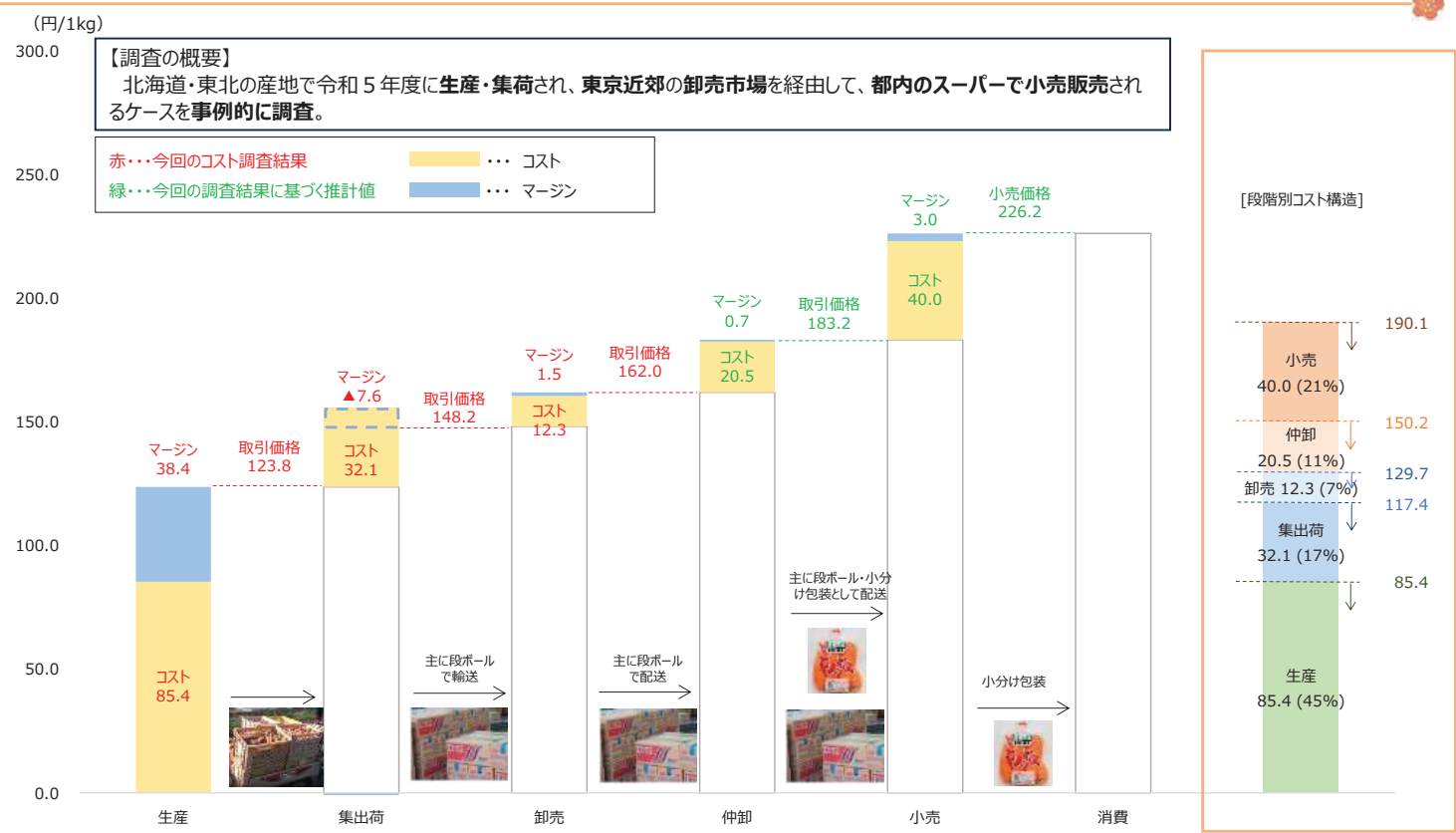
- 野菜は地域の気象条件を活かした産地リレーより周年供給されており、同一品目でも栽培条件、栽培方法等が異なり、生産コストは様々。このような野菜の特性を踏まえる
と一律に示すことは難しいため、特定の地域や企業アンケートをもとに作成したもの。
- 具体的には、生産・集出荷段階は、特定のJAを対象にアンケート調査（地域の栽培暦や行政の経営指標等も参照）。卸売・仲卸段階は、開設者（東京都及び横浜
市）公表の市場統計情報を活用。小売段階は、複数の小売事業者から聴取した粗利率等に取り引価格を乗じて販売価格を推計。このため、仲卸価格や小売価格は直接
的に実額で把握できた訳ではなく、統計調査の小売価格とは大きく乖離。

(単位) 円/kg

生産段階	集出荷	卸売	仲卸	小売
物財費	33.4	10.6	2.0	11.8
うち種苗費	6.4	6.8	6.6	13.3
肥料費	7.3	20.8	0.3	
農業費	5.8	2.4	1.2	
諸材料費	0.5	0.0	1.7	
減価償却費	9.7	5.5	3.2	
小農具費	0.2	0.0		
動力光熱費	1.1	0.0		
修繕費	1.4	0.2		
共済掛金 等	0.5	0.5		
租税公課	0.5	6.1		
賃料料金	0.0	5.2		
支払地代	2.2	3.2		
土地改良費	0.2	1.0		
労務費	10.4			
生産者負担の包装費	0.0			
生産者負担の荷造経費	0.0			
生産者負担の輸送費	0.1			
合計	46.2	62.4	15.0	25.0
				合計 48.8

※ 四捨五入の関係で小計と内訳は必ずしも一致しない。

にんじん（秋作：北海道・東北産その２）のコスト調査結果



にんじんのコスト構造の各段階内訳（秋作：北海道・東北産その２）

【調査の概要】
北海道・東北の産地で令和５年度に生産・集荷され、東京近郊の卸売市場を経由して、都内のスーパーで小売販売されるケースを事例的に調査。

【留意事項】

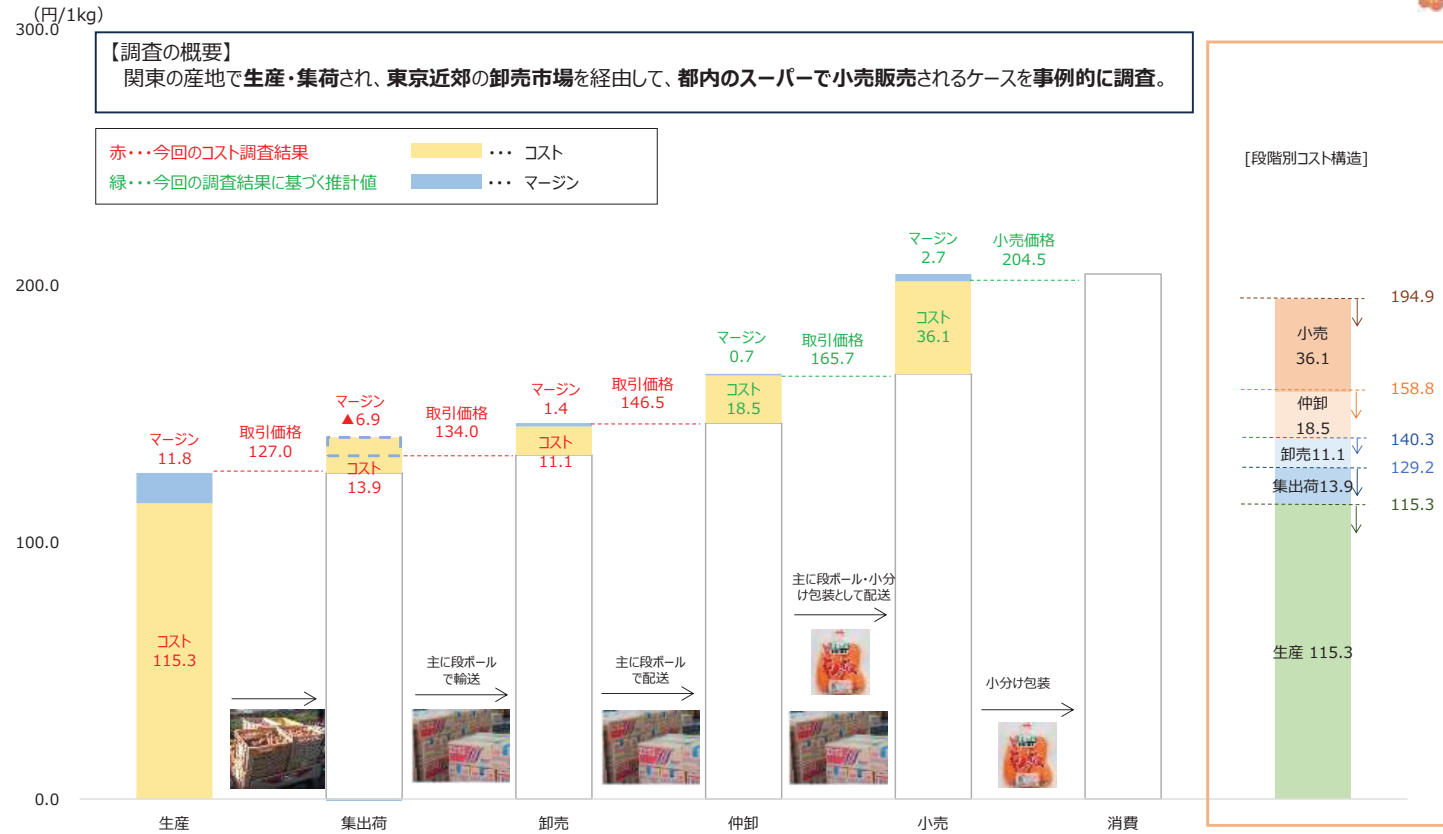
- 野菜は地域の気象条件を活かした産地リレーより周年供給されており、同一品目でも栽培条件、栽培方法等が異なり、生産コストは様々。このような野菜の特性を踏まえると一律に示すことは難しいため、特定の地域や企業アンケートをもとに作成したもの。
- 具体的には、生産・集出荷段階は、特定のJAを対象にアンケート調査（地域の栽培暦や行政の経営指標等も参照）。卸売・仲卸段階は、開設者（東京都及び横浜市）公表の市場統計情報を活用。小売段階は、複数の小売事業者から聴取した粗利率等に取り引価格を乗じて販売価格を推計。このため、仲卸価格や小売価格は直接的に実額で把握できた訳ではなく、統計調査の小売価格とは大きく乖離。

（単位） 円/kg

生産段階		集出荷		卸売		仲卸		小売	
物財費	72.3	選別、包装及び荷造労働費	6.3	完納奨励金	1.7	人件費	9.6	輸送費	3.7
うち種苗費	4.8	包装・荷造材料費	3.5	人件費総額	5.4	その他	10.8	人件費	17.8
肥料費	10.1	出荷運送料・積込料	11.9	水道光熱費	0.2			水道光熱費	2.3
農業費	13.3	上部団体手数料	3.0	賃借料・市場使用料	1.0			その他の経費	16.1
諸材料費	0.1	卸売市場出荷に係る負担金(うち、卸売市場出荷分)	0.2	物流関係費	1.4				
減価償却費	31.4	集荷費	0.2	その他費用	2.6				
小農具費	0.0	予冷費	3.4						
動力光熱費	6.0	保管料	0.0						
修繕費	5.2	処分費	0.0						
共済掛金 等	0.9	販売促進費	0.0						
租税公課	0.5	減価償却費	0.9						
賃料料金	0.0	保守修繕費	0.6						
支払地代	2.1	水道光熱費	1.5						
土地改良費	0.0	人件費	0.6						
労務費	6.0								
生産者負担の包装費	4.1								
生産者負担の荷造経費	0.9								
生産者負担の輸送費	0.0								
合計	85.4	合計	32.1	合計	12.3	合計	20.5	合計	40.0

※ 四捨五入の関係で小計と内訳は必ずしも一致しない。

春夏にんじん（春夏作・関東産）のコスト調査結果



注 1：各段階のコストの数値は、「令和 5 年度適正取引推進に向けた調査（コスト等に関する調査）」（農林水産省委託事業）を基に作成。当該調査では、首都圏向けに流通するもののコスト構造を事例的に調査。
注 2：生産段階・集出荷段階は北海道・東北管内のJAを対象としたアンケート調査。卸売段階は開設者（東京都及び横浜市）HPの市場統計情報を活用するとともに、首都圏の卸売市場を対象にアンケート調査。仲卸段階及び小売段階は、取引価格に仲卸及び小売の粗利額・コストの内訳から推計。仲卸のコストとマージンは「仲卸業者の経営状況2022」を基に、小売のコストとマージンは都内を商圏とする小売事業者を対象としたアンケート調査結果を基にした。
注 3：四捨五入の関係で、合計しても合わないことがある。

春夏にんじんのコスト構造の各段階内訳（春夏作・関東産）

【調査の概要】
関東の産地で令和 5 年度に生産・集荷され、東京近郊の卸売市場を経由して、都内のスーパーで小売販売されるケースを事例的に調査。

【留意事項】

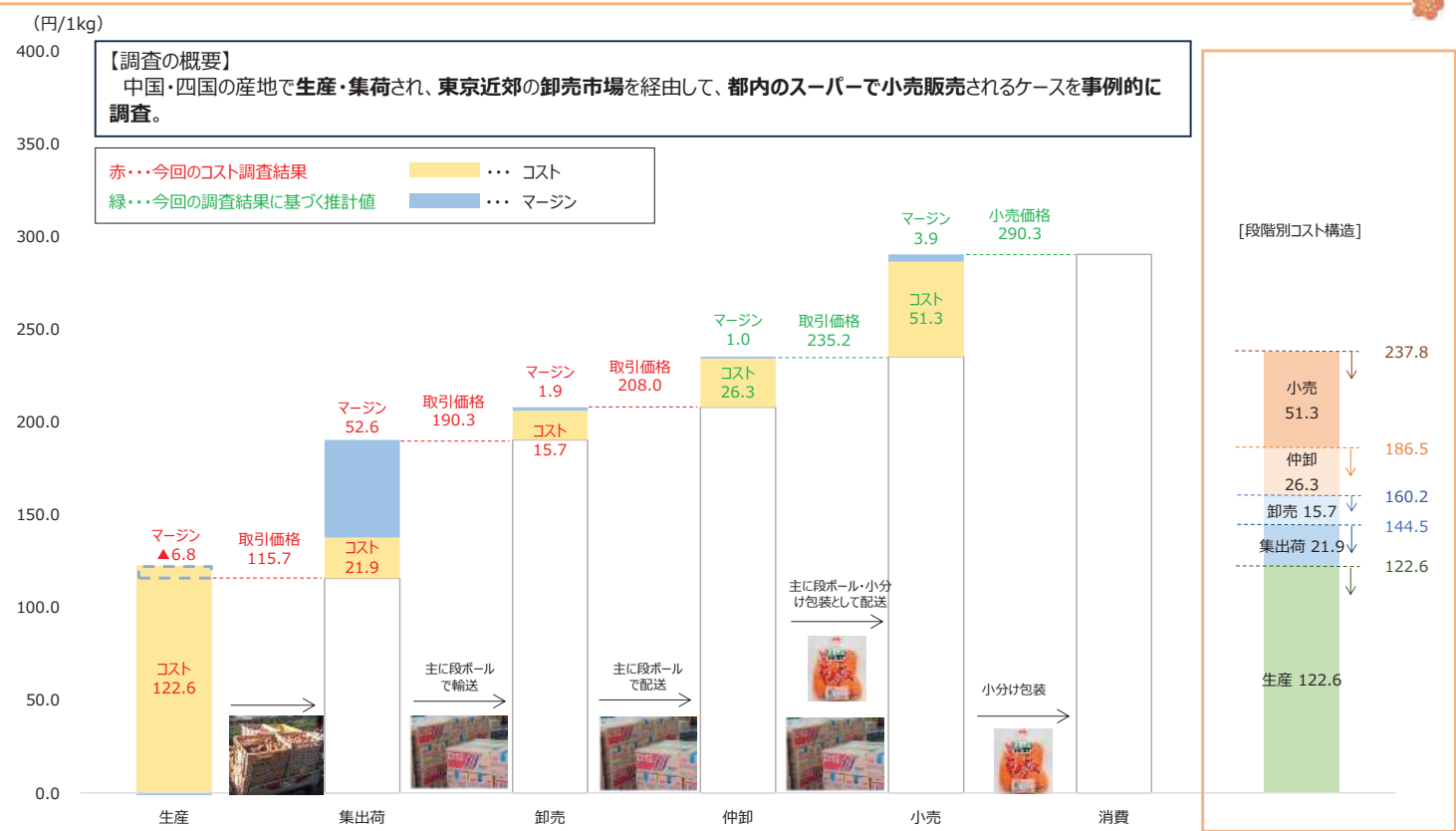
- 野菜は地域の気象条件を活かした産地リレーより周年供給されており、同一品目でも栽培条件、栽培方法等が異なり、生産コストは様々。このような野菜の特性を踏まえる
と一律に示すことは難しいため、特定の地域や企業アンケートをもとに作成したもの。
- 具体的には、生産・集出荷段階は、特定のJAを対象にアンケート調査（地域の栽培暦や行政の経営指標等も参照）。卸売・仲卸段階は、開設者（東京都及び横浜
市）公表の市場統計情報を活用。小売段階は、複数の小売事業者から聴取した粗利率等に取り引価格を乗じて販売価格を推計。このため、仲卸価格や小売価格は直接
的に実額で把握できた訳ではなく、統計調査の小売価格とは大きく乖離。

(単位) 円/kg

生産段階		集出荷		卸売		仲卸		小売	
物財費	62.6	選別、包装及び荷造労働費	0.0	完納奨励金	1.5	人件費	8.7	輸送費	3.4
うち種苗費	4.2	包装・荷造材料費	0.0	人件費総額	4.9	その他	9.8	人件費	16.1
肥料費	4.0	出荷運送料・積込料	8.8	水道光熱費	0.2			水道光熱費	2.1
農業費	6.9	上部団体手数料	1.4	賃借料・市場使用料	0.9			その他の経費	14.6
諸材料費	7.5	卸売市場出荷に係る負担金(うち、卸売市場出荷分)	0.0	物流関係費	1.2				
減価償却費	23.6	集荷費	0.0	その他費用	2.4				
小農具費	2.0	予冷費	2.2						
動力光熱費	4.9	保管料	0.0						
修繕費	5.5	処分費	0.0						
共済掛金 等	1.2	販売促進費	0.0						
租税公課	2.6	減価償却費	0.8						
賃料料金	0.0	保守修繕費	0.0						
支払地代	0.2	水道光熱費	0.2						
土地改良費	0.1	人件費	0.3						
労務費	32.5								
生産者負担の包装費	16.4								
生産者負担の荷造経費	3.3								
生産者負担の輸送費	0.2								
合計	115.3	合計	13.9	合計	11.1	合計	18.5	合計	36.1

※ 四捨五入の関係で小計と内訳は必ずしも一致しない。

春夏にんじん（春夏作・中国・四国産）のコスト調査結果



春夏にんじんのコスト構造の各段階内訳（春夏作・中国・四国産）

【調査の概要】
中国・四国の産地で令和 5 年度に生産・集荷され、東京近郊の卸売市場を経由して、都内のスーパーで小売販売されるケースを事例的に調査。

【留意事項】

- 野菜は地域の気象条件を活かした産地リレーより周年供給されており、同一品目でも栽培条件、栽培方法等が異なり、生産コストは様々。このような野菜の特性を踏まえる
と一律に示すことは難しいため、特定の地域や企業アンケートをもとに作成したもの。
- 具体的には、生産・集出荷段階は、特定のJAを対象にアンケート調査（地域の栽培暦や行政の経営指標等も参照）。卸売・仲卸段階は、開設者（東京都及び横浜
市）公表の市場統計情報を活用。小売段階は、複数の小売事業者から聴取した粗利率等に取り引価格を乗じて販売価格を推計。このため、仲卸価格や小売価格は直接
的に実額で把握できた訳ではなく、統計調査の小売価格とは大きく乖離。

(単位) 円/kg									
生産段階		集出荷		卸売		仲卸		小売	
物財費	83.9	選別、包装及び荷造労働費	0.2	完納奨励金	2.1	人件費	12.4	輸送費	4.8
うち種苗費	7.1	包装・荷造材料費	0.2	人件費総額	6.9	その他	13.9	人件費	22.8
肥料費	21.8	出荷運送料・積込料	19.7	水道光熱費	0.3			水道光熱費	2.9
農業費	8.4	上部団体手数料	0.0	賃借料・市場使用料	1.3			その他の経費	20.7
諸材料費	23.7	卸売市場出荷に係る負担金(うち、卸売市場出荷分)	0.0	物流関係費	1.8				
減価償却費	12.3	集荷費	0.0	その他費用	3.4				
小農具費	1.0	予冷費	1.6						
動力光熱費	5.6	保管料	0.0						
修繕費	4.1	処分費	0.0						
共済掛金 等	0.0	販売促進費	0.1						
租税公課	0.0	減価償却費	0.0						
賃料料金	0.0	保守修繕費	0.0						
支払地代	6.3	水道光熱費	0.0						
土地改良費	0.0	人件費	0.0						
労務費	32.4								
生産者負担の包装費	0.0								
生産者負担の荷造経費	0.0								
生産者負担の輸送費	0.0								
合計	122.6	合計	21.9	合計	15.7	合計	26.3	合計	51.3

※ 四捨五入の関係で小計と内訳は必ずしも一致しない。

ぶどう

ぶどう（露地作：関東産）のコスト調査結果

(円/kg)

【調査の概要】
関東の産地で生産・集荷され、東京近郊の卸売市場を経由して、都内のスーパーで小売販売されるケースを事例的に調査。

赤・・・今回のコスト調査結果
緑・・・今回の調査結果に基づく推計値
・・・コスト
・・・マージン

2500.0

2000.0

1500.0

1000.0

500.0

0.0

生産

集出荷

卸売

仲卸

小売

消費

[段階別コスト構造]

小売 311.4
↓
仲卸 162.7
↓
卸売 80.2
↓
集出荷 82.9
↓
生産 859.7

注 1：各段階のコストの数値は、「令和 5 年度適正取引推進に向けた調査（コスト等に関する調査）」（農林水産省）を基に作成。当該調査では、首都圏向けに流通するもののコスト構造を事例的に調査。
注 2：生産段階・集出荷段階は関東管内のJAを対象としたアンケート調査。卸売段階は開設者（東京都及び横浜市）HPの市場統計情報を活用するとともに、首都圏の卸売市場を対象にアンケート調査。仲卸段階は「仲卸業者の経営状況 2022」を基に、小売段階は都内を商圏とする小売事業者を対象としたアンケート調査から、粗利率とコストの内訳を調査。
注 3：四捨五入の関係で、合計しても合わないことがある。

ぶどう（露地作：関東産）のコスト構造の各段階内訳

【調査の概要】
関東の産地で令和 5 年度に生産・集荷され、東京近郊の卸売市場を経由して、都内のスーパーで小売販売されるケースを事例的に調査。

- 【留意事項】
- 果樹は同一品目でも栽培条件、栽培方法等が異なり、生産コストは様々。このような果樹の特性を踏まえると一律に示すことは難しいため、特定の地域や企業アンケートをもとに作成したものを。
 - 具体的には、生産・集出荷段階は、特定のJAを対象にアンケート調査（地域の栽培暦や行政の経営指標等も参照）。卸売・仲卸段階は、開設者（東京都及び横浜市）公表の市場統計情報を活用。小売段階は、複数の小売事業者から聴取した粗利率等に取引価格を乗じて販売価格を推計。このため、仲卸価格や小売価格は直接的に実額で把握できた訳ではなく、統計調査の小売価格とは大きく乖離。

(単位) 円/kg

生産段階		集出荷		卸売		仲卸		小売	
物財費	370.9	選別、包装及び荷造労働費	0.0	納納奨励金	10.8	人件費	76.5	輸送費	29.2
うち種苗費	0.0	包装・荷造材料費	0.0	人件費総額	35.2	その他	86.2	人件費	138.7
肥料費	26.4	出荷運送料・積送料	23.7	水道光熱費	1.4			水道光熱費	17.8
農業費	63.7	上部団体手数料	5.8	賃借料・市場使用料	6.6			その他の経費	125.7
諸材料費	69.5	卸売市場出荷に係る負担金(うち、卸売市場出荷分)	0.0	物流関係費	8.9				
減価償却費	112.1	集荷費	0.0	その他費用	17.3				
小農具費	19.6	予冷費	0.0						
動力光熱費	7.7	保管料	0.0						
修繕費	46.3	処分費	0.0						
共済掛金 等	17.3	販売促進費	0.8						
租税公課	8.3	減価償却費	27.2						
賃料料金	0.0	保守修繕費	0.6						
支払地代	0.0	水道光熱費	0.9						
土地改良費	3.8	人件費	24.0						
労務費	263.9								
生産者負担の包装費	211.6								
生産者負担の荷造経費	6.7								
生産者負担の輸送費	2.8								
合計	859.7	合計	82.9	合計	80.2	合計	162.7	合計	311.4

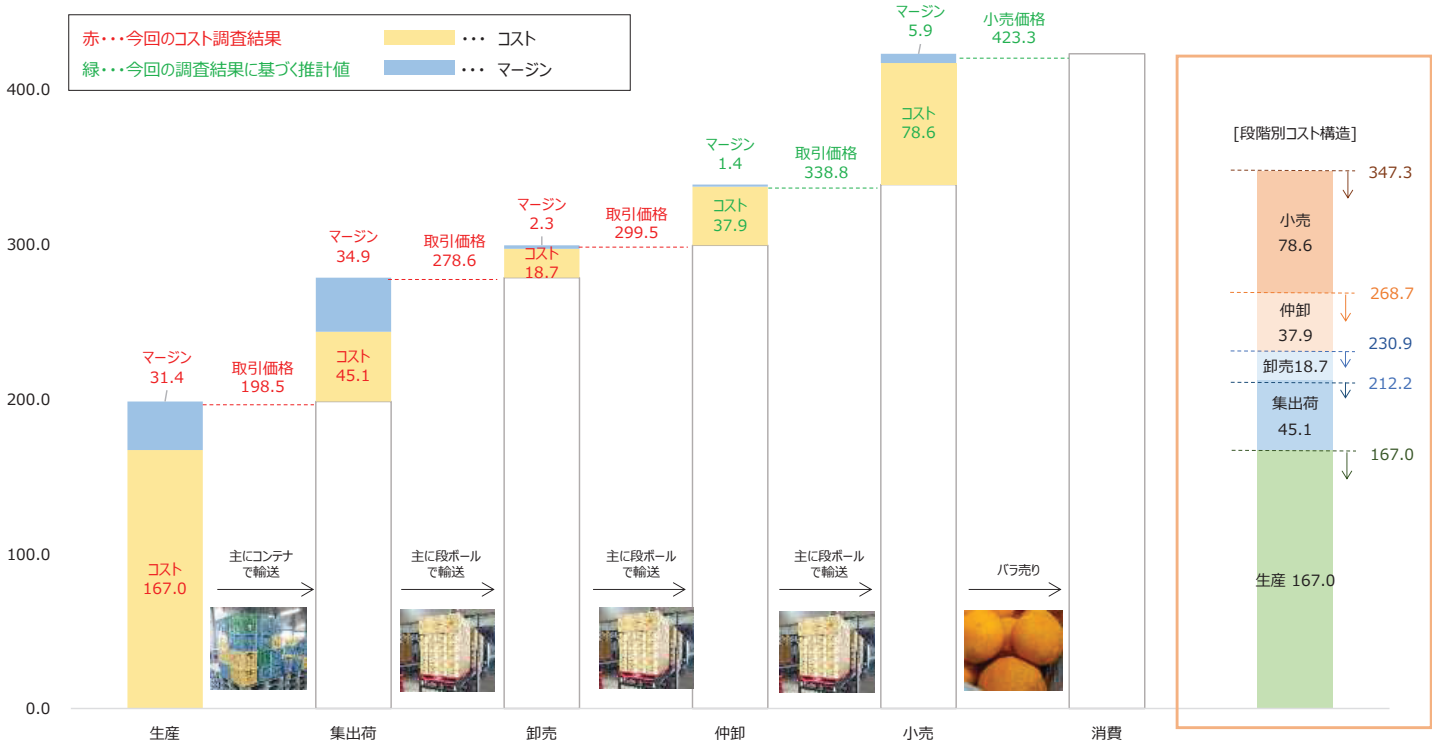
※ 他の費目と併せて計上されており分割できない費目、キロあたりに変換した際に小数点第 2 位以下となる費目については、表中のコスト額が「0.0」表記となっている。
※ 四捨五入の関係で小計と内訳は必ずしも一致しない。

みかん

みかん（露地作：中国・四国産）のコスト調査結果

(円/kg)
500.0

【調査の概要】
中国・四国の産地で生産・集荷され、東京近郊の卸売市場を経由して、都内のスーパーで小売販売されるケースを事例的に調査。



注 1：各段階のコストの数値は、「令和 5 年度適正取引推進に向けた調査（コスト等に関する調査）」（農林水産省）を基に作成。当該調査では、首都圏向けに流通するもののコスト構造を事例的に調査。
注 2：生産段階・集出荷段階は中国・四国管内のJAを対象としたアンケート調査。卸売段階は開設者（東京都及び横浜市）HPの市場統計情報を活用するとともに、首都圏の卸売市場を対象にアンケート調査。仲卸段階は「仲卸業者の経営状況2022」を基に、小売段階は都内を商圏とする小売事業者を対象としたアンケート調査から、粗利率とコストの内訳を調査。
注 3：四捨五入の関係で、合計しても合わないことがある。
注 4：コストの集計に一部誤りがあったため修正（令和 7 年12月）

みかん（露地作：中国・四国産）のコスト構造の各段階内訳

【調査の概要】
中国・四国の産地で令和 5 年度に生産・集荷され、東京近郊の卸売市場を経由して、都内のスーパーで小売販売されるケースを事例的に調査。

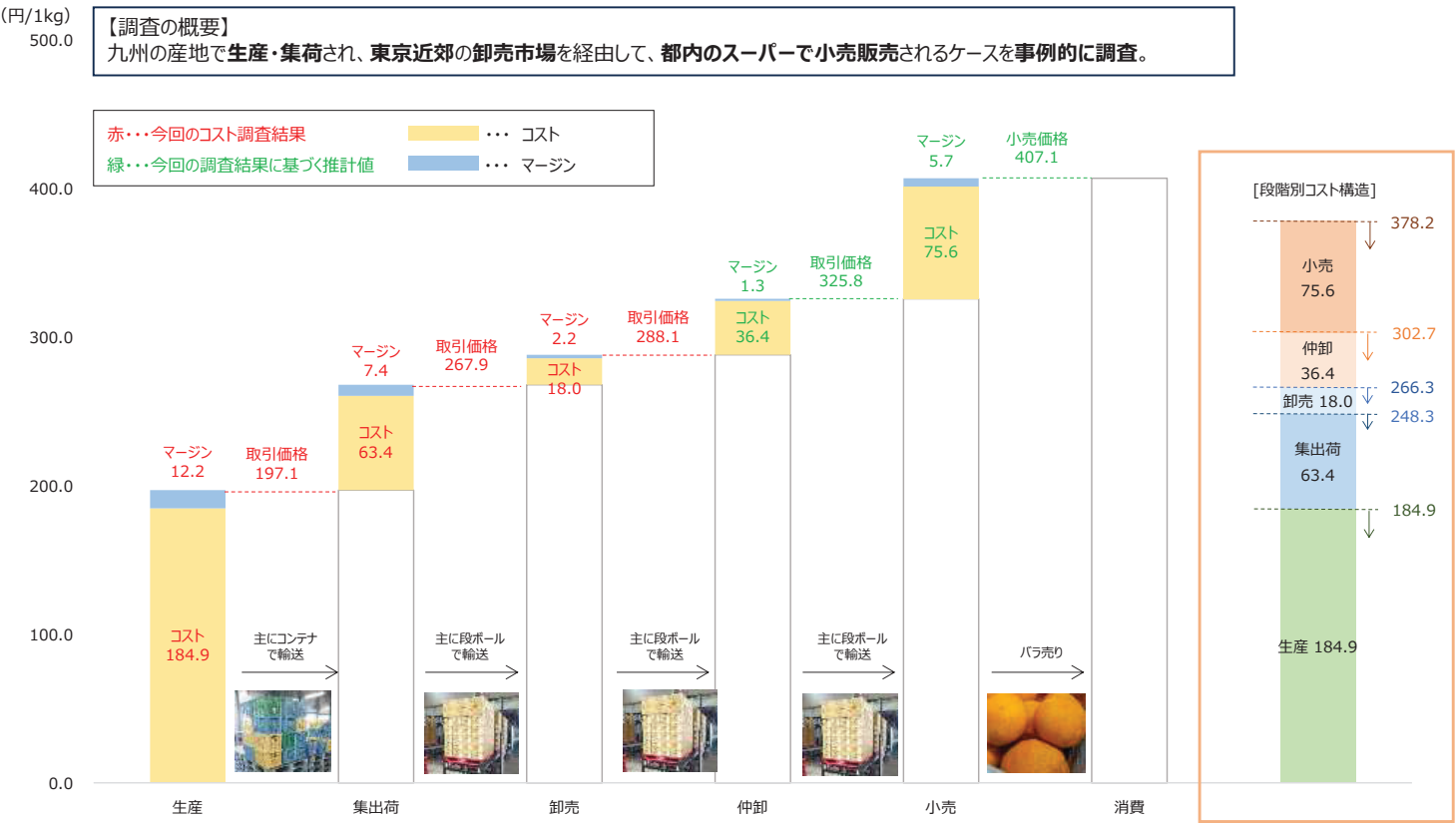
- 【留意事項】
- 果樹は同一品目でも栽培条件、栽培方法等が異なり、生産コストは様々。このような果樹の特性を踏まえると一律に示すことは難しいため、特定の地域や企業アンケートをもとに作成したもの。
 - 具体的には、生産・集出荷段階は、特定のJAを対象にアンケート調査（地域の栽培暦や行政の経営指標等も参照）。卸売・仲卸段階は、開設者（東京都及び横浜市）公表の市場統計情報を活用。小売段階は、複数の小売事業者から聴取した粗利率等に取引価格を乗じて販売価格を推計。このため、仲卸価格や小売価格は直接的に実額で把握できた訳ではなく、統計調査の小売価格とは大きく乖離。

(単位) 円/kg

生産段階		集出荷		卸売		仲卸		小売	
物財費	86.6	選別・包装及び荷造労働費	8.2	完納奨励金	2.5	人件費	17.8	輸送費	7.4
うち種苗費	0.0	包装・荷造材料費	12.1	人件費総額	8.2	その他	20.1	人件費	35.0
肥料費	13.3	出荷運送料・積込料	17.4	水道光熱費	0.3			水道光熱費	4.5
農業費	21.0	上部団体手数料	0.7	賃借料・市場使用料	1.5			その他の経費	31.7
諸材料費	2.3	卸売市場出荷に係る負担金(うち、卸売市場出荷分)	1.6	物流関係費	2.1				
減価償却費	27.0	集荷費	0.3	その他費用	4.0				
小農具費	4.3	予冷費	0.0						
動力光熱費	3.1	保管料	0.0						
修繕費	8.7	処分費	0.1						
共済掛金 等	2.6	販売促進費	0.4						
租税公課	4.3	減価償却費	1.7						
賃料料金	0.0	保守修繕費	1.0						
支払地代	2.4	水道光熱費	1.1						
土地改良費	0.0	人件費	0.6						
労務費	78.2								
生産者負担の包装費	0.0								
生産者負担の荷造経費	0.0								
生産者負担の輸送費	0.0								
合計	167.0	合計	45.1	合計	18.7	合計	37.9	合計	78.6

※ 四捨五入の関係で小計と内訳は必ずしも一致しない。

みかん（露地作：九州産）のコスト調査結果



注 1：各段階のコストの数値は、「令和 5 年度適正取引推進に向けた調査（コスト等に関する調査）」（農林水産省）を基に作成。当該調査では、首都圏向けに流通するもののコスト構造を事例的に調査。
注 2：生産段階・集出荷段階は九州管内のJAを対象としたアンケート調査。卸売段階は開設者（東京都及び横浜市）HPの市場統計情報を活用するとともに、首都圏の卸売市場を対象にアンケート調査。仲卸段階は「仲卸業者の経営状況2022」を基に、小売段階は都内を商圏とする小売事業者を対象としたアンケート調査から、粗利率とコストの内訳を調査。
注 3：四捨五入の関係で、合計しても合わないことがある。

みかん（露地作：九州産）のコスト構造の各段階内訳

【調査の概要】
九州の産地で令和 5 年度に生産・集荷され、東京近郊の卸売市場を経由して、都内のスーパーで小売販売されるケースを事例的に調査。

【留意事項】

- 果樹は同一品目でも栽培条件、栽培方法等が異なり、生産コストは様々。このような果樹の特性を踏まえると一律に示すことは難しいため、特定の地域や企業アンケートをもとに作成したもの。
- 具体的には、生産・集出荷段階は、特定のJAを対象にアンケート調査（地域の栽培暦や行政の経営指標等も参照）。卸売・仲卸段階は、開設者（東京都及び横浜市）公表の市場統計情報を活用。小売段階は、複数の小売事業者から聴取した粗利率等に取引価格を乗じて販売価格を推計。このため、仲卸価格や小売価格は直接的に実額で把握できた訳ではなく、統計調査の小売価格とは大きく乖離。

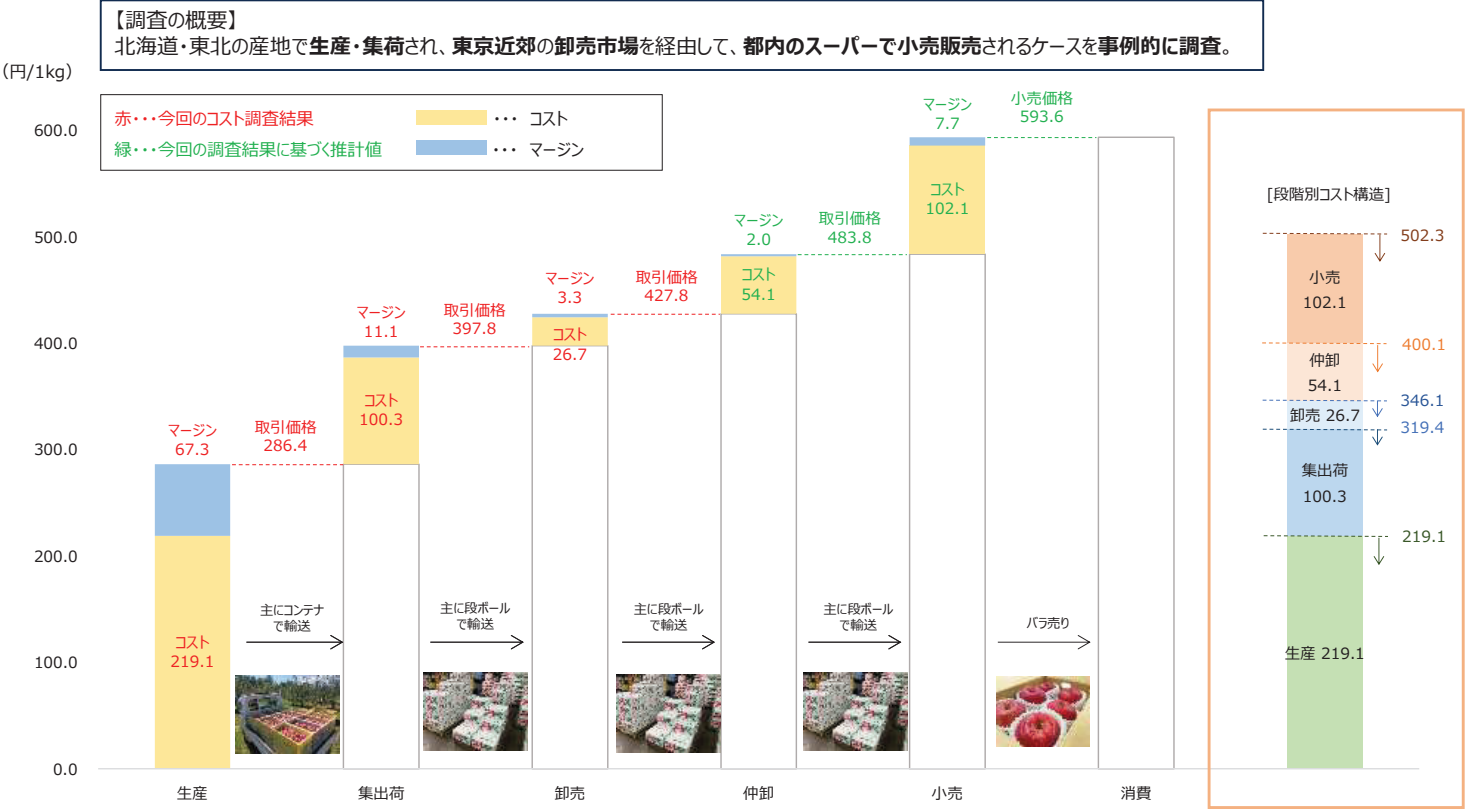
（単位）円/kg

生産段階		集出荷		卸売		仲卸		小売	
物財費	121.2	選別、包装及び荷造労働費	6.0	完納奨励金	2.4	人件費	17.1	輸送費	7.1
うち種苗費	0.0	包装・荷造材料費	18.1	人件費総額	7.9	その他	19.3	人件費	33.7
肥料費	16.6	出荷運送料・積込料	20.9	水道光熱費	0.3			水道光熱費	4.3
農業費	22.8	上部団体手数料	0.2	賃借料・市場使用料	1.5			その他の経費	30.5
諸材料費	12.6	卸売市場出荷に係る負担金(うち、卸売市場出荷分)	0.2	物流関係費	2.0				
減価償却費	42.9	集荷費	0.1	その他費用	3.9				
小農具費	0.9	予冷費	0.0						
動力光熱費	2.5	保管料	0.0						
修繕費	5.8	処分費	0.0						
共済掛金 等	13.2	販売促進費	0.3						
租税公課	3.8	減価償却費	7.3						
賃料料金	0.0	保守修繕費	2.9						
支払地代	0.0	水道光熱費	1.2						
土地改良費	0.0	人件費	6.1						
労務費	63.0								
生産者負担の包装費	0.0								
生産者負担の荷造経費	0.4								
生産者負担の輸送費	0.3								
合計	184.9	合計	63.4	合計	18.0	合計	36.4	合計	75.6

※ 四捨五入の関係で小計と内訳は必ずしも一致しない。

りんご

りんご（露地作：北海道・東北産その１）のコスト調査結果



注 1：各段階のコストの数値は、「令和 5 年度適正取引推進に向けた調査（コスト等に関する調査）」（農林水産省）を基に作成。当該調査では、首都圏向けに流通するもののコスト構造を事例的に調査。
注 2：生産段階・集出荷段階は北海道・東北管内のJAを対象としたアンケート調査。卸売段階は開設者（東京都及び横浜市）HPの市場統計情報を活用するとともに、首都圏の卸売市場を対象にアンケート調査。仲卸段階は「仲卸業者の経営状況2022」を基に、小売段階は都内を商圏とする小売事業者を対象としたアンケート調査から、粗利率とコストの内訳を調査。
注 3：四捨五入の関係で、合計しても合わないことがある。

りんご（露地作：北海道・東北産その１）のコスト構造の各段階内訳

【調査の概要】
北海道・東北の産地で令和 5 年度に生産・集荷され、東京近郊の卸売市場を経由して、都内のスーパーで小売販売されるケースを事例的に調査。

【留意事項】

- 果樹は同一品目でも栽培条件、栽培方法等が異なり、生産コストは様々。このような果樹の特性を踏まえると一律に示すことは難しいため、特定の地域や企業アンケートをもとに作成したもの。
- 具体的には、生産・集出荷段階は、特定のJAを対象にアンケート調査（地域の栽培暦や行政の経営指標等も参照）。卸売・仲卸段階は、開設者（東京都及び横浜市）公表の市場統計情報を活用。小売段階は、複数の小売事業者から聴取した粗利率等に取引価格を乗じて販売価格を推計。このため、仲卸価格や小売価格は直接的に実額で把握できた訳ではなく、統計調査の小売価格とは大きく乖離。

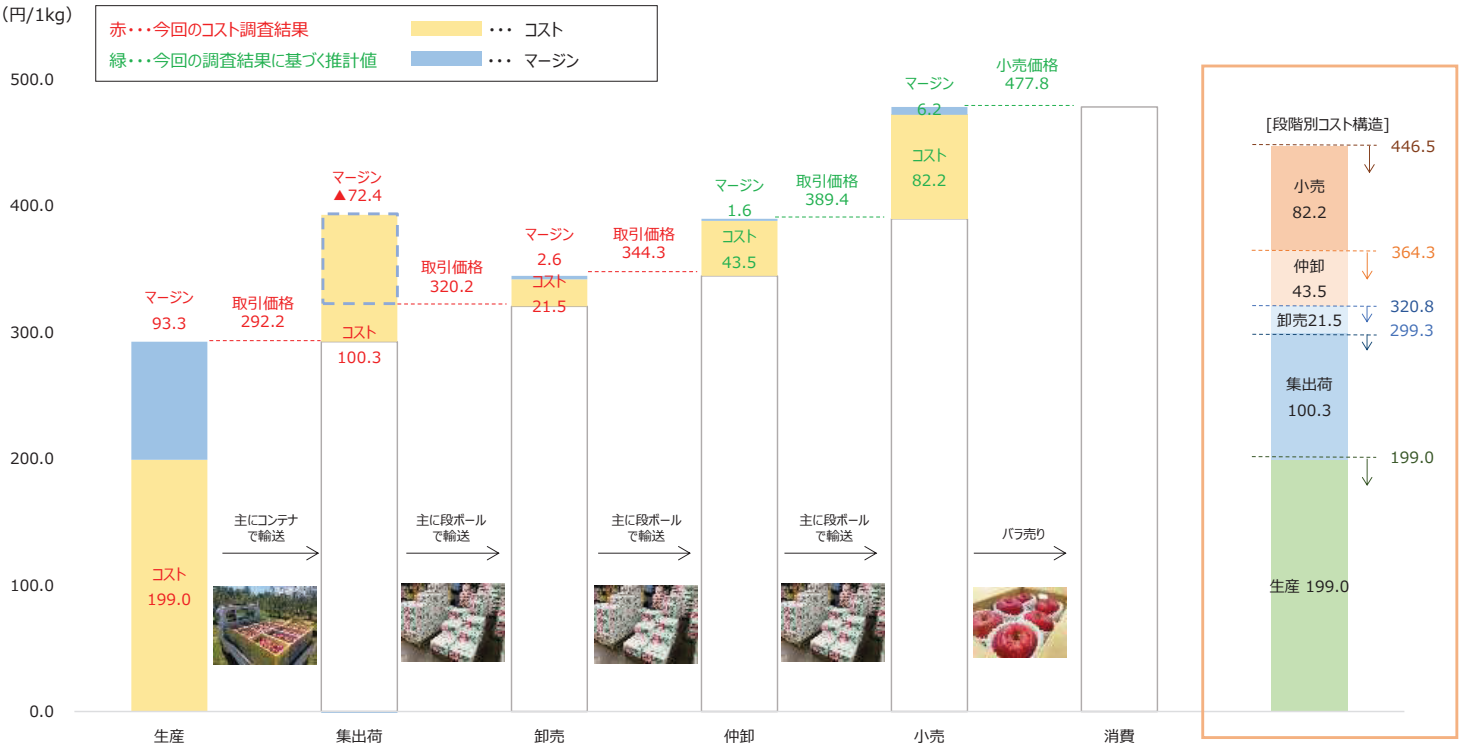
(単位) 円/kg

生産段階		集出荷		卸売		仲卸		小売	
物財費	96.2	選別、包装及び荷造労働費	18.5	完納奨励金	3.6	人件費	25.4	輸送費	9.6
うち種苗費	0.0	包装・荷造材料費	21.9	人件費総額	11.7	その他	28.6	人件費	45.5
肥料費	4.3	出荷運送料・積込料	19.6	水道光熱費	0.5			水道光熱費	5.8
農業費	31.5	上部団体手数料	6.2	賃借料・市場使用料	2.2			その他の経費	41.2
諸材料費	1.7	卸売市場出荷に係る負担金(うち、卸売市場出荷分)	0.5	物流関係費	3.0				
減価償却費	45.3	集荷費	0.2	その他費用	5.7				
小農具費	0.6	予冷費	8.5						
動力光熱費	1.7	保管料	0.0						
修繕費	4.3	処分費	0.0						
共済掛金 等	5.9	販売促進費	0.4						
租税公課	0.9	減価償却費	5.9						
賃料料金	0.0	保守修繕費	1.6						
支払地代	0.0	水道光熱費	6.6						
土地改良費	0.2	人件費	10.5						
労務費	100.6								
生産者負担の包装費	10.6								
生産者負担の荷造経費	11.3								
生産者負担の輸送費	0.1								
合計	219.1	合計	100.3	合計	26.7	合計	54.1	合計	102.1

※ 四捨五入の関係で小計と内訳は必ずしも一致しない。

りんご（露地作：北海道・東北産その２）のコスト調査結果

【調査の概要】
北海道・東北の産地で生産・集荷され、東京近郊の卸売市場を経由して、都内のスーパーで小売販売されるケースを事例的に調査。



りんご（露地作：北海道・東北産その２）のコスト構造の各段階内訳

【調査の概要】
北海道・東北の産地で令和 5 年度に生産・集荷され、東京近郊の卸売市場を経由して、都内のスーパーで小売販売されるケースを事例的に調査。

- 【留意事項】
- 果樹は同一品目でも栽培条件、栽培方法等が異なり、生産コストは様々。このような果樹の特性を踏まえると一律に示すことは難しいため、特定の地域や企業アンケートをもとに作成したもの。
 - 具体的には、生産・集出荷段階は、特定のJAを対象にアンケート調査（地域の栽培暦や行政の経営指標等も参照）。卸売・仲卸段階は、開設者（東京都及び横浜市）公表の市場統計情報を活用。小売段階は、複数の小売事業者から聴取した粗利率等に取引価格を乗じて販売価格を推計。このため、仲卸価格や小売価格は直接的に実額で把握できた訳ではなく、統計調査の小売価格とは大きく乖離。

(単位) 円/kg

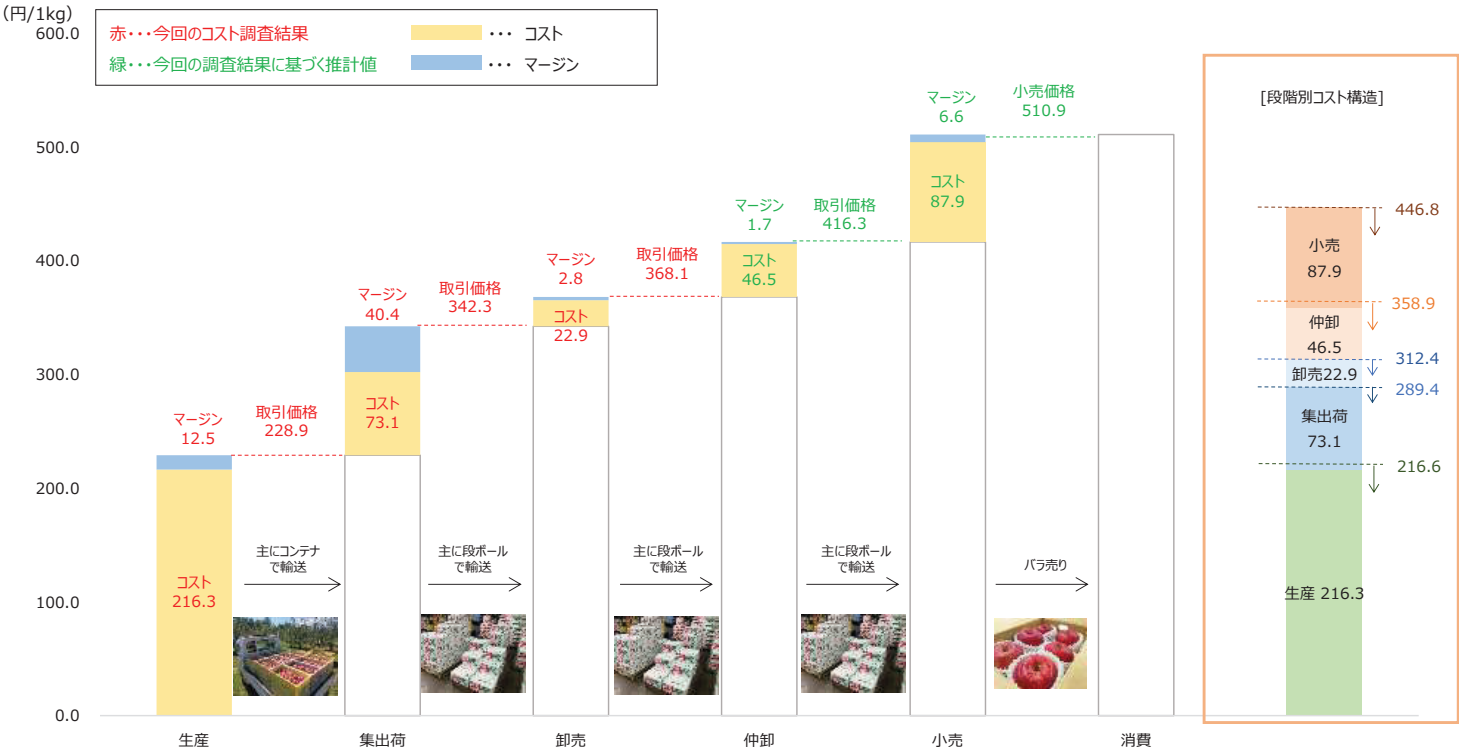
生産段階		集出荷		卸売		仲卸		小売	
物財費	98.6	選別、包装及び荷造労働費	18.5	完納奨励金	2.9	人件費	20.5	輸送費	7.7
うち種苗費	0.0	包装・荷造材料費	21.9	人件費総額	9.4	その他	23.1	人件費	36.6
肥料費	4.3	出荷運送料・積込料	19.6	水道光熱費	0.4			水道光熱費	4.7
農業費	30.1	上部団体手数料	6.2	賃借料・市場使用料	1.8			その他の経費	33.2
諸材料費	1.6	卸売市場出荷に係る負担金(うち、卸売市場出荷分)	0.5	物流関係費	2.4				
減価償却費	49.3	集荷費	0.2	その他費用	4.6				
小農具費	0.5	予冷費	8.5						
動力光熱費	1.7	保管料	0.0						
修繕費	4.3	処分費	0.0						
共済掛金 等	5.9	販売促進費	0.4						
租税公課	0.9	減価償却費	5.9						
賃料料金	0.0	保守修繕費	1.6						
支払地代	0.0	水道光熱費	6.6						
土地改良費	0.2	人件費	10.5						
労務費	78.2								
生産者負担の包装費	10.6								
生産者負担の荷造経費	11.3								
生産者負担の輸送費	0.1								
合計	199.0	合計	100.3	合計	21.5	合計	43.5	合計	82.2

※ 四捨五入の関係で小計と内訳は必ずしも一致しない。

りんご（露地作：関東産その１）のコスト調査結果

【調査の概要】

関東の産地で生産・集荷され、東京近郊の卸売市場を経由して、都内のスーパーで小売販売されるケースを事例的に調査。



注 1：各段階のコストの数値は、「令和 5 年度適正取引推進に向けた調査（コスト等に関する調査）」（農林水産省）を基に作成。当該調査では、首都圏向けに流通するもののコスト構造を事例的に調査。
注 2：生産段階・集出荷段階は関東管内のJAを対象としたアンケート調査。卸売段階は開設者（東京都及び横浜市）HPの市場統計情報を活用するとともに、首都圏の卸売市場を対象にアンケート調査。仲卸段階は「仲卸業者の経営状況2022」を基に、小売段階は都内を商圏とする小売事業者を対象としたアンケート調査から、粗利率とコストの内訳を調査。
注 3：四捨五入の関係で、合計しても合わないことがある。

りんご（露地作：関東産その１）のコスト構造の各段階内訳

【調査の概要】

関東の産地で令和 5 年度に生産・集荷され、東京近郊の卸売市場を経由して、都内のスーパーで小売販売されるケースを事例的に調査。

【留意事項】

- 果樹は同一品目でも栽培条件、栽培方法等が異なり、生産コストは様々。このような果樹の特性を踏まえると一律に示すことは難しいため、特定の地域や企業アンケートをもとに作成したもの。
- 具体的には、生産・集出荷段階は、特定のJAを対象にアンケート調査（地域の栽培暦や行政の経営指標等も参照）。卸売・仲卸段階は、開設者（東京都及び横浜市）公表の市場統計情報を活用。小売段階は、複数の小売事業者から聴取した粗利率等に取引価格を乗じて販売価格を推計。このため、仲卸価格や小売価格は直接的に実額で把握できた訳ではなく、統計調査の小売価格とは大きく乖離。

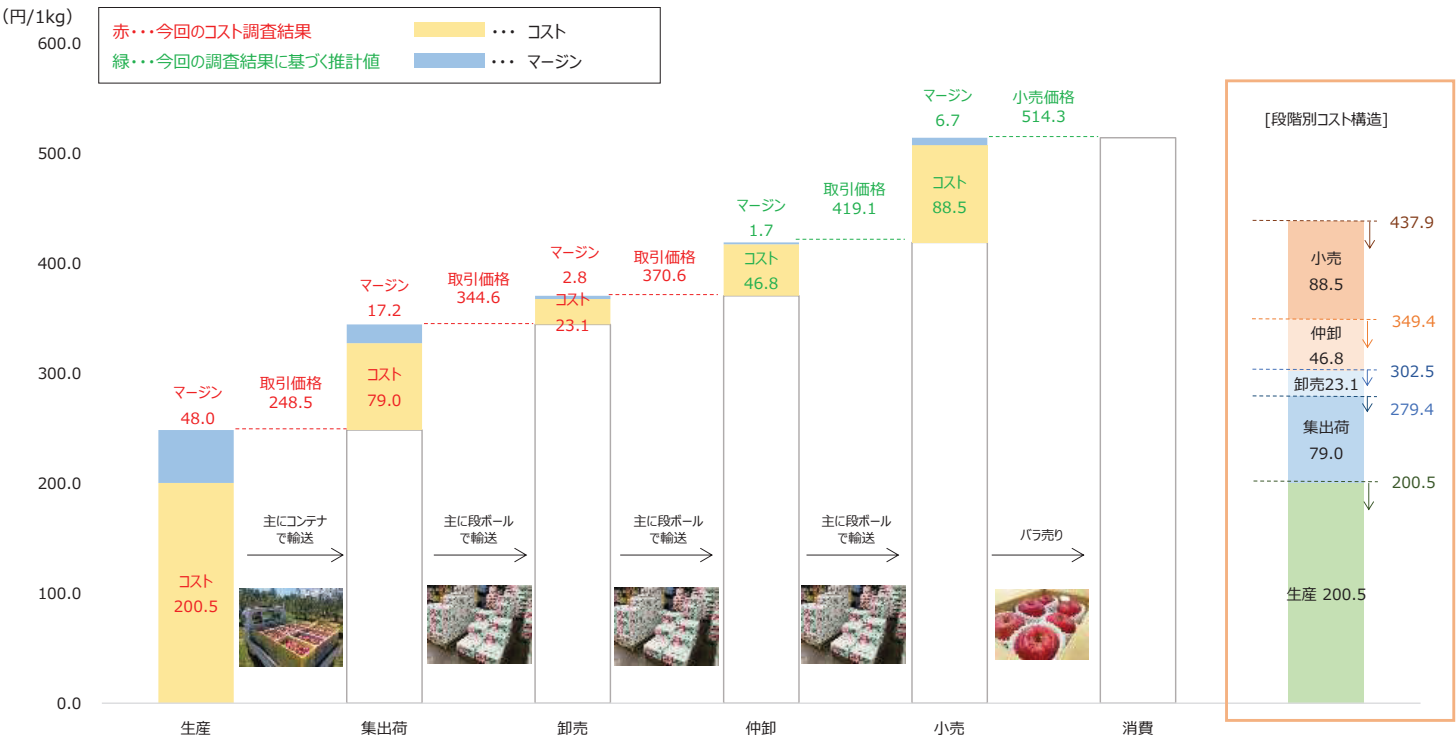
(単位) 円/kg

生産段階		集出荷		卸売		仲卸		小売	
物財費	124.9	選別、包装及び荷造労働費	23.2	完納奨励金	3.1	人件費	21.9	輸送費	8.2
うち種苗費	0.0	包装・荷造材料費	15.2	人件費総額	10.1	その他	24.7	人件費	39.2
肥料費	7.0	出荷運送料・積込料	11.9	水道光熱費	0.4			水道光熱費	5.0
農業費	37.5	上部団体手数料	2.8	賃借料・市場使用料	1.9			その他の経費	35.5
諸材料費	4.7	卸売市場出荷に係る負担金(うち、卸売市場出荷分)	0.0	物流関係費	2.6				
減価償却費	39.2	集荷費	0.7	その他費用	4.9				
小農具費	6.3	予冷費	0.7						
動力光熱費	5.6	保管料	0.0						
修繕費	12.9	処分費	0.0						
共済掛金 等	11.6	販売促進費	0.4						
租税公課	0.1	減価償却費	2.4						
賃料料金	0.0	保守修繕費	2.4						
支払地代	4.7	水道光熱費	2.5						
土地改良費	1.3	人件費	11.1						
労務費	84.3								
生産者負担の包装費	0.0								
生産者負担の荷造経費	0.5								
生産者負担の輸送費	0.6								
合計	216.3	合計	73.1	合計	22.9	合計	46.5	合計	87.9

※ 四捨五入の関係で小計と内訳は必ずしも一致しない。

りんご（露地作：関東産その２）のコスト調査結果

【調査の概要】
関東の産地で生産・集荷され、東京近郊の卸売市場を経由して、都内のスーパーで小売販売されるケースを事例的に調査。



りんご（露地作：関東産その２）のコスト構造の各段階内訳

【調査の概要】
関東の産地で令和5年度に生産・集荷され、東京近郊の卸売市場を経由して、都内のスーパーで小売販売されるケースを事例的に調査。
【留意事項】
● 果樹は同一品目でも栽培条件、栽培方法等が異なり、生産コストは様々。このような果樹の特性を踏まえると一律に示すことは難しいため、特定の地域や企業アンケートをもとに作成したもの。
● 具体的には、生産・集出荷段階は、特定のJAを対象にアンケート調査（地域の栽培暦や行政の経営指標等も参照）。卸売・仲卸段階は、開設者（東京都及び横浜市）公表の市場統計情報を活用。小売段階は、複数の小売事業者から聴取した粗利率等に取引価格を乗じて販売価格を推計。このため、仲卸価格や小売価格は直接的に実額で把握できた訳ではなく、統計調査の小売価格とは大きく乖離。

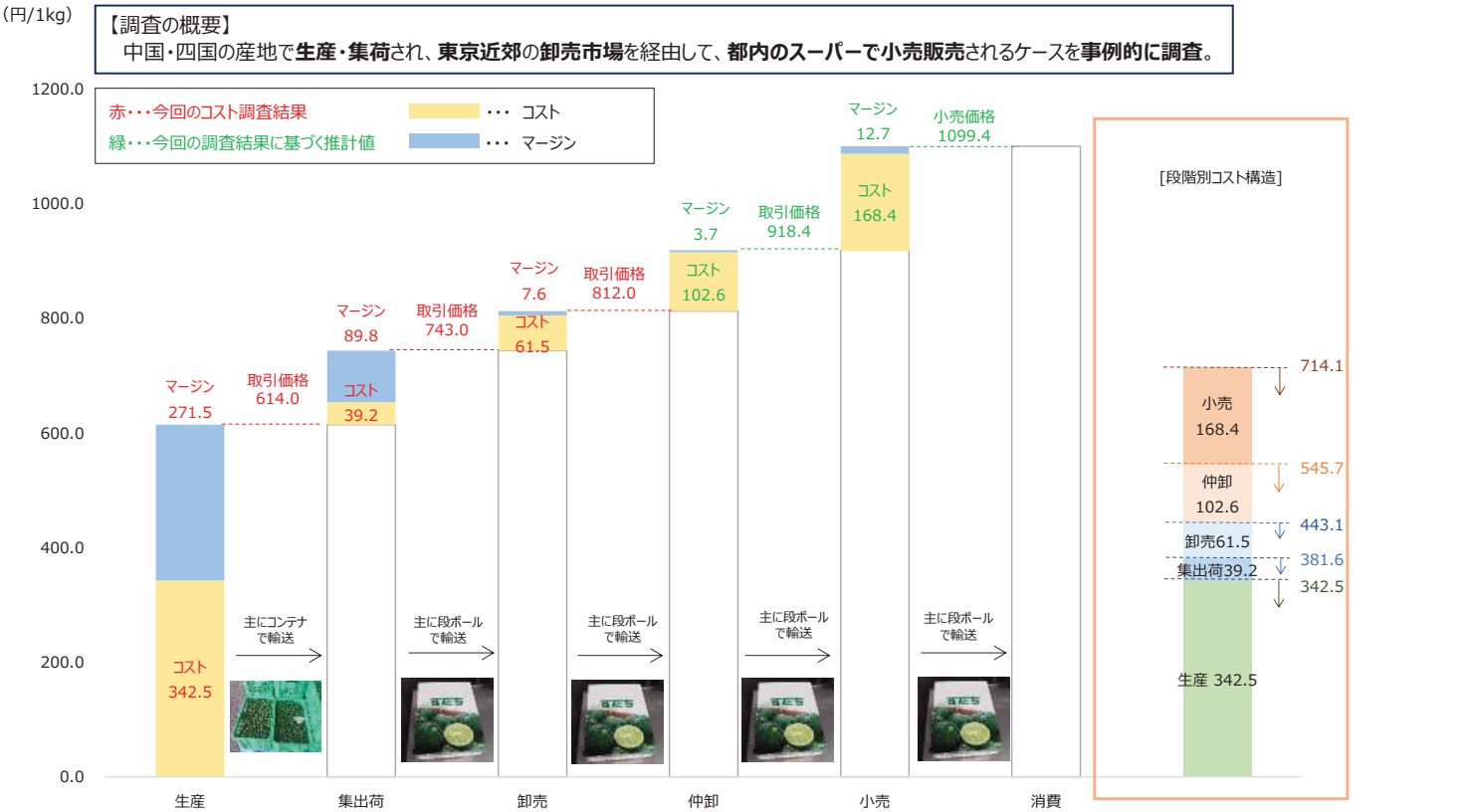
（単位）円/kg

生産段階		集出荷		卸売		仲卸		小売	
物財費	119.0	選別、包装及び荷造労働費	24.9	完納奨励金	3.1	人件費	22.0	輸送費	8.3
うち種苗費	0.0	包装・荷造材料費	16.0	人件費総額	10.1	その他	24.8	人件費	39.4
肥料費	7.0	出荷運送料・積込料	13.8	水道光熱費	0.4			水道光熱費	5.0
農業費	34.5	上部団体手数料	2.7	賃借料・市場使用料	1.9			その他の経費	35.7
諸材料費	4.1	卸売市場出荷に係る負担金(うち、卸売市場出荷分)	0.0	物流関係費	2.6				
減価償却費	39.2	集荷費	0.8	その他費用	5.0				
小農具費	6.3	予冷費	0.8						
動力光熱費	5.6	保管料	0.0						
修繕費	12.9	処分費	0.0						
共済掛金 等	9.3	販売促進費	0.5						
租税公課	0.1	減価償却費	2.4						
賃料料金	0.0	保守修繕費	2.4						
支払地代	4.7	水道光熱費	3.0						
土地改良費	1.3	人件費	11.7						
労務費	74.8								
生産者負担の包装費	0.0								
生産者負担の荷造経費	0.0								
生産者負担の輸送費	0.5								
合計	200.5	合計	79.0	合計	23.1	合計	46.8	合計	88.5

※ 四捨五入の関係で小計と内訳は必ずしも一致しない。

すだち

すだち（露地作：中国・四国産）のコスト調査結果



96

すだち（露地作：中国・四国産）のコスト構造の各段階内訳

- 【調査の概要】
中国・四国の産地で令和5年度に生産・集荷され、東京近郊の卸売市場を経由して、都内のスーパーで小売販売されるケースを事例的に調査。
- 【留意事項】
- 果樹は同一品目でも栽培条件、栽培方法等が異なり、生産コストは様々。このような果樹の特性を踏まえると一律に示すことは難しいため、特定の地域や企業アンケートをもとに作成したもの。
 - 具体的には、生産・集出荷段階は、特定のJAを対象にアンケート調査（地域の栽培暦や行政の経営指標等も参照）。卸売・仲卸段階は、開設者（東京都及び横浜市）公表の市場統計情報を活用。小売段階は、複数の小売事業者から聴取した粗利率等に取引価格を乗じて販売価格を推計。このため、仲卸価格や小売価格は直接的に実額で把握できた訳ではなく、統計調査の小売価格とは大きく乖離。

（単位）円/kg

生産段階		集出荷		卸売		仲卸		小売	
物財費	102.5	選別、包装及び荷造労働費	3.6	完納奨励金	8.3	人件費	48.3	輸送費	15.8
うち種苗費	0.0	包装・荷造材料費	12.6	人件費総額	27.0	その他	54.4	人件費	75.0
肥料費	22.8	出荷運送料・積込料	4.3	水道光熱費	1.1			水道光熱費	9.6
農業費	30.6	上部団体手数料	1.9	賃借料・市場使用料	5.0			その他の経費	68.0
諸材料費	0.0	卸売市場出荷に係る負担金(うち、卸売市場出荷分)	0.0	物流関係費	6.8				
減価償却費	27.4	集荷費	0.0	その他費用	13.2				
小農具費	0.4	予冷費	0.0						
動力光熱費	2.7	保管料	0.0						
修繕費	0.0	処分費	0.0						
共済掛金 等	12.8	販売促進費	0.5						
租税公課	5.8	減価償却費	0.0						
賃料料金	0.0	保守修繕費	1.6						
支払地代	0.0	水道光熱費	0.6						
土地改良費	0.0	人件費	14.1						
労務費	240.0								
生産者負担の包装費	0.0								
生産者負担の荷造経費	0.0								
生産者負担の輸送費	0.0								
合計	342.5	合計	39.2	合計	61.5	合計	102.6	合計	168.4

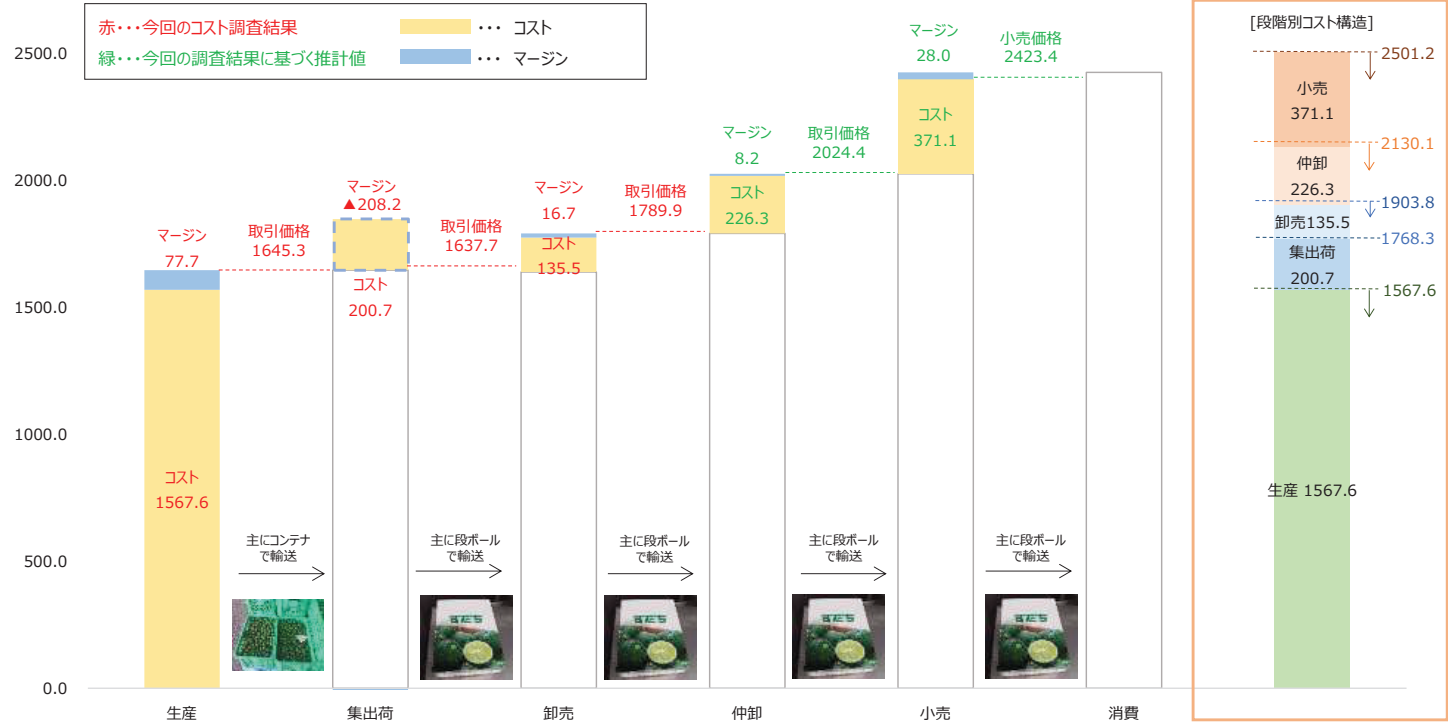
※ 四捨五入の関係で小計と内訳は必ずしも一致しない。

97

すだち（施設作：中国・四国産）のコスト調査結果

(円/1kg)
3000.0

【調査の概要】
中国・四国の産地で生産・集荷され、東京近郊の卸売市場を経由して、都内のスーパーで小売販売されるケースを事例的に調査。



注 1：各段階のコストの数値は、「令和 5 年度適正取引推進に向けた調査（コスト等に関する調査）」（農林水産省）を基に作成。当該調査では、首都圏向けに流通するもののコスト構造を事例的に調査。
注 2：生産段階・集出荷段階は中国・四国管内のJAを対象としたアンケート調査、卸売段階は開設者（東京都及び横浜市）HPの市場統計情報を活用するとともに、首都圏の卸売市場を対象にアンケート調査。仲卸段階は「仲卸業者の経営状況2022」を基に、小売段階は都内を商圏とする小売事業者を対象としたアンケート調査から、粗利率とコストの内訳を調査。
注 3：四捨五入の関係で、合計しても合わないことがある。
注 4：コストの集計に一部誤りがあったため修正（令和 7 年12月）

すだち（施設作：中国・四国産）のコスト構造の各段階内訳

【調査の概要】
中国・四国の産地で令和 5 年度に生産・集荷され、東京近郊の卸売市場を経由して、都内のスーパーで小売販売されるケースを事例的に調査。
【留意事項】
● 果樹は同一品目でも栽培条件、栽培方法等が異なり、生産コストは様々。このような果樹の特性を踏まえると一律に示すことは難しいため、特定の地域や企業アンケートをもとに作成したもの。
● 具体的には、生産・集出荷段階は、特定のJAを対象にアンケート調査（地域の栽培暦や行政の経営指標等も参照）。卸売・仲卸段階は、開設者（東京都及び横浜市）公表の市場統計情報を活用。小売段階は、複数の小売事業者から聴取した粗利率等に取引価格を乗じて販売価格を推計。このため、仲卸価格や小売価格は直接的に実額で把握できた訳ではなく、統計調査の小売価格とは大きく乖離。

(単位) 円/kg

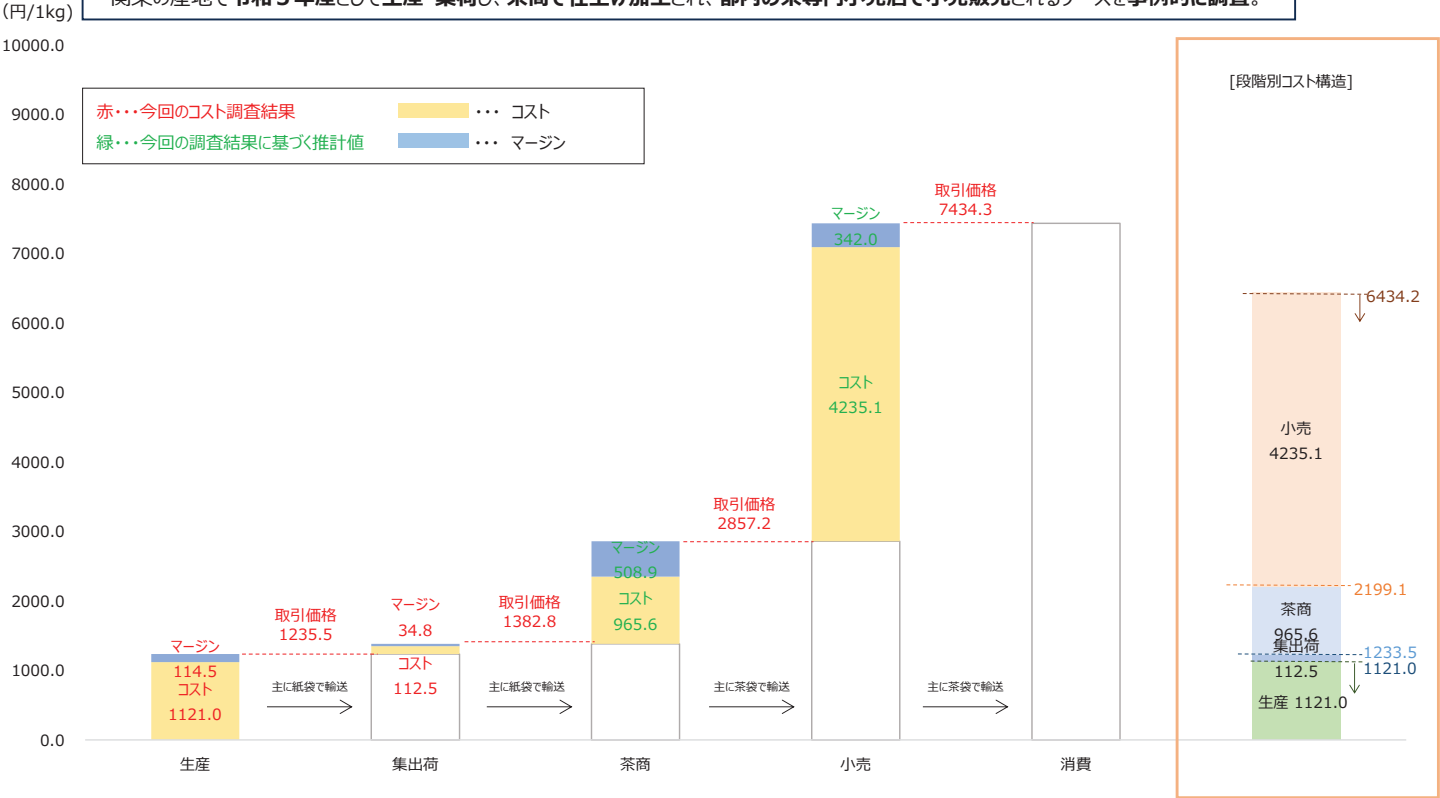
生産段階		集出荷		卸売		仲卸		小売	
物材費	1304.3	選別、包装及び荷造労働費	119.1	完納奨励金	18.3	人件費	106.4	輸送費	34.8
うち種苗費	0.0	包装・荷造材料費	0.0	人件費総額	59.4	その他	119.9	人件費	165.3
肥料費	71.3	出荷運送料・積込料	35.7	水道光熱費	2.4			水道光熱費	21.2
農業費	64.0	上部団体手数料	0.0	賃借料・市場使用料	11.1			その他の経費	149.8
諸材料費	30.3	卸売市場出荷に係る負担金(うち、卸売市場出荷分)	0.0	物流関係費	15.1				
減価償却費	219.5	集荷費	0.0	その他費用	29.2				
小農具費	0.0	予冷費	0.0						
動力光熱費	819.6	保管料	0.0						
修繕費	78.0	処分費	0.0						
共済掛金 等	18.2	販売促進費	0.0						
租税公課	3.5	減価償却費	0.0						
賃料料金	0.0	保守修繕費	1.8						
支払地代	0.0	水道光熱費	2.4						
土地改良費	0.0	人件費	41.7						
労務費	260.7								
生産者負担の包装費	0.0								
生産者負担の荷造経費	0.0								
生産者負担の輸送費	2.5								
合計	1567.6	合計	200.7	合計	135.5	合計	226.3	合計	371.1

※ 四捨五入の関係で小計と内訳は必ずしも一致しない。
※ コストの集計に一部誤りがあったため修正（令和 7 年12月）

茶

茶（関東産）のコスト調査結果

【調査の概要】
関東の産地で令和5年産として生産・集荷し、茶商で仕上げ加工され、都内の茶専門小売店で小売販売されるケースを事例的に調査。



茶（関東産）のコスト構造の各段階内訳

【調査の概要】
関東の産地で令和5年産として生産・集荷し、茶商で仕上げ加工され、都内の茶専門小売店で小売販売されるケースを事例的に調査。

【留意事項】

- 茶は茶種や茶期、栽培条件等によって生産コストは様々。このような茶の特性を踏まえると一律に示すことは難しいため、特定の地域や事業者を対象としたアンケート調査結果等をもとに作成したもの。
- 具体的には、生産段階・集出荷段階は産地のJA及び県を対象としたアンケート調査結果等を基に算出、茶商は産地の事業者を対象としたアンケート調査結果等を基に推計、小売は都内の茶専門小売店を対象としたアンケート調査結果等を基に推計。また、売り手（販売価格）と買い手（仕入価格）で回答結果（取引価格）が異なる場合、両者の平均値を取引価格とする等の補正を実施しており、全段階でコスト等を実額で把握できた訳ではない。調査対象・手法が異なることから、小売価格は統計調査の結果とは大きく乖離。

(単位) 円/ 1 kg

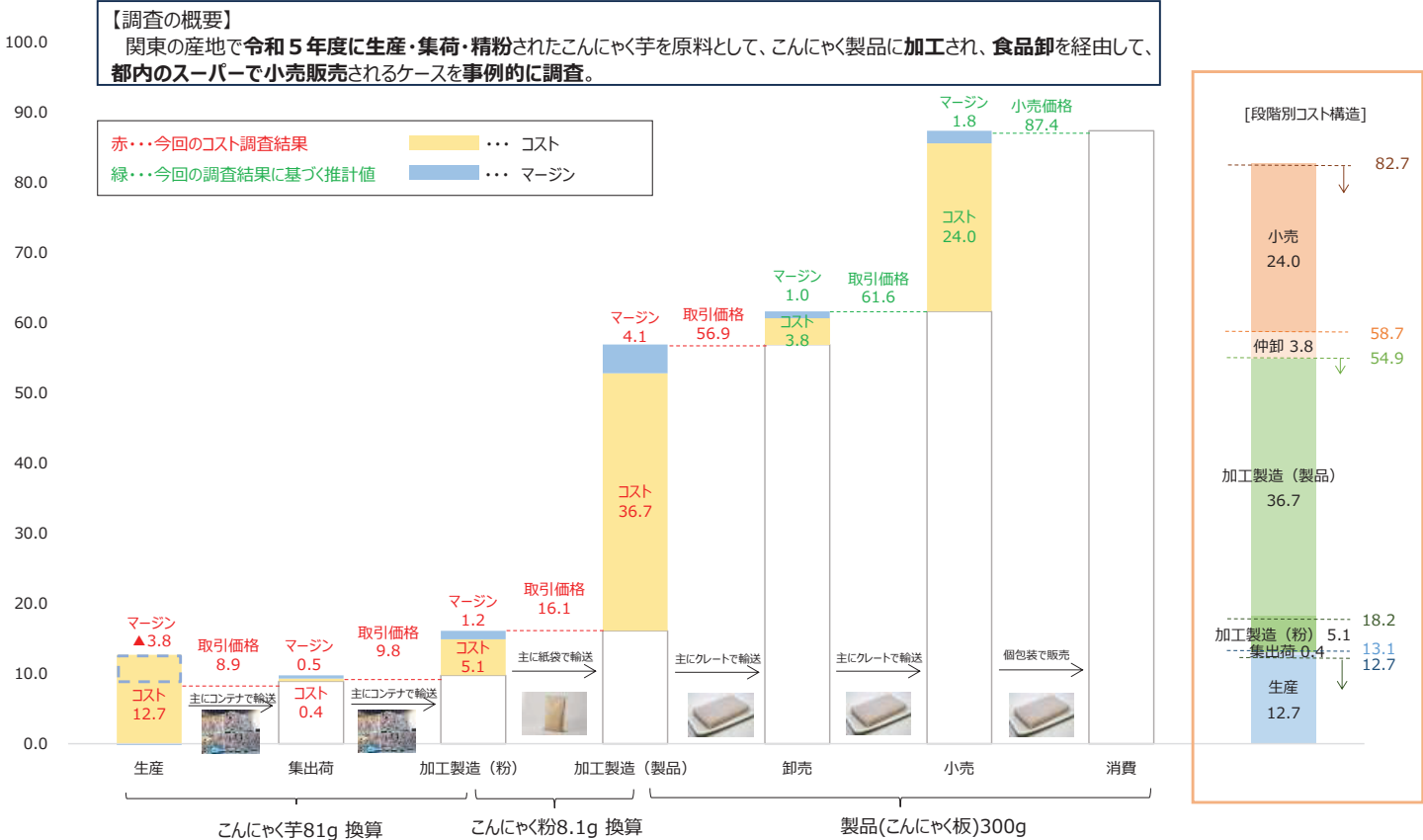
生産段階		集出荷		茶商		小売	
種苗費	0.0	資材費	50.0	仕上げにかかる費用	472.8	人件費	1902.0
肥料費	53.0	運賃	18.0	うち人件費	125.9	水道光熱費	104.2
農業費	30.0	販売手数料	44.5	原材料費（茶葉を除く）	87.0	賃借料	420.2
動力光熱費	141.0	その他	0.0	水道光熱費	5.2	減価償却費	51.6
資材費	1.0			賃借料	32.8	輸送費・物流費	141.1
農具費	14.0			減価償却費	47.8	その他経費	1616.0
労働費	26.0			外注費	88.2		
その他変動費	461.0			その他経費	86.0		
減価償却費	229.0			販売にかかる費用	492.8		
修繕費	153.0			うち人件費	148.2		
借地料	9.0			水道光熱費	1.3		
その他固定費	4.0			賃借料	13.8		
				減価償却費	18.4		
				輸送費・物流費	60.3		
				その他経費	250.8		
合計	1121.0	合計	112.5	合計	965.6	合計	4235.1

※ 四捨五入の関係で小計と内訳は必ずしも一致しない。

こんにゃく

こんにゃくのコスト調査結果

(円/1製品(300g))



注1：各段階のコストの数値は、「令和6年度適正取引推進調査委託事業」を基に作成。当該調査では、首都圏向けに流通するもののコスト構造を事例的に調査。
注2：生産段階・集出荷段階は主産地のJAを対象としたアンケート調査（行政の経営指標等も参照）。加工製造（粉）と加工製造（製品）は各製造事業者を対象としたアンケート調査。卸売段階は首都圏を商圏とする食品卸事業者のIR情報（低温食品）等から推計。小売段階は都内を商圏とする小売事業者のIR情報等から推計。
注3：四捨五入の関係で、合計しても合わないことがある。

こんにゃくのコスト構造の各段階内訳

【調査の概要】
関東の産地で令和5年度に生産・集荷・精粉されたこんにゃく芋を原料として、こんにゃく製品に加工され、食品卸を経由して、都内のスーパーで小売販売されるケースを事例的に調査。

【留意事項】

- 産地により栽培条件、栽培方法等が異なり、生産コストは様々。このような特性を踏まえると一律に示すことは難しいため、特定の地域や企業アンケート等をもとに作成したもの。
- 具体的には、生産段階・集出荷段階は主産地のJAを対象としたアンケート調査（行政の経営指標等も参照）。加工製造（粉）と加工製造（製品）は各製造事業者を対象としたアンケート調査。卸売段階は首都圏を商圏とする食品卸事業者のIR情報（低温食品）等から推計。小売段階は都内を商圏とする小売事業者のIR情報等から推計。また、売り手（販売価格）と買い手（仕入価格）の回答結果（取引価格）が異なる場合、両者の平均値を取引価格とする等の補正を行っている。このように、コスト・マージン、取引価格は直接的に実額で把握できた訳ではなく、統計調査の小売価格とは大きく乖離。

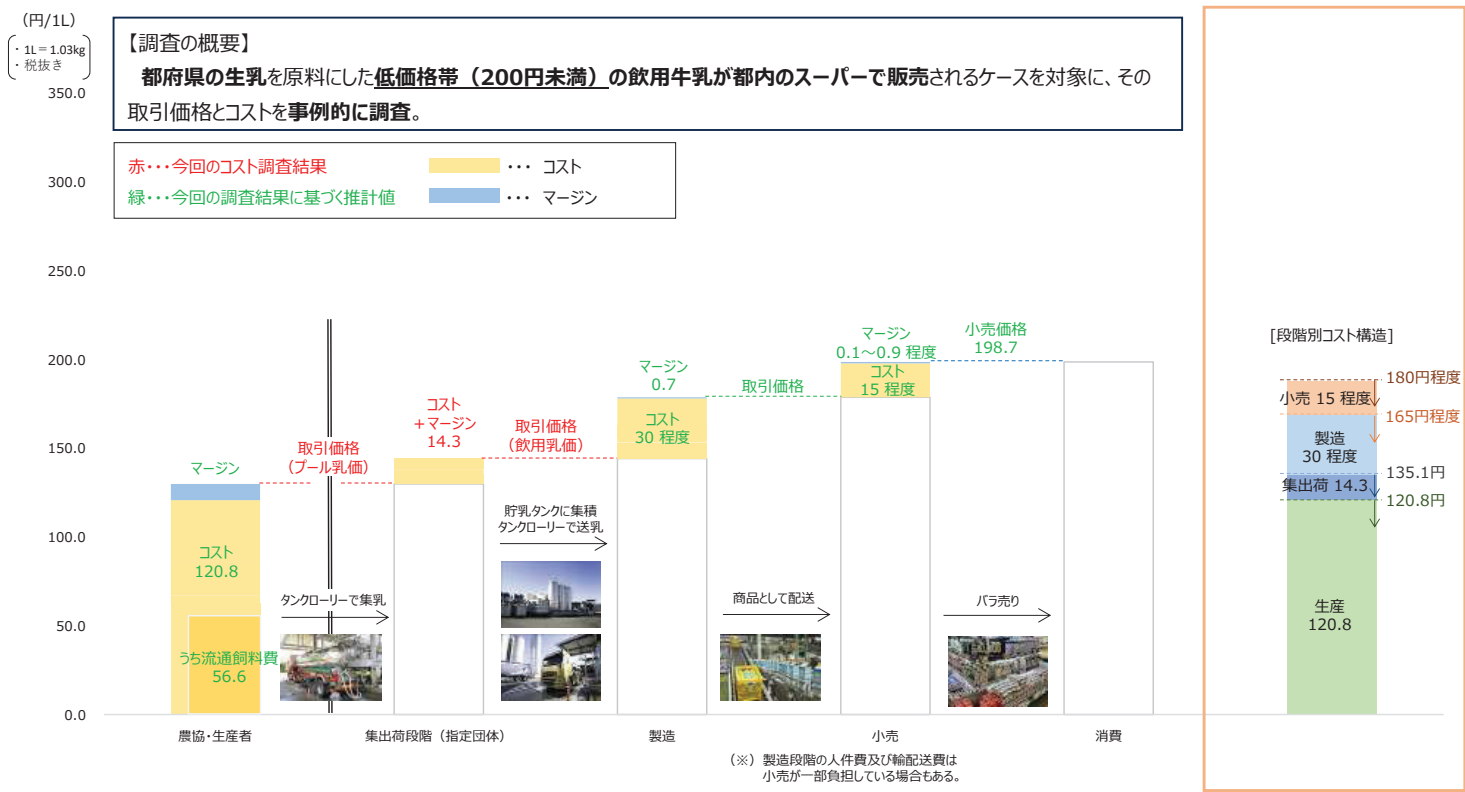
(単位) 円/ 1 製品 (300g)

生産段階		集出荷		加工製造（粉）		加工製造（製品）		卸売		小売	
肥料費	1.3	選別、包装及び荷造労働費	0.0	水道光熱費	1.4	水道光熱費	2.5	物流費	1.6	輸送費	2.3
農業費	2.3	包装・荷造材料費	0.0	人件費	1.4	人件費	14.0	人件費	0.7	人件費	10.7
諸材料費	0.2	出荷運送料・積込料	0.1	物流費	0.2	物流費	4.7	その他の経費	1.5	水道光熱費	1.4
種苗費	0.0	上部団体手数料	0.2	その他	2.1	その他	15.5			その他の経費	9.7
農機具費	3.0	卸売市場出荷に係る負担金(うち、卸売市場出荷分)	0.0								
動力光熱費	0.4	集荷費	0.0								
地代・水利費等	0.7	予冷費	0.0								
その他	0.7	保管料	0.0								
労務費	3.9	処分費	0.0								
生産者負担の選別・包装・荷造経費	0.1	販売促進費	0.0								
生産者負担の輸送費	0.1	減価償却費	0.0								
		保守修繕費	0.0								
		水道光熱費	0.0								
		人件費	0.1								
合計	12.7	合計	0.4	合計	5.1	合計	36.7	合計	3.8	合計	24.0

※ 四捨五入の関係で小計と内訳は必ずしも一致しない。

飲用牛乳

飲用牛乳（低価格帯）のコスト調査結果



注 1：各段階のコストの数値は、「令和 5 年度適正取引推進に向けた調査（コスト等に関する調査）」（農林水産省）等を基に作成。
 注 2：農協・生産段階は「畜産物生産費統計（R4年度）」（農林水産省）のうち都府県の平均規模50・100頭規模よりR5を推計（全算入生産費相当：子牛販売額等の副産物収入を控除した額）、集出荷段階は一部の指定生乳生産者団体を対象としたアンケート調査、製造段階は一部乳業メーカーを対象としたアンケート調査より推計、小売段階は「2024年版スーパーマーケット白書」やPOS（R6年4-6月）、複数の小売会社のIR情報にある粗利率等を基に推計。
 注 3：取引価格は取引形態上、非公表。
 注 4：四捨五入の関係で、合計しても合わないことがある。

飲用牛乳（低価格帯）のコスト構造の各段階内訳

【調査の概要】
 都府県の生乳を原料にした飲用牛乳がスーパーで販売されるケースを対象に、特定の産地や企業アンケートをもとにその取引価格とコストを事例的に調査。

【留意事項】

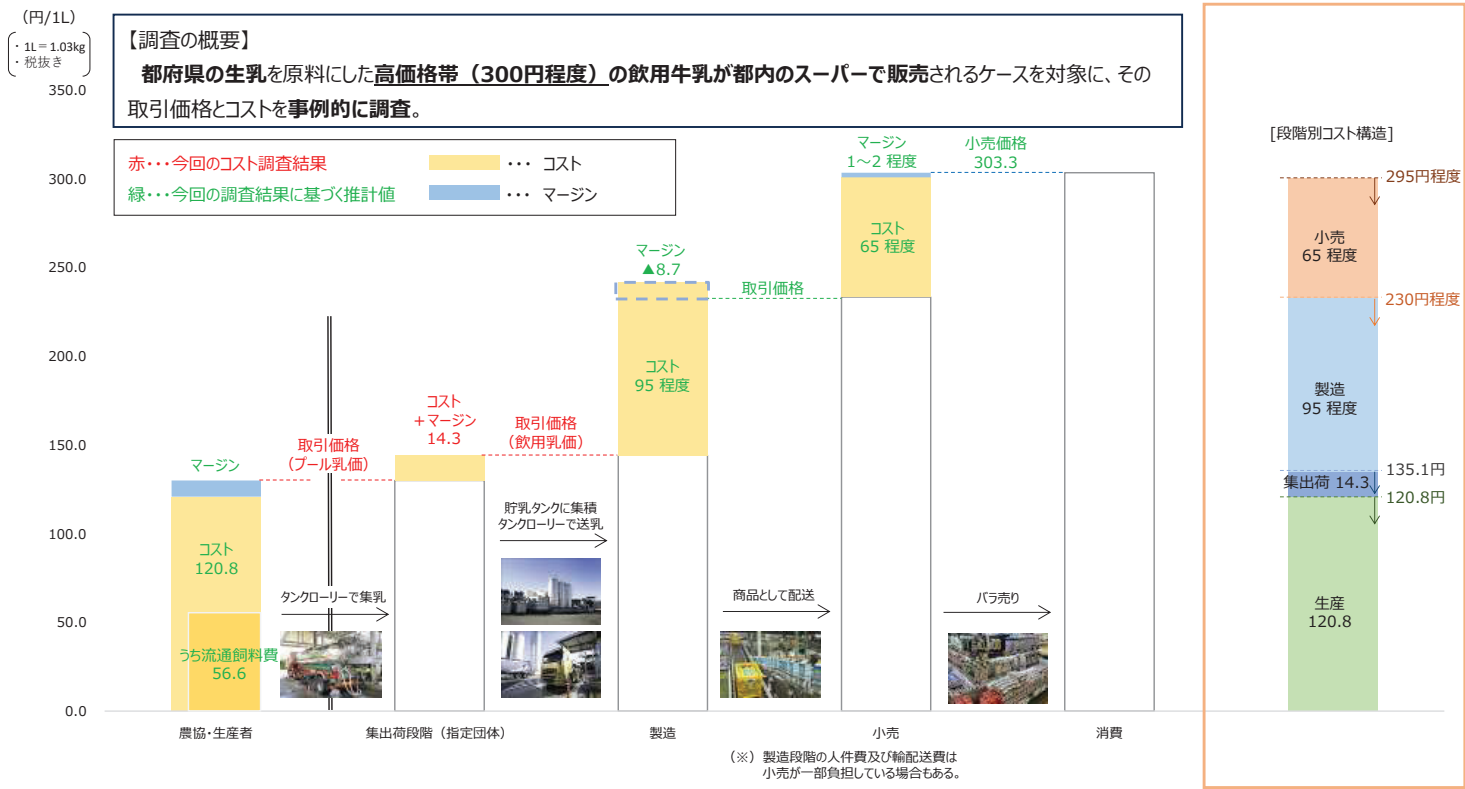
- 生乳は毎日生産され貯蔵性が低いことから、需要に応じ飲用と乳製品（加工用）の仕向け量が調整されており、生産者には飲用と加工用をまとめた乳価（プール乳価）が支払われている。また、地理的条件等により生産コストや取引価格は様々であることに加え、商品ごとのブランディング等により小売価格も様々。このような特性を一律に示すことは難しいため小売価格の分布状況を元に代表的な 2 パターンを調査。
- 具体的には、農協・生産段階は「畜産物生産費統計（R4年度）」（農林水産省）のうち都府県の平均規模50・100頭規模よりR5を推計（全算入生産費相当：子牛販売額等の副産物収入を控除した額）、集出荷段階は一部の指定生乳生産者団体を対象としたアンケート調査、製造段階は一部乳業メーカーを対象としたアンケート調査より推計、小売段階は「2024年版スーパーマーケット白書」やPOS（R6年4-6月）、複数の小売会社のIR情報にある粗利率等を基に推計。

(単位) 円/1L

農協・生産者		集出荷 (指定団体)		製造		小売	
物財費	95.5	輸送費	5.5	原材料費	8 程度	輸送費	1 程度
種付料	2.3	加工費用	6	包装材料費	8	人件費	7 程度
流通飼料費	56.6	その他	2.8	その他の原材料費	-	水道光熱費	1 程度
その他飼料費	4.7			製造関係経費	10 程度	その他	6 程度
敷料費	1.4			労務費（製造）	3		
光熱水料及び動力費	3.8			減価償却費	2		
その他の諸材料費	0.2			修繕費	1		
獣医師料及び医薬品費	2.9			動力費	-		
賃貸料及び料金	1.4			燃料費	-		
物件税及び公課諸負担	1			光熱用水費	-		
乳牛償却費	14.3			その他製造費用	2		
建物費	1.9			一般管理費	2 程度		
自動車費	0.4			労務費（一般管理）	2		
農機具費	4.2			旅費交通費等	-		
生産管理費	0.2			光熱用水費・通信費	-		
労働費	17.5			減価償却費	-		
支払利子	0.2			賃借料	-		
支払地代	0.4			その他管理費用	-		
自己資本利子	2.6			販売費	10 程度		
自作地地代	0.6			販売労務費	-		
農協手数料	4			製品保管料	-		
				製品運送費	7		
				販促費・広告費等	-		
				その他 販売費用	3		
(※ 上記は、子牛販売額等の副産物収入を控除したコストを推計したもの)							
合計	120.8	合計	14.3	合計	30 程度	合計	15 程度

※ 四捨五入の関係で小計と内訳は必ずしも一致しない。また、「-」は表示単位未満のもの。

飲用牛乳（高価格帯）のコスト調査結果



注 1：各段階のコストの数値は、「令和 5 年度適正取引推進に向けた調査（コスト等に関する調査）」（農林水産省）等を基に作成。
 注 2：農協・生産段階は「畜産物生産費統計（R4年度）」（農林水産省）のうち都府県の平均規模50-100頭規模よりR5を推計（全算入生産費相当：子牛販売額等の副産物収入を控除した額）、集出荷段階は一部の指定生乳生産者団体を対象としたアンケート調査、製造段階は一部乳業メーカーを対象としたアンケート調査より推計、小売段階は「2024年版スーパーマーケット白書」やPOS（R6年4-6月）、複数の小売会社のIR情報にある粗利率等を基に推計。
 注 3：取引価格は取引形態上、非公表。
 注 4：四捨五入の関係で、合計しても合わないことがある。

飲用牛乳（高価格帯）のコスト構造の各段階内訳

【調査の概要】
 都府県の生乳を原料にした飲用牛乳がスーパーで販売されるケースを対象に、特定の産地や企業アンケートをもとにその取引価格とコストを事例的に調査。

【留意事項】
 ● 生乳は毎日生産され貯蔵性が低いことから、需要に応じ飲用と乳製品（加工用）の仕向け量が調整されており、生産者には飲用と加工用をまとめた乳価（プール乳価）が支払われている。また、地理的条件等により生産コストや取引価格は様々であることに加え、商品ごとのブランディング等により小売価格も様々。このような特性を一律に示すことは難しいため小売価格の分布状況を元に代表的な 2 パターンを調査。
 ● 具体的には、農協・生産段階は「畜産物生産費統計（R4年度）」（農林水産省）のうち都府県の平均規模50-100頭規模よりR5を推計（全算入生産費相当：子牛販売額等の副産物収入を控除した額）、集出荷段階は一部の指定生乳生産者団体を対象としたアンケート調査、製造段階は一部乳業メーカーを対象としたアンケート調査より推計、小売段階は「2024年版スーパーマーケット白書」やPOS（R6年4-6月）、複数の小売会社のIR情報にある粗利率等を基に推計。

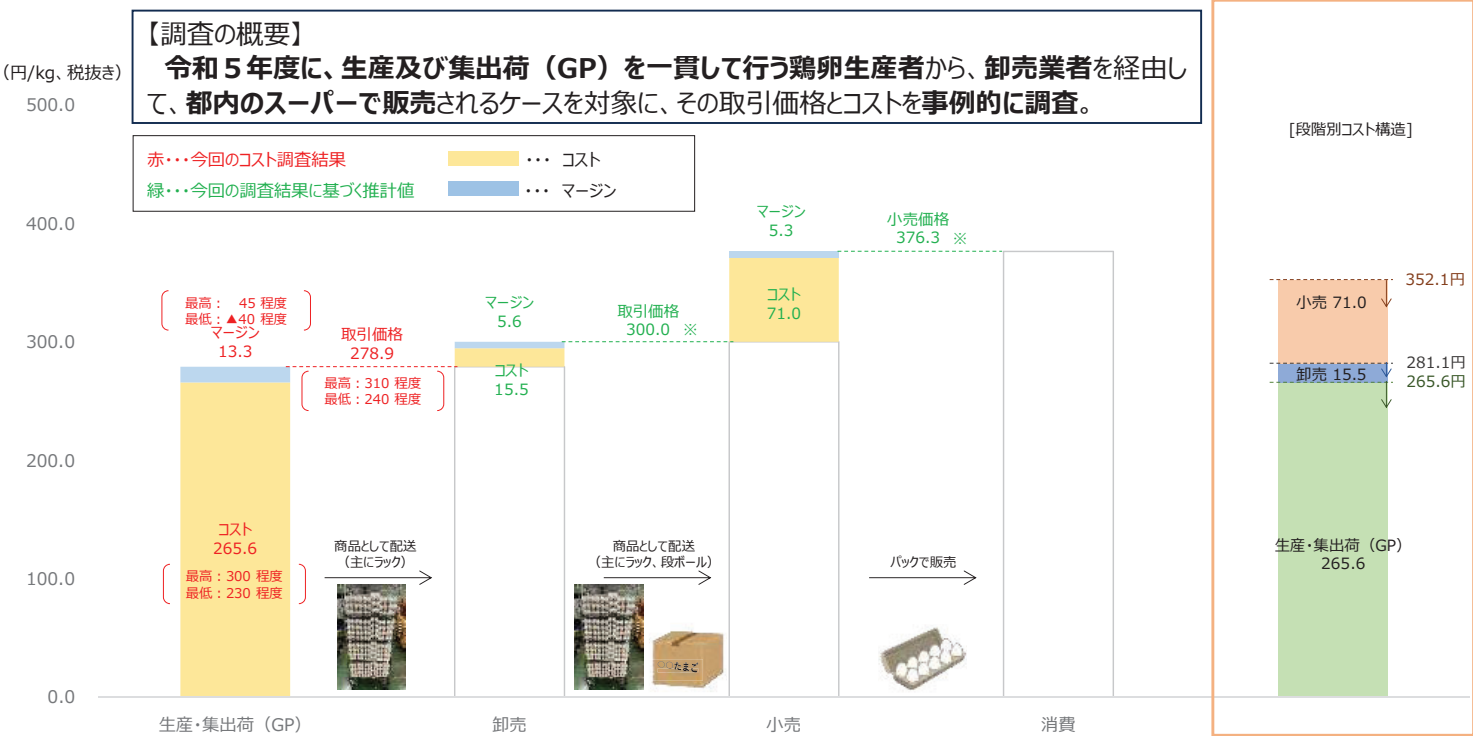
(単位) 円/1L

農協・生産者		集出荷（指定団体）		製造		小売	
物財費	95.5	輸送費	5.5	原材料費	17 程度	輸送費	6 程度
種付料	2.3	加工費用	6	包装材料費	12	人件費	29 程度
流通飼料費	56.6	その他	2.8	その他の原材料費	5	水道光熱費	3 程度
その他飼料費	4.7			製造関係係費	21 程度	その他	27 程度
敷料費	1.4			労務費（製造）	3		
光熱水料及び動力費	3.8			減価償却費	5		
その他の諸材料費	0.2			修繕費	2		
獣医師料及び医薬品費	2.9			動力費	1		
賃貸料及び料金	1.4			燃料費	-		
物件税及び公課諸負担	1			光熱用水費	-		
乳牛償却費	14.3			その他製造費用	9		
建物費	1.9			一般管理費	6 程度		
自動車費	0.4			労務費（一般管理）	2		
農機具費	4.2			旅費交通費等	-		
生産管理費	0.2			光熱用水費・通信費	-		
労働費	17.5			減価償却費	-		
支払利子	0.2			賃借料	-		
支払地代	0.4			その他管理費用	2		
自己資本利子	2.6			販売費	51 程度		
自作地代	0.6			販売労務費	1		
農協手数料	4			製品保管料	13		
				製品運送費	19		
				販促費・広告費等	13		
				その他 販売費用	6		
(※ 上記は、子牛販売額等の副産物収入を控除したコストを推計したもの)							
合計	120.8	合計	14.3	合計	95 程度	合計	65 程度

※ 四捨五入の関係で小計と内訳は必ずしも一致しない。また、「-」は表示単位未満のもの。

鷄卵

鶏卵のコスト調査結果



注1：各段階のコストの数値は、「令和5年度適正取引推進に向けた調査（コスト等に関する調査）」（農林水産省委託事業）を基に作成。
注2：首都圏向けに流通するもののコスト構造を事例的に調査。具体的には、生産・集出荷（GP）段階は生産者・GPセンターを対象としたアンケート調査を集計、卸売段階（※）は首都圏を商圏とする食品卸売事業者のIR情報を基に推計、小売段階（※）は都内を商圏とする小売事業者を対象としたアンケート調査を基に推計した。（R5年度の情報を集計）
注3：生産・集出荷段階のコスト及び取引価格は、生産部門及びGP部門を一貫する事業者を抽出して、出荷量の加重平均により算出。
なお、本調査は悉皆調査ではなく、農場及びGPセンターのうち24者（10万羽以上飼養23者、5万羽以上10万羽未満飼養1者）の有効回答を用いて集計。
（参考）平均採卵鶏飼養羽数：本調査 76.7万羽、R5畜産統計全国平均 10.0万羽
注4：四捨五入の関係で、合計しても合わないことがある。

鶏卵のコスト構造の各段階内訳

- 【調査の概要】
- 令和5年度に生産された鶏卵が、卸売事業者を経由し、都内のスーパーで販売されるケースを対象に、企業アンケートをもとにその取引価格とコストを事例的に調査。
- 【留意事項】
- 具体的には、生産・集出荷（GP）段階は生産者・GPセンターを対象としたアンケート調査を集計、卸売段階は首都圏を商圏とする食品卸売事業者のIR情報を基に推計、小売段階は都内を商圏とする小売事業者を対象としたアンケート調査を基に推計した。（R5年度の情報を集計）
 - 生産・集出荷段階のコスト及び取引価格は、生産部門及びGP部門を一貫する事業者を抽出して、出荷量の加重平均により算出した。なお、本調査は悉皆調査ではなく、農場及びGPセンター（10万羽以上飼養23者、5万羽以上10万羽未満飼養1者）の有効回答を用いて集計しており、生産規模に偏りがあることに留意が必要。
（参考）平均採卵鶏飼養羽数：本調査 76.7万羽、R5畜産統計全国平均 10.0万羽
 - 卸売段階のコストは、生産・集出荷（GP）段階からの仕入価格に対して食品卸売事業者におけるカテゴリー別（低温食品）の粗利率と卸売経費に占める各費目の割合（IR情報）を乗じて算出した。
 - 小売段階のコストは、卸売価格に小売段階の粗利率（アンケート調査結果）を乗じて粗利額を算出し、粗利額に小売企業の経営に占める各費目の割合（アンケート調査結果）を乗じて算出した。
 - 価格については、生産・集出荷（GP）から卸売への取引価格（278.9円/kg）は、アンケート調査に基づくものであるが、卸売から小売への取引価格、小売から消費者への小売価格は、生産・集出荷（GP）の販売価格（278.9円/kg）を起点に、食品卸売事業者3社の粗利率（7.6%）、小売企業5社の粗利率（25.4%）を乗じて算出したものであり、実際の価格ではない。

(単位) 円/kg					
生産・集出荷 (GP)		卸売		小売	
購入飼料費	133.2	物流費	7.8	輸送費	6.7
大雑費	22.9	人件費	4.7	人件費	31.6
育成費	12.6	その他の経費	3.0	水道光熱費	4.0
衛生防疫費	2.1			その他の経費	28.6
水道光熱費	7.0				
燃料費	0.8				
減価償却費	11.9				
修繕費	4.2				
消耗諸材料費	2.6				
賃料等	0.7				
租税公課	1.3				
輸送経費	13.8				
包装材料費	12.2				
販売・一般管理費	11.4				
人件費	25.1				
その他費用	3.9				
合計	265.6	合計	15.5	合計	71.0

※ 四捨五入の関係で小計と内訳は必ずしも一致しない。

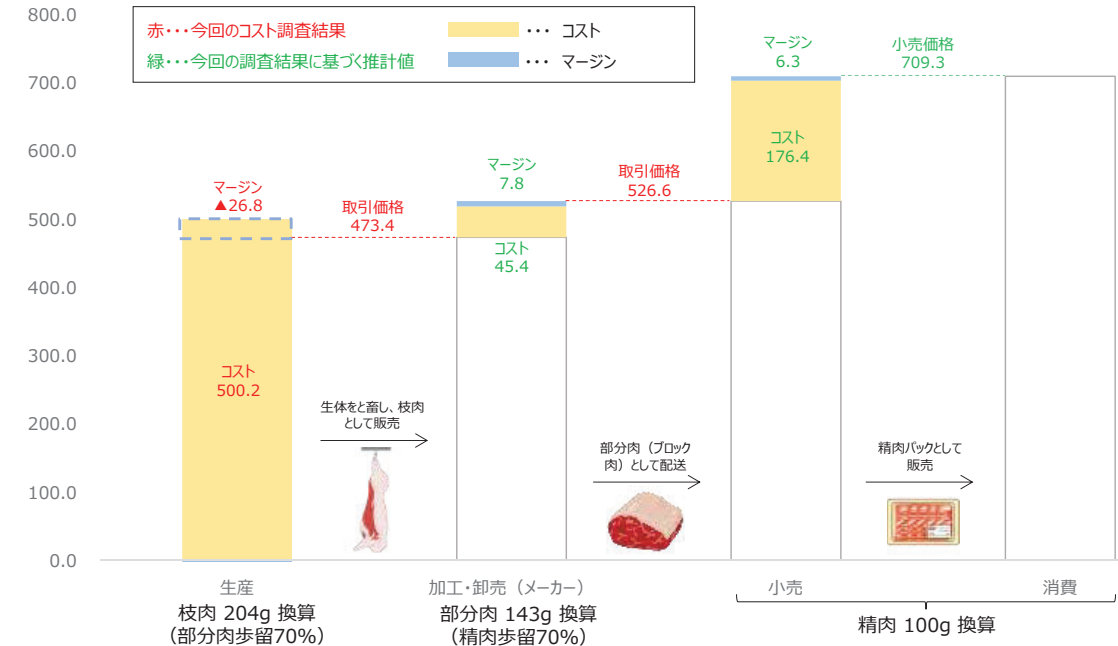
食肉

牛肉（和牛）のコスト調査結果

【調査の概要】

令和5年に生産された和牛が、東京食肉市場、大手の加工・卸売メーカーを経由し、都内のスーパーで和牛ももとして販売されるケースを対象に、その取引価格とコストを事例的に調査。

(円/精肉100g、
税抜き)



注1：各段階のコストの数値は、「令和6年度適正取引推進に向けた調査（コスト等に関する調査）」（農林水産省）等を基に作成。当該調査では、首都圏向けに流通するもののコスト構造を事例的に調査。
注2：生産段階は「肉用牛肥育経営安定交付金（牛マルキン）交付金算定基礎」（（独）農畜産業振興機構（ALIC））、加工・卸売段階は大手メーカーを対象としたアンケート調査、小売段階は首都圏を商圏とする小売企業を対象としたアンケート調査を基にした。
注3：生産段階のコストからは、副産物（事故畜及びきゅう肥）による収入を控除している。なお、生産段階については、別途、標準的販売価格が標準的生産費を下回った場合、その差額の9割が交付金として交付される（牛マルキン）。
注4：生産→加工・卸売の取引価格は「畜産物流通統計」（農林水産省）の東京市場の「B等級以上・4等級以上」を、加工・卸売→小売の取引価格は「牛肉の価格動向」（ALIC）の和牛・A-5去勢・ももの部分肉仲間相場を基にした。
このため、生産→加工・卸売の取引価格は枝肉全体、加工・卸売→小売の取引価格及び小売価格はももの価格であることに注意。
注5：四捨五入の関係で、合計しても合わないことがある。

牛肉（和牛）のコスト構造の各段階内訳

【調査の概要】

令和5年に生産された和牛が、東京食肉市場を経由し、大手の加工・卸売メーカー（4者）を経由し、都内のスーパー（3者）で和牛ももとして販売されるケースを対象に、既存の統計や企業アンケートをもとにその取引価格とコストを事例的に調査。

【留意事項】

- 食肉は加工の過程で歩留ロスが生じるため、アンケート調査等により得られた各段階（枝肉、部分肉、精肉）における歩留率を用いて補正し、精肉100gあたりの数値を算出した。
- 具体的には、生産段階は「牛マルキン交付金算定基礎」（ALIC）及び「畜産物流通統計（R5）」、加工・卸売段階は食肉加工・卸売メーカーを対象としたアンケート調査、小売段階は首都圏を商圏とする小売企業を対象としたアンケート調査等を基に推計。
- 生産段階のコストについては、「牛マルキン交付金算定基礎」のうち、東京食肉市場への和牛出荷頭数上位5道県（北海道、宮城県、茨城県、栃木県、群馬県）を用いてR5年次の生産費、副産物収入を算出し、生産費から副産物収入を控除して算出した。なお、生産段階については、別途、標準的販売価格が標準的生産費を下回った場合、その差額の9割が交付金として交付される（牛マルキン）が、本調査結果で考慮していない。
- 卸売段階のコストは、卸売価格（ALIC）と生産段階からの仕入価格の差額に対して加工・卸売経費に占める各費目の割合（アンケート調査結果 R5年次）を乗じて算出した。
- 小売段階のコストは、卸売価格（ALIC）に小売段階の粗利率（25.8%）（アンケート調査結果 R5年次）を乗じて粗利額を算出し、粗利額に小売企業の経営に占める各費目の割合（アンケート調査結果）を乗じて算出した。
- 価格については、生産から加工・卸売への取引価格（473.4円）は食肉流通統計（R5年次）に基づくものであり、加工・卸売から小売への取引価格（526.6円）はALICが公表する価格（R5年度）に基づくものであるが、小売から消費の小売価格は、加工・卸売から小売への取引価格（526.6円）を起点に、アンケート調査により得られた小売の粗利率（25.8%）を乗じて粗利額を算出し、これに同じくアンケート調査により得られた小売企業の経営に占める各費目の割合を乗じて算出したものであり、実際の価格ではない。

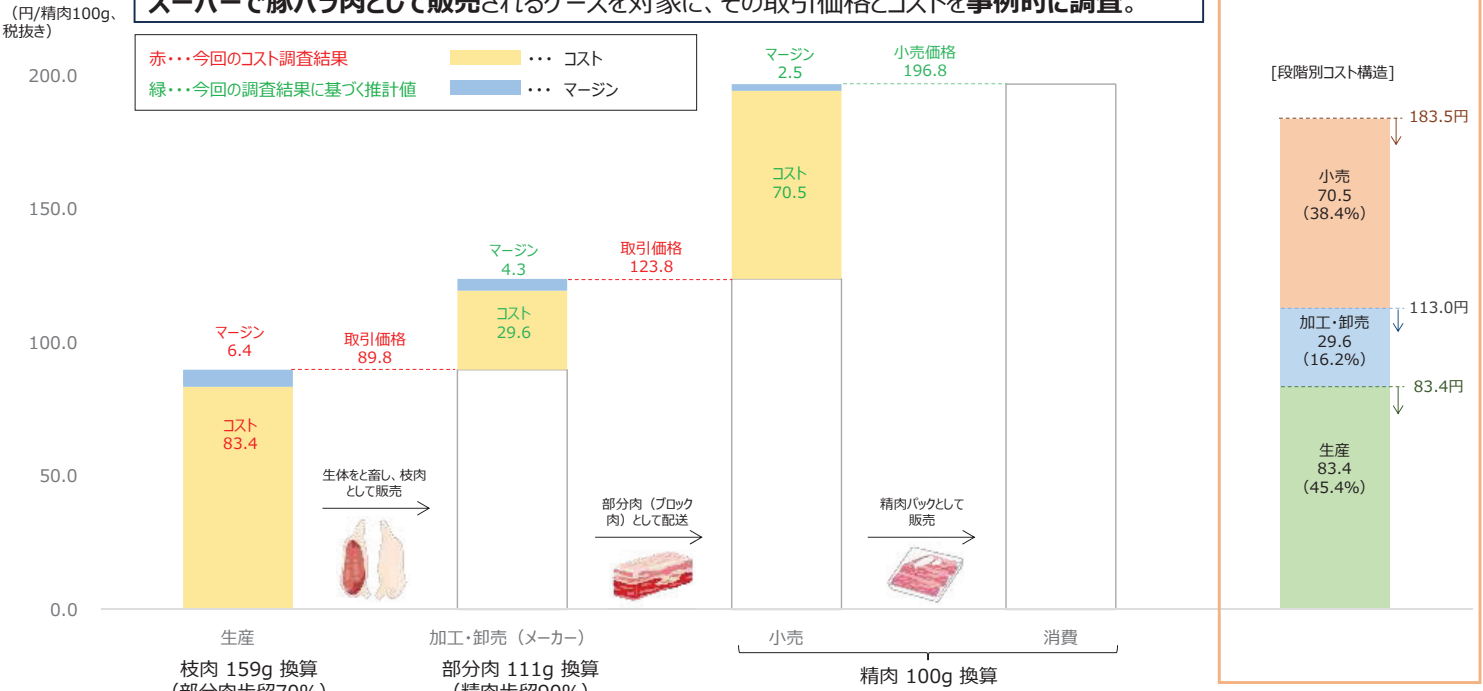
(単位) 円/枝肉204g (精肉100g換算分)		(単位) 円/部分肉143g (精肉100g換算分)		(単位) 円/精肉100g	
生産		加工・卸売（メーカー）		小売	
物材費	463.9	加工費	13.6	輸送費	15.8
もと畜費	284.4	人件費	5.5	人件費	74.0
流通飼料費	146.5	資材費	1.6	水道光熱費	10.9
牧草・放牧・採草費	1.3	運送費	1.6	その他の経費	75.6
敷料費	4.9	水道光熱費	1.1		
光熱水料及び動力費	5.8	施設等減価償却費	0.9		
その他の諸材料費	0.2	その他の製造経費	3.0		
獣医師料及び医薬品費	4.2	販売管理費	31.8		
賃借料及び料金	2.4	物流費	9.3		
物件税及び公課諸負担	1.9	保管料	2.8		
建物費	5.4	販売手数料	6.0		
自動車費	2.5	広告宣伝費	0.5		
農機具費	3.9	人件費	7.5		
生産管理費	0.5	減価償却費	0.5		
労働費	34.0	その他の経費	5.2		
支払利子	2.8				
支払地代	0.2				
と畜経費	4.3				
副産物収入	▲5.0				
合計	500.2	合計	45.4	合計	176.4

※ 四捨五入の関係で小計と内訳は必ずしも一致しない。

豚肉のコスト調査結果

【調査の概要】

令和5年に生産された豚肉が、東京食肉市場、大手の加工・卸売メーカーを経由し、都内のスーパーで豚バラ肉として販売されるケースを対象に、その取引価格とコストを事例的に調査。



注1：各段階のコストの数値は、「令和6年度適正取引推進に向けた調査（コスト等に関する調査）」（農林水産省）等を基に作成。当該調査では、首都圏向けに流通するもののコスト構造を事例的に調査。
注2：生産段階は「肉豚経営安定交付金算定基礎」（（独）農畜産業振興機構（ALIC））、加工・卸売段階は大手メーカーを対象としたアンケート調査、小売段階は首都圏を商圏とする小売企業を対象としたアンケート調査を基にした。
注3：生産段階のコストからは、副産物（事故畜、販売された子豚、繁殖雌豚、種雄豚及びきゅう肥）による収入を控除している。
注4：生産→加工・卸売の取引価格は「畜産物流通統計」（農林水産省）の東京市場の「上・極上」、加工・卸売→小売の取引価格は「豚肉の価格動向」（ALIC）の国産・冷蔵品・ばらの部分肉仲間相場を基にした。このため、生産→加工・卸売の取引価格は枝肉全体、加工・卸売→小売の取引価格及び小売価格はばら肉の価格であることに注意。注5：四捨五入の関係で、合計しても合わないことがある。

豚肉のコスト構造の各段階内訳

【調査の概要】

令和5年に生産された豚肉が、東京食肉市場を経由し、大手の加工・卸売メーカー（4者）を経由し、都内のスーパー（3者）で豚バラ肉として販売されるケースを対象に、既存の統計や企業アンケートをもとにその取引価格とコストを事例的に調査。

【留意事項】

- 食肉は加工の過程で歩留ロスが生じるため、各段階（枝肉、部分肉、精肉）における歩留率を用いて補正し、精肉100gあたりの数値を算出した。
- 具体的には、生産段階は「肉豚経営安定交付金算定基礎」（ALIC）及び「畜産物流通統計（R5）」、加工・卸売段階は食肉加工・卸売メーカーを対象としたアンケート調査、小売段階は首都圏を商圏とする小売企業を対象としたアンケート調査等を基に推計。
- 生産段階のコストについては、「肉豚経営安定交付金算定基礎」を用いてR5年度の生産費及び副産物収入を算出し、生産費から副産物収入を控除して算出した。
- 卸売段階のコストは、卸売価格（ALIC）と生産段階からの仕入価格の差額に対して加工・卸売経費に占める各費目の割合（アンケート調査結果 R5年次）を乗じて算出した。
- 小売段階のコストは、卸売価格（ALIC）に小売段階の粗利率（37.1%）（アンケート調査結果）を乗じて粗利額を算出し、粗利額に小売企業の経営に占める各費目の割合（アンケート調査結果 R5年次）を乗じて算出した。
- 価格については、生産から加工・卸売への取引価格（89.8円）は食肉流通統計（R5年次）に基づくものであり、加工・卸売から小売への取引価格（123.8円）はALICが公表する価格（R5年度）であるが、小売から消費の小売価格は、加工・卸売から小売への取引価格（123.8円）を起点に、アンケート調査により得られた小売の粗利率（37.1%）を乗じて粗利額を算出し、これに同じくアンケート調査により得られた小売企業の経営に占める各費目の割合を乗じて算出したものであり、実際の価格ではない。

(単位) 円/枝肉159g (精肉100g換算分)			(単位) 円/部分肉111g (精肉100g換算分)			(単位) 円/精肉100g		
生産			加工・卸売（メーカー）			小売		
物財費	種付料	70.5	加工費	人件費	11.9	輸送費	人件費	6.3
	もと畜費	0.3		資材費	5.3		水道光熱費	29.6
	流通飼料費	0.0		運送費	1.3		その他の経費	4.4
	52.9			水道光熱費	1.6			30.2
	敷料費	0.4		施設等減価償却費	0.4			
	光熱水料及び動力費	3.8		その他の製造経費	0.6			
	その他の諸材料費	0.2		販売管理費	2.8			
	獣医師料及び医薬品費	4.0		物流費	17.7			
	賃借料及び料金	0.6		保管料	5.2			
	物件税及び公課諸負担	0.4		販売手数料	1.5			
	繁殖雌豚費	1.5		広告宣伝費	3.4			
	種雄豚費	0.3		人件費	0.3			
	建物費	3.4		減価償却費	4.2			
	自動車費	0.6		その他の経費	0.3			
	農機具費	1.8			2.9			
	生産管理費	0.3						
労働費	10.1							
支払利子	0.2							
支払地代	0.1							
と畜経費	4.5							
副産物収入	▲1.9							
合計	83.4		合計	29.6		合計	70.5	

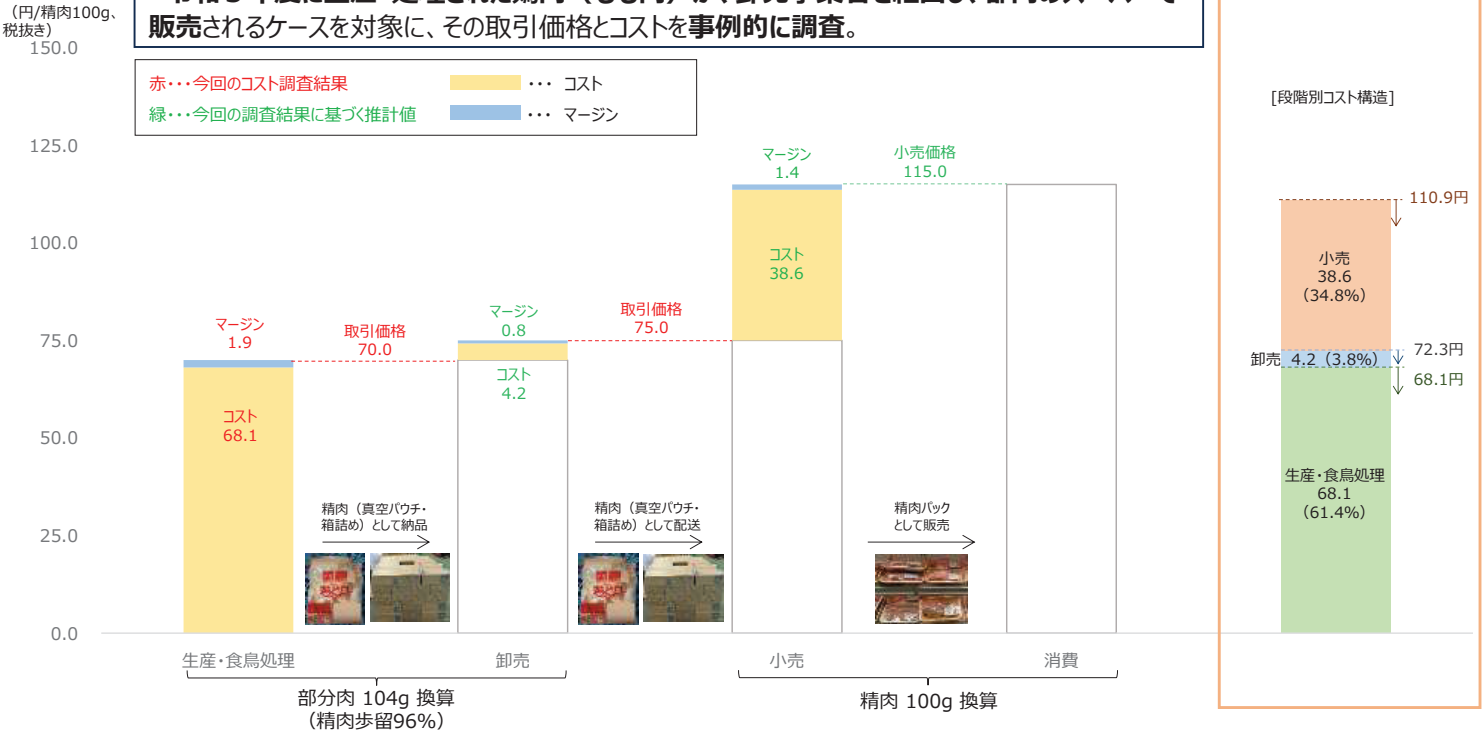
※ 四捨五入の関係で小計と内訳は必ずしも一致しない。

鶏肉のコスト調査結果

【調査の概要】

令和5年度に生産・処理された鶏肉（もも肉）が、卸売事業者を経由し、都内のスーパーで販売されるケースを対象に、その取引価格とコストを事例的に調査。

赤・・・今回のコスト調査結果
緑・・・今回の調査結果に基づく推計値
・・・コスト
・・・マージン



注1：各段階のコストの数値は、「令和5年度適正取引推進に向けた調査（コスト等に関する調査）」（農林水産省）等を基に作成。当該調査では、首都圏向けに流通するもののコスト構造を事例的に調査。
注2：生産・食鳥処理段階及び卸売段階は全国のプロイラー生産者、食鳥処理事業者及び卸売事業者を対象としたアンケート調査、小売段階は首都圏を商圏とする小売企業を対象としたアンケート調査を基にした。
注3：生産・食鳥処理－卸売の取引価格はアンケート調査結果を、卸売－小売の取引価格は「鶏肉の価格動向」（独）農畜産業振興機構の卸売価格を基にした。
注4：四捨五入の関係で、合計しても合わないことがある。

鶏肉のコスト構造の各段階内訳

【調査の概要】

令和5年度に生産・処理された鶏肉（もも肉。以下同じ。）が、卸売事業者を経由し、都内のスーパーで販売されるケースを対象に、既存の統計や企業アンケートをもとにその取引価格とコストを事例的に調査。

【留意事項】

- 鶏肉の加工の過程で生じる歩留ロスを勘案し、歩留率を用いて補正して精肉100gあたりの数値を算出した。
- 具体的には、生産・食鳥処理段階及び卸売段階は全国のプロイラー生産者、食鳥処理事業者及び食鳥卸売事業者を、小売段階は首都圏を商圏とする小売企業を対象としたアンケート調査を基に推計。（集計対象：生産7者、食鳥処理8者、食鳥卸売3者、小売3者）
- 生産費については、1羽あたりの生産費に1羽あたりの販売額に占めるももの販売額の割合を乗じて生産費を算出し、1羽あたりの生産費に占める各費目の割合を乗じて算出した。食鳥処理費は、ももの販売価格と生産費の差額に対して1羽あたりの食鳥処理費に占める各費目の割合を乗じて算出した。（いずれもアンケート調査結果）
- 卸売段階のコストは、卸売価格（（独）農畜産業振興機構）と生産・食鳥処理段階からの仕入価格（アンケート調査結果）の差額に対して卸売経費に占める各費目の割合（アンケート調査結果）を乗じて算出した。
- 小売段階のコストは、卸売価格（（独）農畜産業振興機構）に小売段階の粗利率（34.8%）（アンケート調査結果）を乗じて粗利額を算出し、粗利額に小売企業の経営に占める各費目の割合（アンケート調査結果）を乗じて算出した。
- 価格については、生産・食鳥処理から卸売への取引価格（70円）はアンケート調査に基づくものであり、卸売から小売への取引価格（75円）は（独）農畜産業振興機構が公表する価格であるが、小売から消費の小売価格は、卸売から小売への取引価格（75円）を起点に、アンケート調査により得られた小売の粗利率（34.8%）を乗じて粗利額を算出し、これに同じくアンケート調査により得られた小売企業の経営に占める各費目の割合を乗じて算出したものであり、実際の価格ではない。

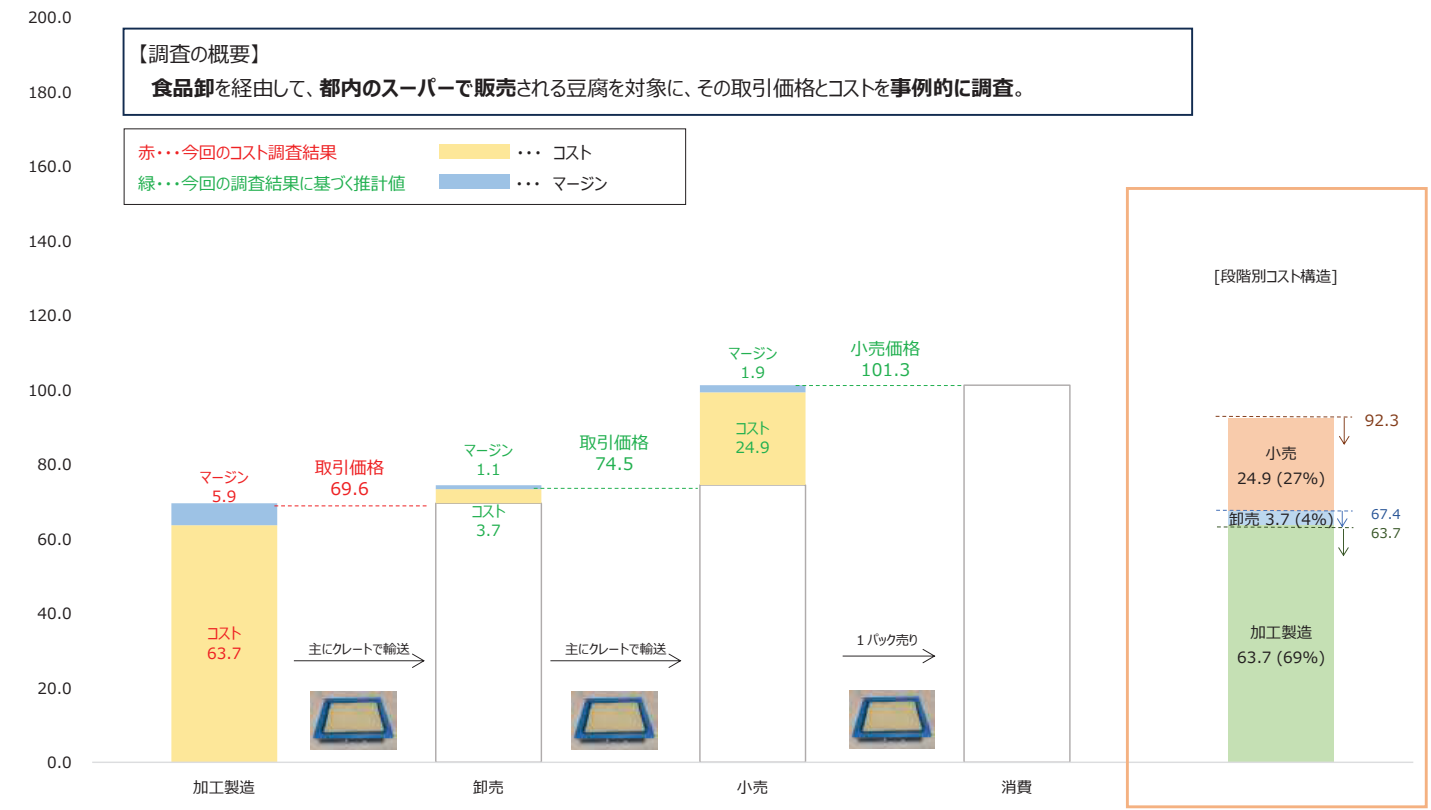
生産・食鳥処理				卸売		小売	
生産費				製造経費		輸送費	
初生ひな代	55.0	食鳥処理費	13.1	人件費	1.0	人件費	3.5
飼料費	6.6	処理製造経費	11.1	資材費	0.7	水道光熱費	16.2
人件費	31.9	捕鳥・懸鳥費	0.2	運送費	0.0	水道光熱費	2.4
作業委託費	2.4	人件費	4.9	保管料	0.0	その他の経費	16.5
衛生防疫費	2.4	資材費	1.9	水道光熱費	0.1		
水道光熱費	0.5	運送費	0.0	施設等減価償却費	0.1		
燃料費	1.5	保管料	0.1	賃料等	0.0		
敷料その他雑費	0.9	水道光熱費	0.8	その他製造経費	0.1		
運搬費	0.4	施設等減価償却費	1.0	販売管理費	3.3		
減価償却費	1.2	賃料等	0.0	物流費	1.3		
支払利息	2.1	その他製造経費	2.1	保管料	0.1		
修繕費	0.0	販売管理費	2.1	販売手数料	0.5		
保険料等	0.5	物流費	0.8	広告・宣伝費	0.0		
賃料料金	0.2	保管料	0.1	人件費	0.7		
租税公課	0.4	販売手数料	0.0	減価償却費	0.1		
一般管理費	0.2	広告・宣伝費	0.0	賃料等	0.1		
その他	0.5	人件費	0.7	水道光熱費	0.1		
	3.3	減価償却費	0.0	その他の経費	0.3		
		賃料等	0.0				
		水道光熱費	0.0				
		その他の経費	0.4				
合計	68.1	合計	4.2	合計	38.6		

※ 四捨五入の関係で小計と内訳は必ずしも一致しない。

豆腐・納豆

豆腐のコスト調査結果

(円/1P(300g))



資料：各段階のコストの数値は、「令和5年度適正取引推進に向けた調査（コスト等に関する調査）」（農林水産省委託事業）を基に作成。当該調査では、首都圏向けに流通するもののコスト構造を事例的に調査。
注1：製造段階は豆腐製造業者を対象としたアンケート調査、卸売段階は首都圏を商圏とする食品卸事業者のIR情報から低温食品のコスト・マージンを推計、小売段階は都内を商圏とする小売事業者を対象としたアンケート調査結果を基にコスト・マージンを推計した。
注2：四捨五入の関係で、合計しても合わないことがある。
注3：取引価格、コストの集計に一部誤りがあったため修正（令和7年12月）

豆腐のコスト構造の各段階内訳

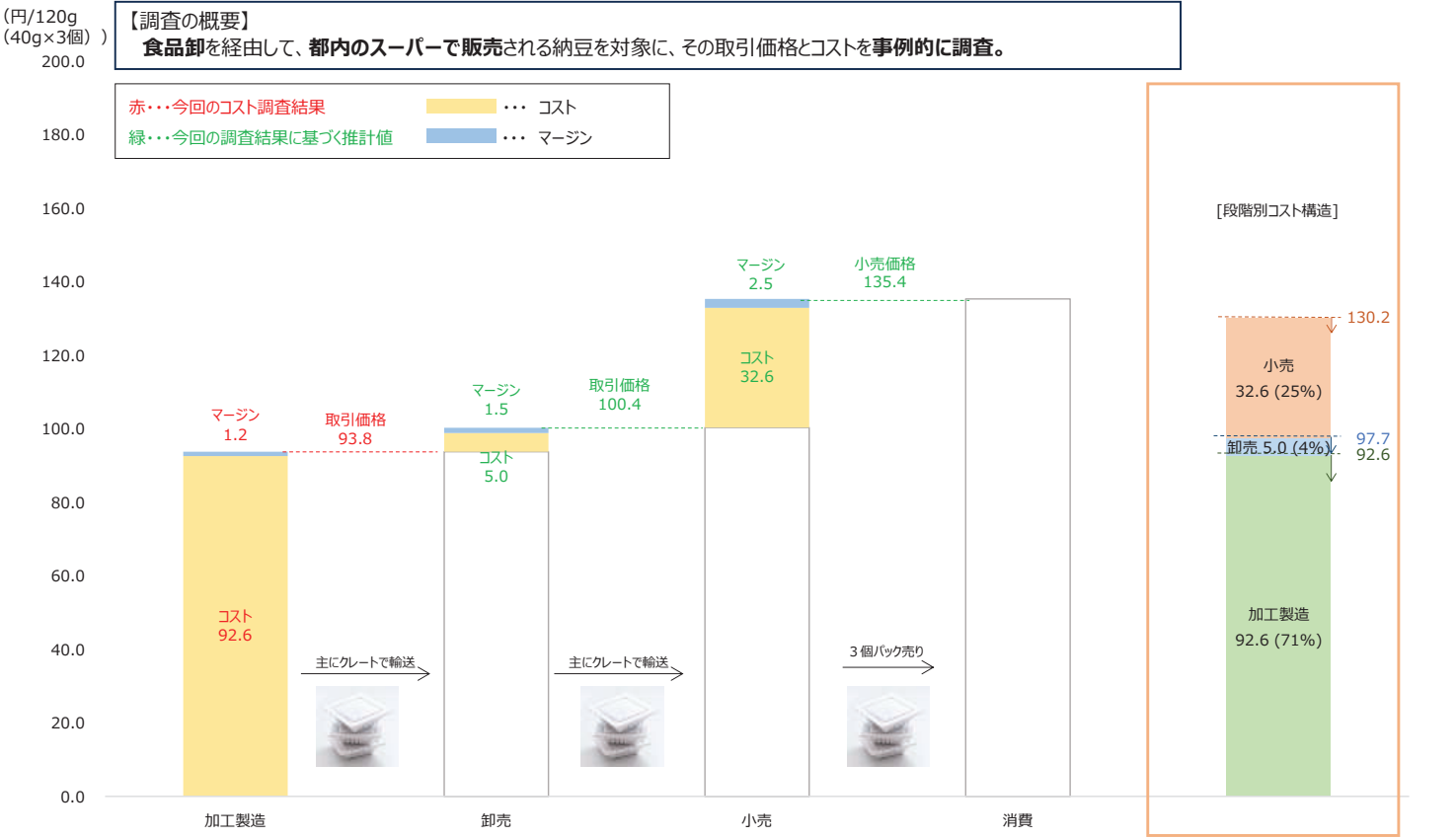
- 【調査の概要】
- 食品卸を経由して、都内のスーパーで販売される豆腐を対象に、その取引価格とコストを事例的に調査。
- 【留意事項】
- 製造段階は豆腐製造業者を対象としたアンケート調査、卸売段階は首都圏を商圏とする食品卸事業者のIR情報から低温食品のコスト・マージンを推計、小売段階は都内を商圏とする小売事業者を対象としたアンケート調査結果を基にコスト・マージンを推計した。

(単位) 円/1P(300g)

加工製造		卸売		小売	
製造原価(比例費)	27.5	物流費	1.9	輸送費	2.3
うち原材料費	13.3	人件費	1.0	人件費	11.1
副材料費	2.5	その他の経費	0.9	水道光熱費	1.4
包装材料費	5.7			その他の経費	10.1
燃料費	2.7				
電力費	1.8				
水道費	0.5				
その他製造（比例）費	1.1				
製造原価(固定費)	12.2				
うち人件費	6.2				
減価償却費	2.4				
修繕費	0.8				
一般経費	1.2				
その他製造（固定）費	1.6				
販売管理費(比例費)	17.4				
うち物流費	13.3				
物流加工費	0.6				
販売手数料	1.4				
広告宣伝費	0.2				
販売促進費	1.9				
販売管理費(固定費)	6.6				
うち人件費	4.5				
減価償却費	0.1				
一般経費	0.3				
その他販売管理(固定)費	1.7				
合計	63.7	合計	3.7	合計	24.9

※ 四捨五入の関係で小計と内訳は必ずしも一致しない。

納豆のコスト調査結果



納豆のコスト構造の各段階内訳

- 【調査の概要】
- 食品卸を経由して、都内のスーパーで販売される納豆を対象に、その取引価格とコストを事例的に調査。
- 【留意事項】
- 製造段階は納豆製造業者を対象としたアンケート調査、卸売段階は首都圏を商圏とする食品卸事業者のIR情報から低温食品のコスト・マージンを推計、小売段階は都内を商圏とする小売事業者を対象としたアンケート調査結果を基にコスト・マージンを推計した。

(単位) 円/120 (40g×3個)						
加工製造			卸売		小売	
製造原価(比例費)		33.1	物流費	2.5	輸送費	3.1
	原材料費	23.8	人件費	1.4	人件費	14.5
	副材料費	0.0	その他の経費	1.2	水道光熱費	1.9
	タレ・カラシ費	2.6			その他の経費	13.2
	包装材料費	5.0				
	燃料費	0.5				
	電力費	1.0				
	水道費	0.2				
	その他製造（比例）費	0.0				
	製造原価(固定費)	27.2				
	人件費	18.5				
	減価償却費	4.5				
	修繕費	2.0				
	一般経費	1.6				
	その他製造（固定）費	0.7				
販売管理費(比例費)		17.7				
	物流費	14.5				
	物流加工費	0.1				
	販売手数料	3.0				
	広告宣伝費	0.2				
	販売促進費	0.0				
販売管理費(固定費)		14.5				
	人件費	9.2				
	減価償却費	1.2				
	一般経費	4.1				
合計		92.6	合計	5.0	合計	32.6

※ 四捨五入の関係で小計と内訳は必ずしも一致しない。